

地域福祉に関する市民意識調査 報告書

令和7年3月

周 南 市

目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	2
II	調査結果の総括.....	3
III	調査結果.....	5
1	市民アンケート調査結果.....	5
■	調査のまとめ.....	5
(1)	回答者属性.....	9
(2)	住まいの地域での生活について.....	12
(3)	地域福祉（住民による身近な支え合い）について.....	24
(4)	社会福祉協議会、民生委員・児童委員について.....	50
(5)	再犯防止の取り組みについて.....	53
(6)	成年後見制度について.....	56
(7)	周南市地域福祉計画の策定について.....	63
2	高校生・大学生アンケート調査結果.....	64
■	調査のまとめ.....	64
(1)	回答者属性.....	65
(2)	住まいの地域での生活について.....	67
(3)	地域福祉（住民による身近な支え合い）について.....	72
3	関係団体調査結果.....	80
■	調査のまとめ.....	80
4	相談支援機関調査結果.....	89
■	調査のまとめ.....	89

I 調査の概要

1 調査目的

「第5次周南市地域福祉計画」の策定にあたり、住民の生活実態や福祉施策に対する考え方、福祉ニーズ等の把握を行い、次期計画に反映させるため調査を実施しました。

2 調査対象

市 民 : 市内在住の18歳以上の市民 … 3,500人
高校生・大学生 : 市内の高校生及び大学生 … 1,000人
関係団体 : 市内の地域福祉に関わる団体 … 20団体
相談支援機関 : 市内の相談支援等を行っている機関等・事業所等 … 21団体及び市役所の各相談にあたる窓口

3 調査期間

市民、高校生・大学生 : 令和6年12月6日から令和7年1月10日までの間
関係団体、相談支援機関 : 令和7年1月23日から令和7年2月7日までの間

4 調査方法

市 民 : 郵送により調査票を配付／郵送及びインターネットによる回答
高校生・大学生 : 学校経由で調査票を配付／インターネットによる回答
関係団体 : 郵送により調査票を配付／郵送による回答
相談支援機関 : 郵送により調査票を配付／郵送による回答

5 回収状況

区分	発送数	回答数	有効回答率
市民	3,500通	1,260通	36.0%
高校生・大学生	1,000通	395通	39.5%
関係団体	20通	14通	70.0%
相談支援機関	21通	13通	61.9%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

Ⅱ 調査結果の総括(調査結果から抽出された様々な課題)

(1) 地域のつながりや活動状況における課題

市民アンケートからは、近所の人との付き合いについて「顔が合えばあいさつをしている」人が多いなど、関係があまり密ではないことがうかがえ、若い年代ほど付き合いが希薄な傾向にあります。

地域の行事や活動への参加状況は、年齢が若くなるほど「全く参加していない」人が多くなる傾向があり、学生アンケートにおいても地域の行事や活動へ参加していない人が約6割となっています。

参加しない理由として「仕事や家事が忙しいから」「関心がないから」が多く挙げられていますが、一方で、10歳代・20歳代、学生では「行事、活動の情報がないから」という理由も多いことから、何らかの機会や適切な情報があれば、地域活動への参加割合が増加する可能性があります。

一方で、地域福祉を進めていくために、住民一人一人が取り組むべきこととして「普段から身近な近所付き合いや助け合いを行う」ことが最も多くなっており、地域のつながりの希薄化が進んでいるものの、地域のつながりの必要性を多くの市民が認識していることがうかがえ、自分が暮らす地域への関心を持ち、住民同士が支え合う地域づくりを働きかけていくことが必要です。

(2) 地域の困りごとや生活上の課題

市民アンケートからは、自分自身や身近な人の日常生活の困りごととして、交通手段に関するものが多く、次いで災害時の備えに関することが挙げられています。

関係団体アンケートからは、地域で寄せられる日常の困りごととして、高齢者の介護や移動支援の不足、障害者の災害対応や日常の支援などが挙げられており、子どもの貧困等の家族支援の課題、社会的孤立や引きこもりなどの複合的な困りごともあり、包括的な相談窓口の周知や情報共有の難しさといった意見も挙げられました。

相談支援機関アンケートからも、最近の相談内容や支援対象者の傾向について「対象者だけではなく、世帯全体への支援の必要なケースが増えている」、「地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている」、「分野をまたがる複合的な福祉課題を抱える個人や世帯が増えている」が多く、「制度の狭間」や「複合的課題」といった福祉課題を抱えた人や家庭が増えてきていることがうかがえます。

また、市民アンケートからは、困った時の相談先については、「家族・親族」や「知人・友人」が多いが、一方で、「相談しない」と回答した人の中には、その理由として、「相談できる人がいないから」「誰に相談したらいいかわからないから」を挙げた人も多くあり、相談意向があるにもかかわらず相談につながっていないケースも見受けられます。

こうした中、関係団体アンケートからは、地域課題に対して行政が取り組むべきこととして、住民が抱える問題に適切に対応できる相談窓口の分かりやすい情報提供、部局間の連携強化などが求められており、増加する複合的な課題への対応力向上と相談窓口の連携強化による包括的な支援体制の充実が必要です。

（３）支援の担い手に関する課題

関係団体アンケートからは、地域課題に取り組む担い手を増やすためには、自治会が主体的に地域の課題を自分ごととして捉える意識を高めたり、世代を超えた交流を促進するなど、地域住民が共通の課題に向き合い、お互いを支え合う仕組みづくりが必要とされていることがうかがえます。また、民生委員・児童委員や社会福祉協議会などと、幅広く連携をしている団体は多いものの、「人材の多重負担」や「高齢者の増加」が課題となっている、という意見も挙げられています。

市民アンケートにおいても、民生委員・児童委員の担い手を増やすために必要なこととして、「活動の負担軽減」「制度や活動の広報周知による地域理解の促進」「自治会、コミュニティ等との連携強化」が多く挙げられています。

地域活動の担い手が高齢化、固定化しているなか、福祉や地域活動の担い手育成や確保等が引き続き課題となります。

（４）様々な取り組みの周知に係る課題

市民アンケートからは、再犯防止の取り組みや成年後見制度について、知らない人の方が多い状況となっていることがうかがえます。また、社会福祉協議会の活動の認知が進んでいないこともうかがえます。市民の避難行動要支援者支援制度の認知状況においては１割に満たない状況です。

市民の福祉に関する情報の入手手段は、「市広報や回覧板」が主な入手手段となっていますが、50歳以下ではインターネット等電子媒体が、60歳以上では広報等紙媒体が多くなる傾向があり、年齢層によって異なっていることが確認できます。また、自治会等の地域の役員や知人・友人・職場の同僚など、人づてに情報を入手している市民も見受けられ、情報の入手手段が多様化しています。

こうした各年代の情報入手手段やニーズを踏まえ、各種取組の周知を図ることが求められます。

Ⅲ 調査結果

1 市民アンケート調査結果

■調査のまとめ

○ 地域のつながりについて

近所の人との関係について、「顔があえばあいさつをしている」人が最も多く、「ほとんど付き合いがない」人も1割程度となっており、近所の人との関係があまり密ではないことがうかがえます。また、年齢別にみると、若い年代ほど近所との付き合いが希薄な傾向にあります。一方で、地域福祉を進めていくために、住民一人一人が取り組むべきこととして「普段から身近な近所付き合いや助け合いを行う」が最も多くなっており、地域のつながりの希薄化が進んでいるものの、地域のつながりの必要性を多くの市民が認識していることがうかがえます。

だれもが安心して暮らすことができるよう、自分が暮らす地域への関心を持ち、住民同士が支え合う地域づくりを支援していくことが必要です。

○ 地域の支え合いについて

近所での助け合いについて、現在「手助けをしている」と回答した人は1割未満となっていますが、4割近くの市民が「安否確認の声かけ、話し相手」や「ちょっとした電球の取り替えや買い物、ゴミ出しなど」について、「手助けできる」と回答しており、地域に住民同士の支え合いの意識が存在していることがうかがえます。

多くの人が地域で助け合える関係になるためには、まずは一人一人が周囲を気にかけて、見守り、気づき、声を掛け合うことが大切です。

○ 地域活動に対する状況

自治会等の地域の団体に加入している市民は、8割程度となっています。また、地域の行事や活動への参加状況は、10歳代・20歳代で「全く参加していない」人が最多ですが、30歳代以降では参加意向が増加傾向にあります。参加しない理由として「仕事や家事が忙しいから」「関心がないから」が多く挙げられており、また、10歳代・20歳代では「行事、活動の情報がないから」が多く挙げられていることから、何らかの機会や適切な情報があれば、地域活動への参加割合が増加する可能性があります。

住民同士が協力して地域づくりを進めるために必要な行政の支援について「地域の人々が知り合う機会を増やす」が3割半ばで最も多く、地域における生活課題等を地域で解決できるように、地域で活動を行う団体の活性化や活動支援が必要です。また、住民の自発性に基づき、その意欲・能力や状況に応じて主体的な関わりを促進する取組が必要です。

○ 悩みや困りごと、相談の状況

自分自身や身近な人の日常生活の困りごととして、交通手段に関するものが多く、次いで災害時の備えに関することが挙げられています。困った時の相談先としては、親族や知人の割合が大半を占めていますが、年齢が上がるにつれて「近所の人」が多くなっている一方、年齢が下がるにつれて「知人、友人」が多くなっています。「相談しない」とした回答の中には、「相談できる人がいない」「誰に相談したらいいかわからない」を挙げた人もおり、相談意向があるにもかかわらず相談につながっていないケースも見受けられます。

また、社会的孤立やひきこもりの状態にある方がいる世帯に必要な支援をたずねたところ、「就労に関する支援」について、「親身に話を聴く」「無料で相談することができる」「匿名で相談することができる」といった相談支援を回答しているほか、優先させるべき地域福祉の課題として「身近なところでの総合的な保健、福祉、医療相談窓口の充実」が多く挙げられていることから、市民の相談に関するニーズが高いことがうかがえます。

適切に相談につながらずに孤立してしまうケースや、相談先がわからずに状態が深刻化してしまうケース等もあり、問題が発見された場合に適切な相談先につなげる仕組みや、より円滑で包括的な支援体制の整備を進めていくことが必要です。

○ 要支援者をめぐる状況

家族の介護や支援等をしている方にとって必要な支援について、「介護者・支援者が自身のことについて相談できる場所の提供」「支援や介護を代行するサービスの提供」「支援が必要な人本人について相談できる場所の提供」が多く挙げられています。

また、家族に社会的孤立やひきこもりの状態にある人の有無について、4.4%の人が「いる」と回答しています。このうち 30 歳代～50 歳代が半数近くを占め、ひきこもりの期間は5年以上が 48.2%となっています。

社会的孤立やひきこもりといった問題に対して地域としてできることとして、「あいさつや声かけ」「誰もが立ち寄れる居場所づくり」「相談機関等の情報提供」が多く挙げられています。

相談窓口や福祉サービスの充実を図るとともに、ひきこもり家庭などの潜在的な課題を抱える世帯に対するアウトリーチ等によるアプローチが必要です。

○ 災害への意識や支援制度の認知状況

災害時の避難について不安に感じることとして、「避難所での生活」や「避難するタイミング」が上位となっています。10 歳代・20 歳代や 80 歳以上では「避難場所への速やかな移動」の割合が高くなっていますが、市民の避難行動要支援者支援制度の認知状況は 1 割に満たない状況です。

制度を必要とする人に、制度の周知が進んでいない状況がうかがえますが、一方で、災害時に住民同士が協力し合えるために、平常時から必要なことについて、「支援が必要な人それぞれの支援計画を地域の人みんなで考えること」が最も多くなっていることから、制度の周知を含めた支援体制の強化が必要です。

○ 福祉情報に対する意識

地域行事や福祉に関する情報の入手手段は、「市広報や回覧板」が主な入手手段となっていますが、50歳以下でインターネット等電子媒体が、60歳以上では広報等紙媒体が多くなる傾向があり、年齢層によって異なっていることが確認できます。また、自治会等の地域の役員や知人・友人・職場の同僚など、人づてに情報を入手している市民も見受けられ、情報の入手手段が多様化しています。

また、優先して取り組むべき地域福祉の課題として「福祉に関する情報、活動内容などの提供」が最も多く、子どもから高齢者まで支援を必要とする人に必要な情報が届くよう、身近な生活の場や情報技術を活かした情報提供の充実とともに、各年代の情報入手手段やニーズに応じた情報提供の充実を図ることが必要です。

○ 社会福祉協議会について

社会福祉協議会の認知状況は、5割以上の市民が「名称は知っているが、活動内容は知らない」と回答しており、令和元年度調査時から活動の認知が進んでいないことがうかがえます。

また、今後充実してほしい活動として、「日常生活の見守り活動」「地域の居場所作りの支援」「総合的な相談窓口」が多く挙げられています。

○ 民生委員・児童委員について

民生委員・児童委員の認知状況は、3割半ばの市民が「名称や活動内容を知っている」と回答しており、令和元年度調査時から認知度が向上していることがうかがえます。

一方、「名称や活動内容を知っている」市民に自分の地区を担当している民生委員・児童委員を知っているかたずねたところ、4割程度の市民が「氏名は知っているが、活動内容は知らない」「全く知らない」と回答しています。

また、民生委員・児童委員の担い手を増やすために必要なこととして、「活動の負担軽減」「制度や活動の広報周知による地域理解の促進」「自治会、コミュニティ等との連携強化」が多く挙げられています。

地域活動の担い手は高齢化、固定化しており、その負担感も増加しています。支援を必要とする人は増加する傾向にあり、個人・世帯が抱える課題は複雑化していることから、福祉や地域活動の担い手育成や確保等が必要です。

○ 再犯防止の認知状況

再犯防止の取り組みについて、知っている市民の割合は1割半ば程度と、知らない人の方が多い状況となっています。また、再犯防止のために協力したいことについて、5割以上の市民がわからないと回答しています。

過去に罪を犯した人たちが社会復帰するためには、孤立することなく再び地域社会の一員として生活していけるよう社会全体で支援していくことが重要です。犯罪をした人たちの更生について理解を深め、安全・安心な地域社会を築くために、市民に対する周知・啓発の充実が必要です。

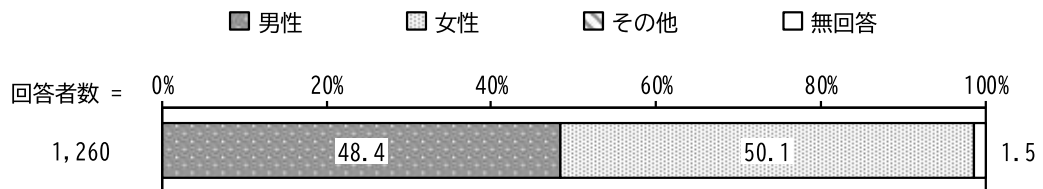
○ 成年後見制度の認知状況

成年後見制度について、知っている市民の割合は2割半ば程度と、知らない人の方が多い状況となっています。また、成年後見制度の利用の促進に向けた課題として、「成年後見制度やその手続きについて知る機会がないこと」「成年後見制度が分かりにくいこと」「相談窓口や手続きを支援してくれるところがわからないこと」が多く挙げられており、成年後見制度や日常生活自立支援事業の推進のもと、各種制度について引き続き周知・啓発を進めていく必要があります。

(1) 回答者属性

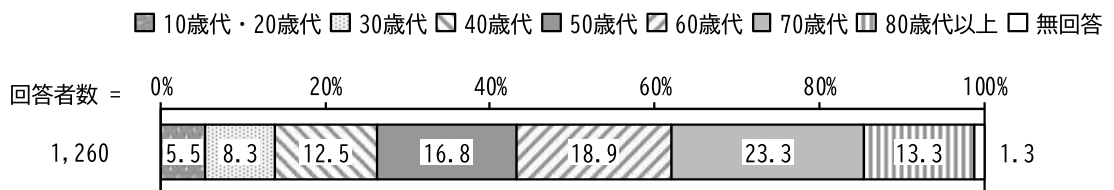
問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

「男性」の割合が48.4%、「女性」の割合が50.1%となっています。



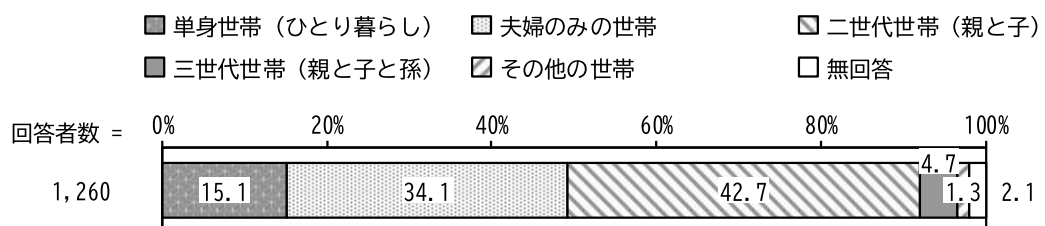
問2 あなたの令和6年11月1日現在の年齢はどれにあてはまりますか。(○は1つ)

「70 歳代」の割合が23.3%と最も高く、次いで「60 歳代」の割合が18.9%、「50 歳代」の割合が16.8%となっています。



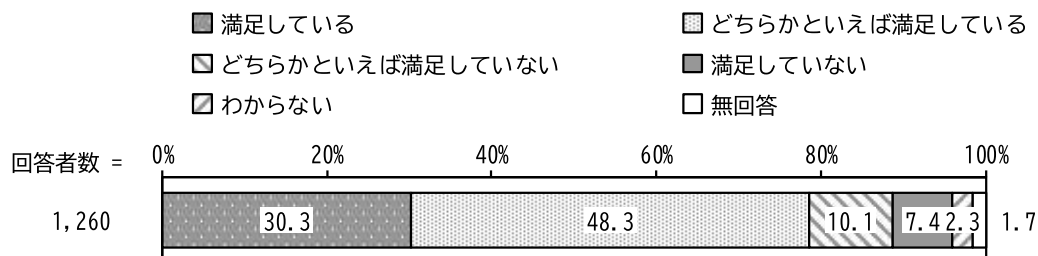
問3 あなたの世帯の家族構成を教えてください。(○は1つ)

「二世帯世帯（親と子）」の割合が42.7%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」の割合が34.1%、「単身世帯（ひとり暮らし）」の割合が15.1%となっています。



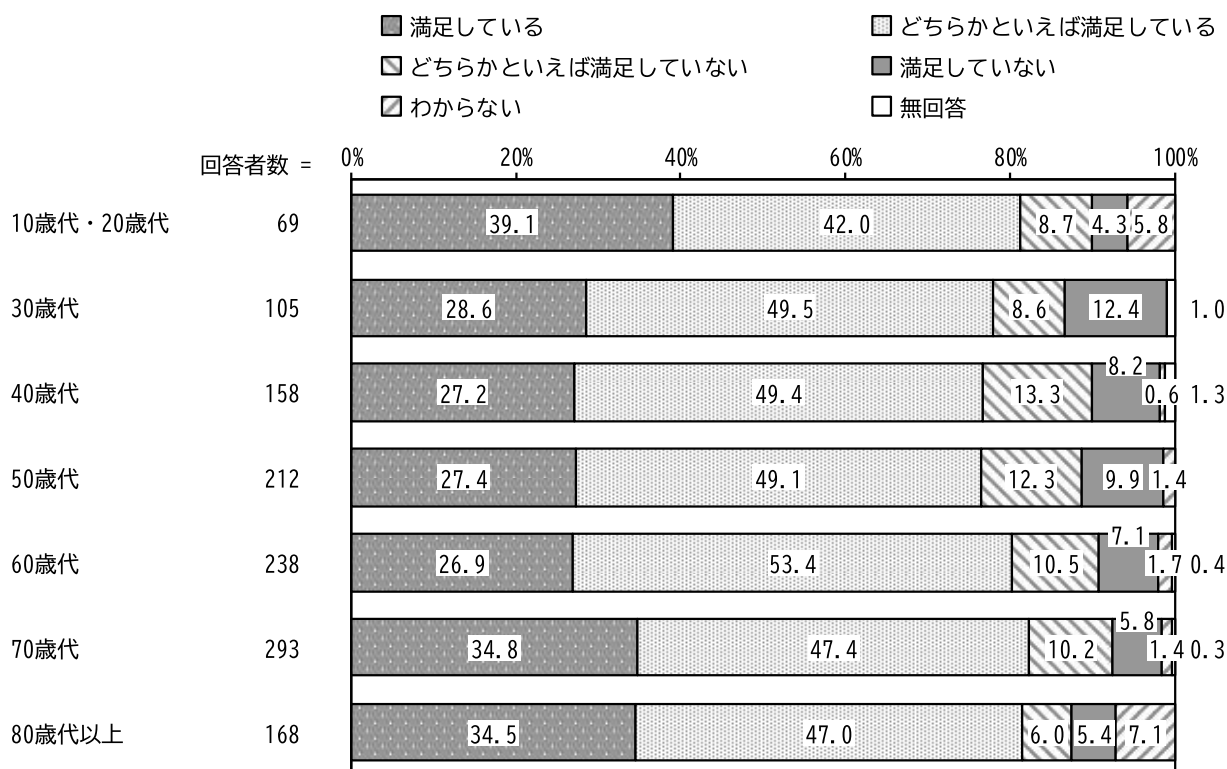
問4 あなたは、今の暮らしに満足していますか。(○は1つ)

「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた“満足している”の割合が78.6%、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせた“満足していない”の割合が17.5%となっています。



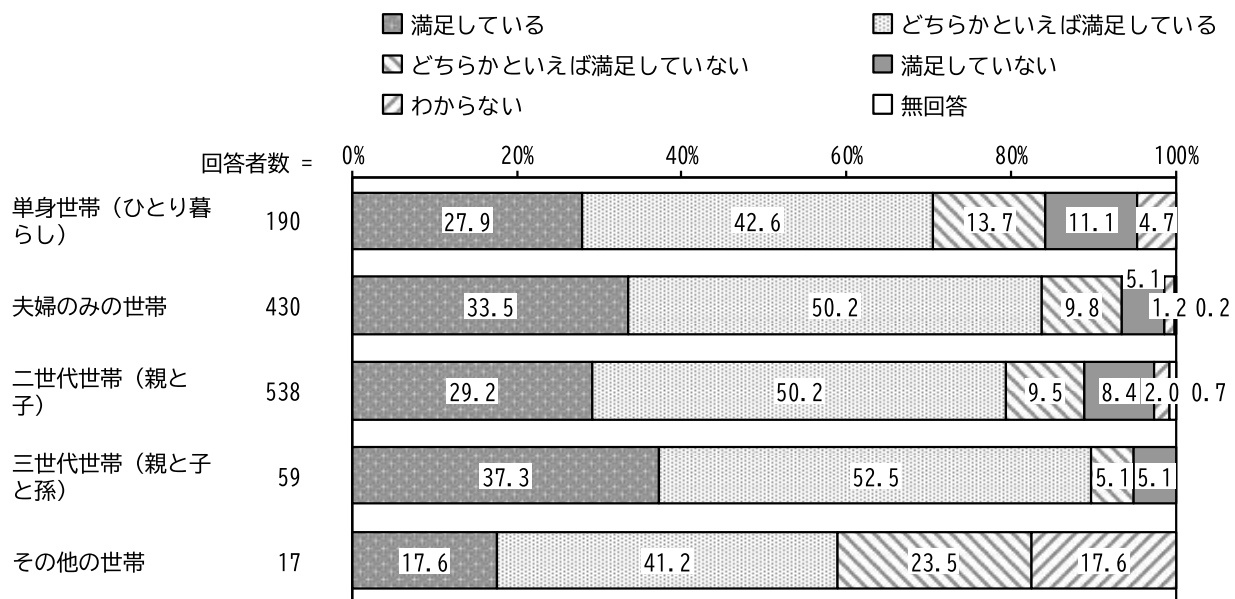
【年齢別】

年齢別にみると、10歳代・20歳代と高齢層（70歳代以上）で“満足している”の割合が高くなっています。



【世帯構成別】

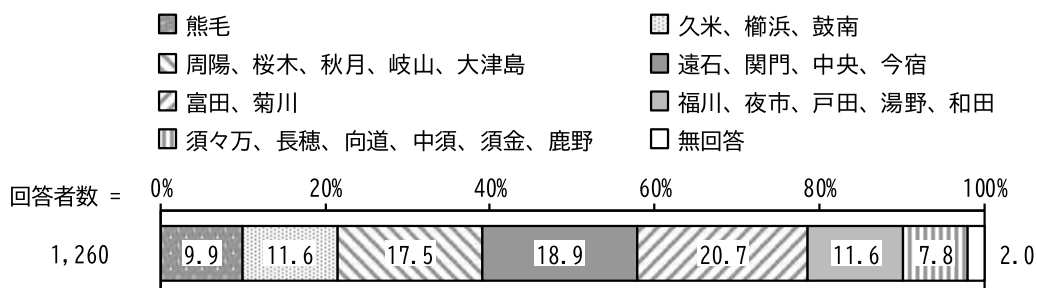
世帯構成別にみると、三世代世帯（親と子と孫）で“満足している”の割合が高くなっています。一方、単身世帯（ひとり暮らし）で“満足していない”の割合が高くなっています。



(2) 住まいの地域での生活について

問5 あなたがお住まいの地域は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

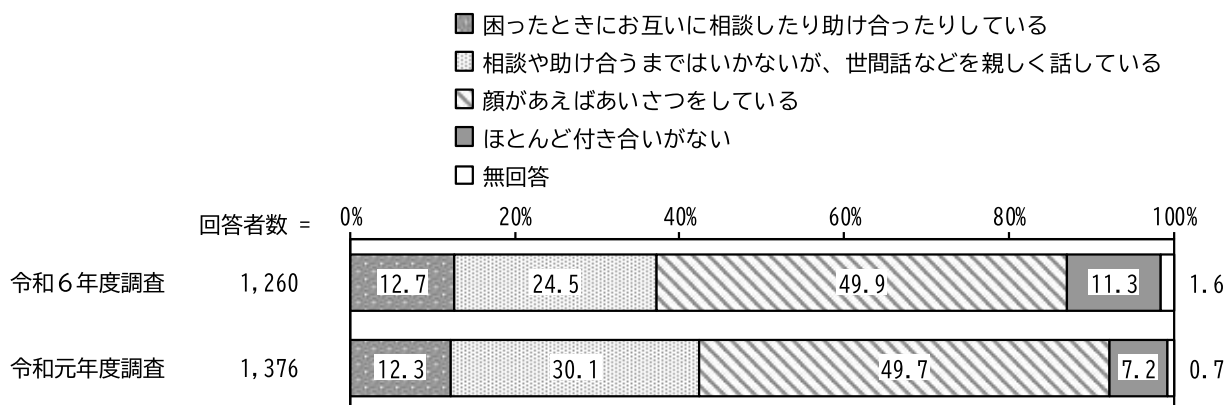
「富田、菊川」の割合が 20.7%と最も高く、次いで「遠石、関門、中央、今宿」の割合が 18.9%、「周陽、桜木、秋月、岐山、大津島」の割合が 17.5%となっています。



問6 ご近所の方とは、どの程度お付き合いしていますか。(○は1つ)

「顔があえばあいさつをしている」の割合が 49.9%と最も高く、次いで「相談や助け合うまではいかないが、世間話などを親しく話している」の割合が 24.5%、「困ったときにお互いに相談したり助け合ったりしている」の割合が 12.7%となっています。

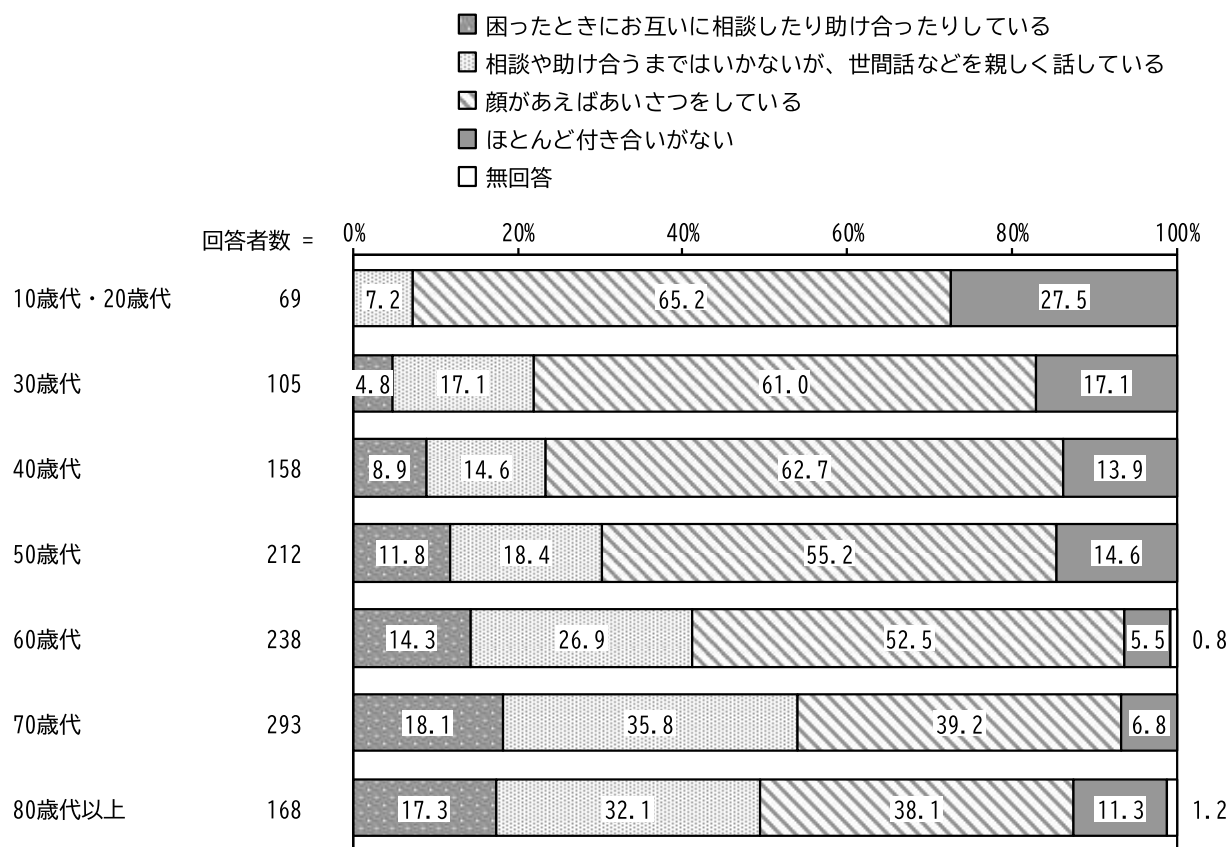
令和元年度調査と比較すると、「相談や助け合うまではいかないが、世間話などを親しく話している」の割合が 5.6 ポイント減少しています。



※前回調査では、「相談や助け合うまではいかないが、世間話などを親しく話している」が「助け合っている」、「相談や助け合うまではいかないが、世間話などを親しく話している」が「親しく話している」、「顔があえばあいさつをしている」が「あいさつをしている」、「ほとんど付き合いがない」が「付き合いがない」となっていました。

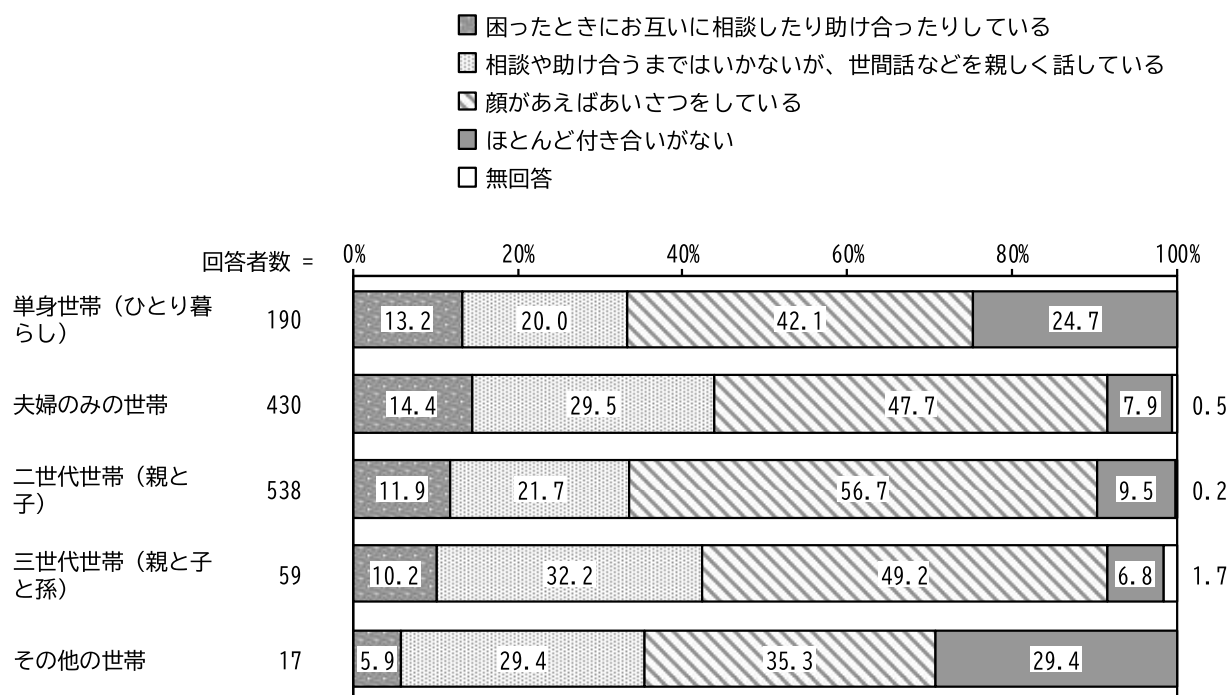
【年齢別】

年齢別にみると、10 歳代・20 歳代で「ほとんど付き合いがない」の割合が高く、年齢が上がるにつれて「困ったときにお互いに相談したり助け合ったりしている」「相談や助け合うまではいかないが、世間話などを親しく話している」の割合が高くなる傾向にあります。



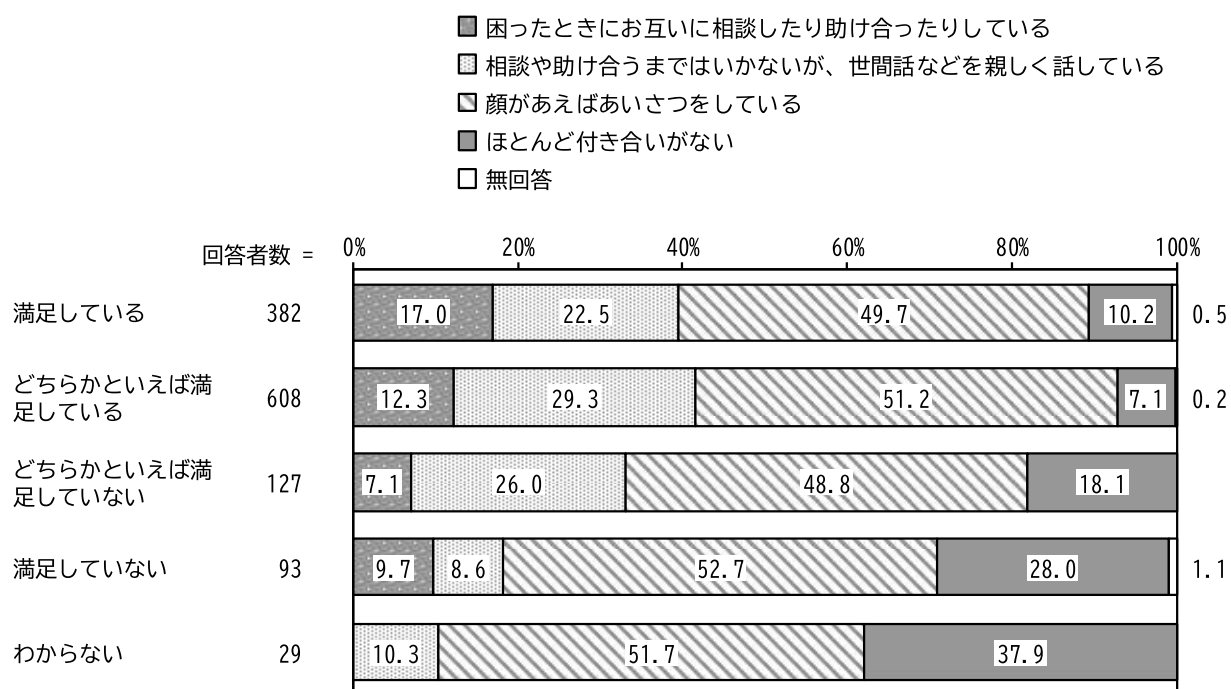
【世帯構成別】

世帯構成別にみると、単身世帯（ひとり暮らし）とその他の世帯で「ほとんど付き合いがない」の割合が高くなっています。



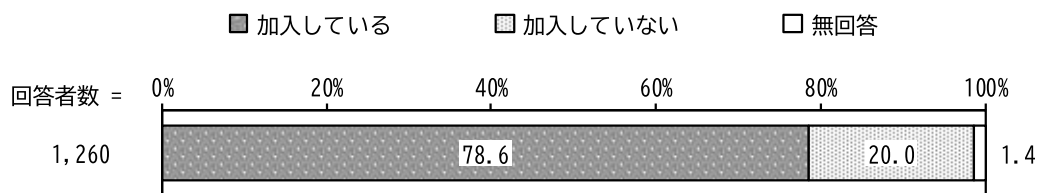
【暮らしの満足度別】

暮らしの満足度別にみると、満足度が低くなるほど「ほとんど付き合いがない」の割合が高くなる傾向にあります。



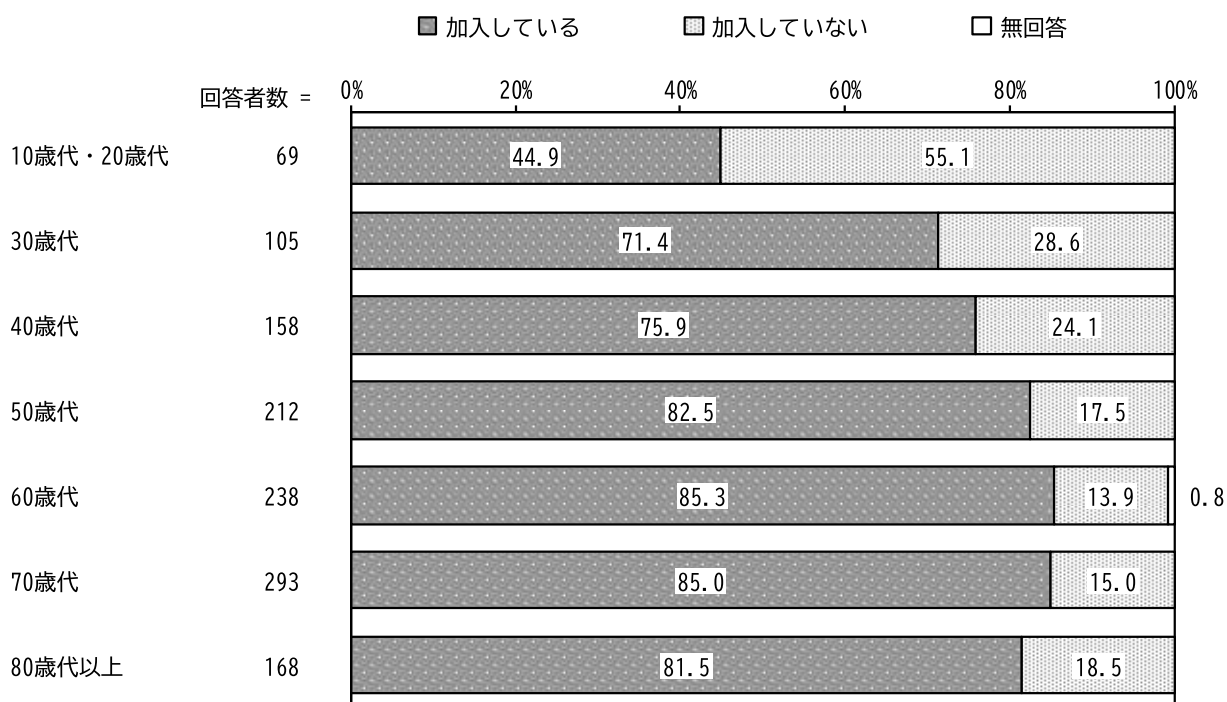
問7 自治会等の地域の団体に加入していますか。(○は1つ)

「加入している」の割合が78.6%、「加入していない」の割合が20.0%となっています。



【年齢別】

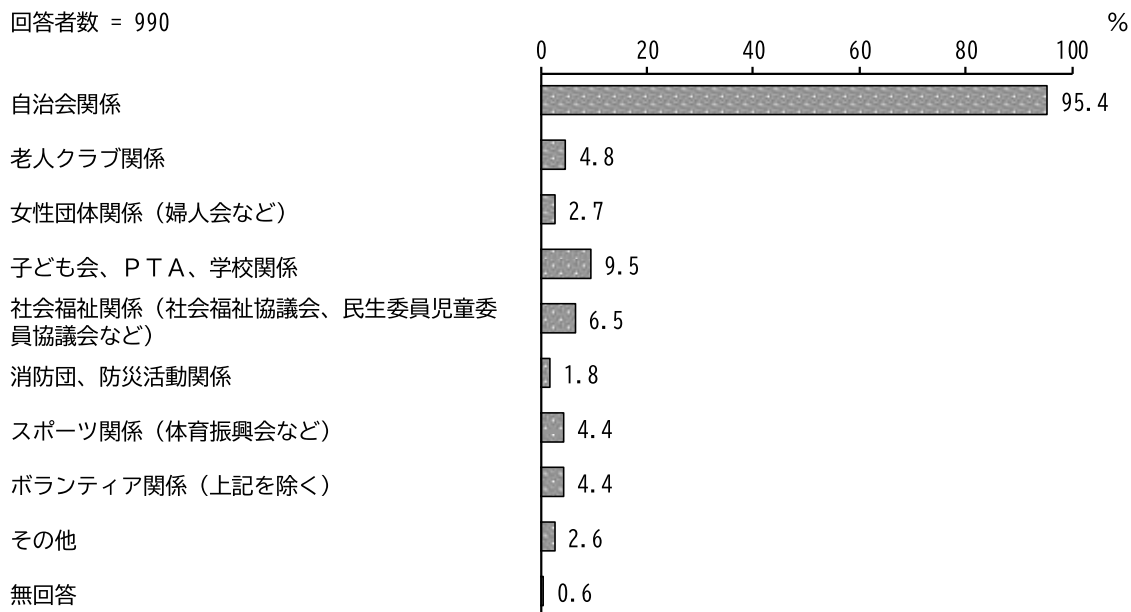
年齢別にみると、10歳代・20歳代で「加入していない」の割合が高くなっています。



問8 加入している団体はどのようなものですか。(〇はいくつでも)

「自治会関係」の割合が95.4%と最も高く、次いで「子ども会、PTA、学校関係」の割合が9.5%、「社会福祉関係（社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会など）」の割合が6.5%となっています。

回答者数 = 990



【年齢別】

年齢別にみると、40歳代以下で「女性団体関係（婦人会など）」、「社会福祉関係（社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会など）」の回答がありませんでした。また、40歳代で「子ども会、PTA、学校関係」の割合が高くなっています。

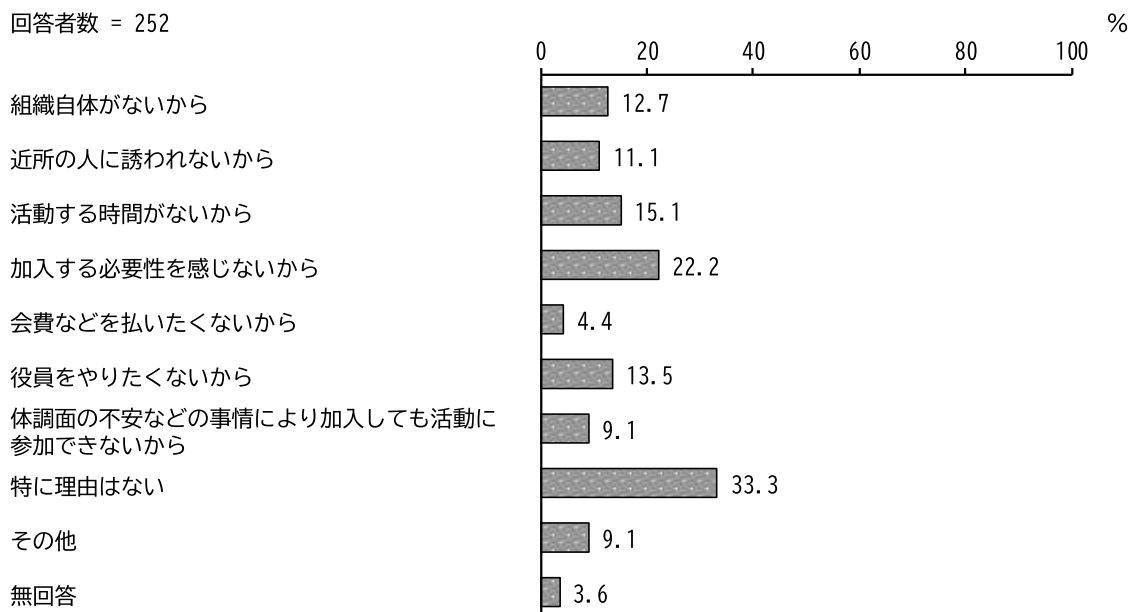
単位：％

区分	件数 (件)	自治会関係	老人クラブ関係	女性団体関係 (婦人会など)	子ども会、PTA、学校関係	社会福祉関係 (社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会など)	消防団、防災活動関係	スポーツ関係 (体育振興会など)	ボランティア関係 (上記を除く)	その他	無回答
全 体	990	95.4	4.8	2.7	9.5	6.5	1.8	4.4	4.4	2.6	0.6
10歳代・20歳代	31	100.0	—	—	3.2	—	—	—	—	—	—
30歳代	75	97.3	—	—	24.0	—	—	1.3	2.7	—	1.3
40歳代	120	95.8	—	—	40.0	—	3.3	3.3	1.7	0.8	—
50歳代	175	98.9	—	0.6	6.3	1.7	1.1	3.4	1.7	1.1	—
60歳代	203	96.6	1.5	2.0	3.4	5.9	3.0	4.9	5.4	3.9	1.0
70歳代	249	93.2	10.4	6.0	2.8	14.9	2.0	6.0	8.4	4.4	0.8
80歳代以上	137	90.5	13.9	5.1	1.5	8.8	0.7	5.8	3.6	2.9	0.7

問9 加入していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「特に理由はない」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「加入する必要性を感じないから」の割合が 22.2%、「活動する時間がないから」の割合が 15.1%となっています。

回答者数 = 252



【年齢別】

年齢別にみると、10 歳代・20 歳代で「近所の人に誘われないから」の割合が、30 歳代と 40 歳代で「組織自体がないから」の割合が、勤労者層（40 歳代・50 歳代）で「加入する必要性を感じないから」の割合が、80 歳代以上で「体調面の不安などの事情により加入しても活動に参加できないから」の割合が高くなっています。

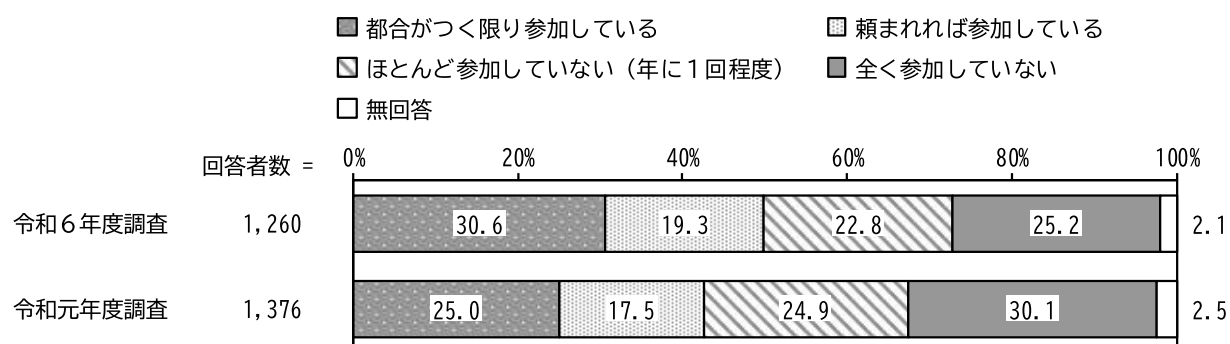
単位：%

区分	件数	組織がないから	近所の人に誘われないから	活動する時間がないから	加入する必要性を感じないから	会費などを払いたくないから	役員をやりたくないから	体調面の不安などの事情により加入しても活動に参加できないから	特に理由はない	その他	無回答
全 体	252	12.7	11.1	15.1	22.2	4.4	13.5	9.1	33.3	9.1	3.6
10歳代・20歳代	38	13.2	21.1	21.1	21.1	10.5	18.4	—	39.5	7.9	—
30歳代	30	23.3	13.3	3.3	13.3	—	3.3	3.3	30.0	13.3	3.3
40歳代	38	28.9	7.9	21.1	34.2	15.8	18.4	7.9	18.4	10.5	—
50歳代	37	5.4	16.2	18.9	35.1	2.7	21.6	5.4	29.7	5.4	2.7
60歳代	33	3.0	12.1	18.2	21.2	—	12.1	18.2	33.3	12.1	—
70歳代	44	4.5	4.5	13.6	18.2	—	11.4	9.1	47.7	2.3	6.8
80歳代以上	31	9.7	—	3.2	9.7	—	6.5	22.6	32.3	16.1	12.9

問 10 地域の行事や活動に、どの程度参加していますか。(○は1つ)

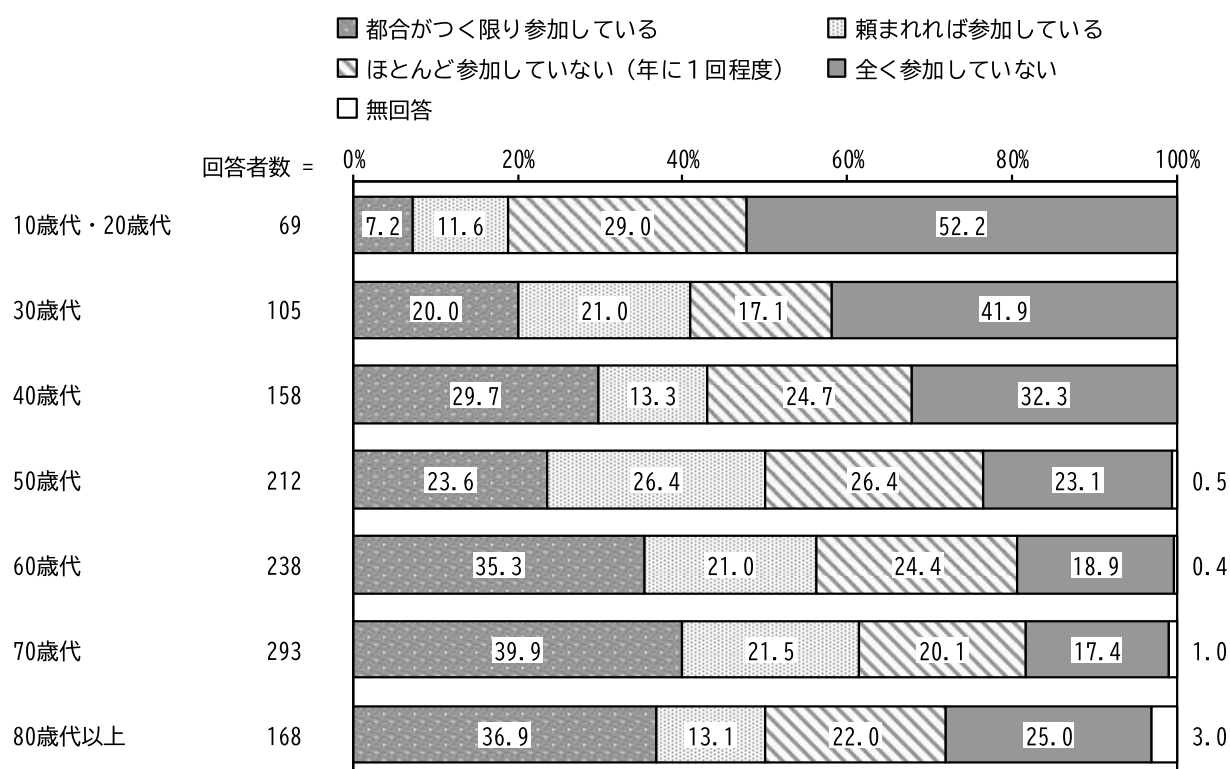
「都合がつく限り参加している」の割合が 30.6%と最も高く、次いで「全く参加していない」の割合が 25.2%、「ほとんど参加していない（年に1回程度）」の割合が 22.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「都合がつく限り参加している」の割合が 5.6 ポイント増加しています。



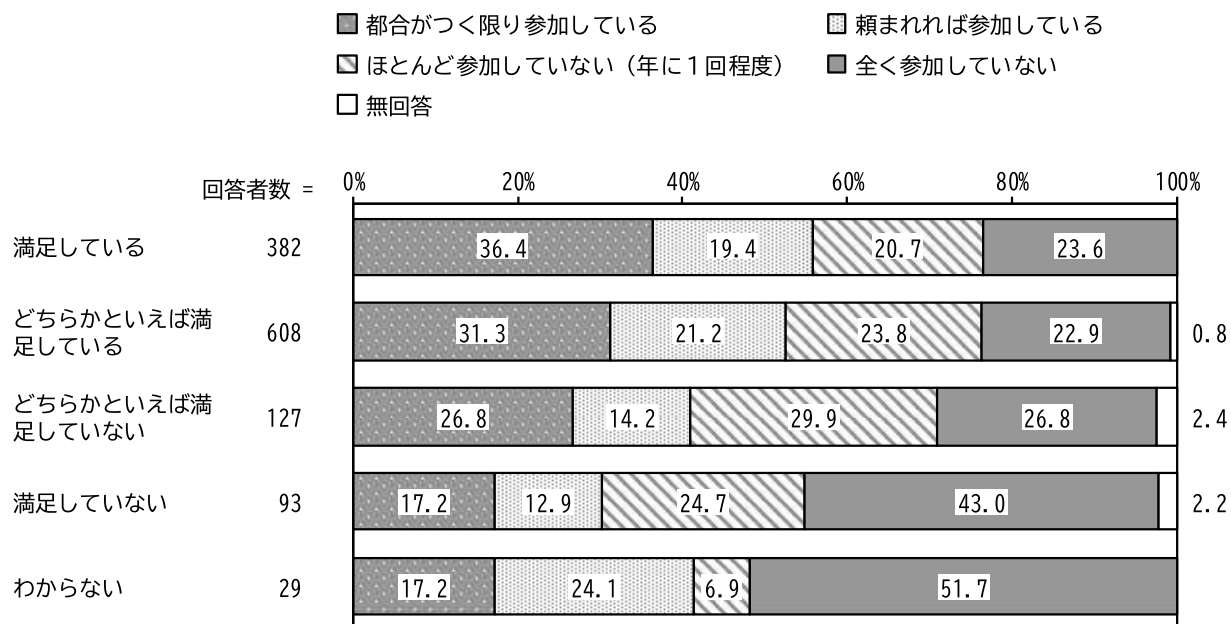
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるにつれて「全く参加していない」の割合が高くなる傾向にあり、10歳代・20歳代で最も高くなっています。



【暮らしの満足度別】

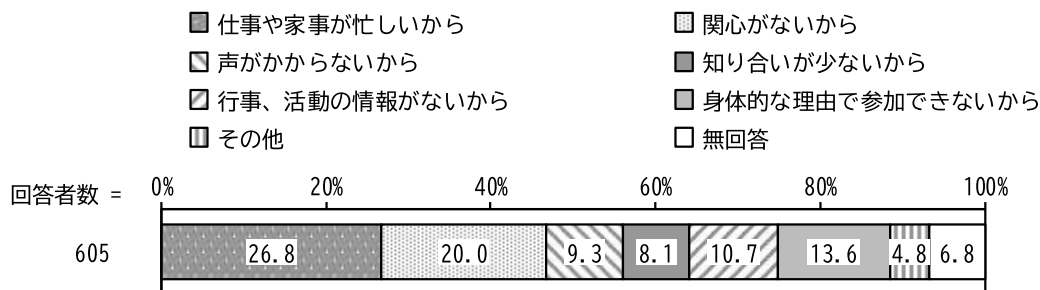
暮らしの満足度別にみると、満足度が下がるほど「全く参加していない」の割合が高くなる傾向にあり、満足していないで割合が高くなっています。



問 11 問 10 で「ほとんど参加していない」「全く参加していない」と回答された方にお尋ねします。

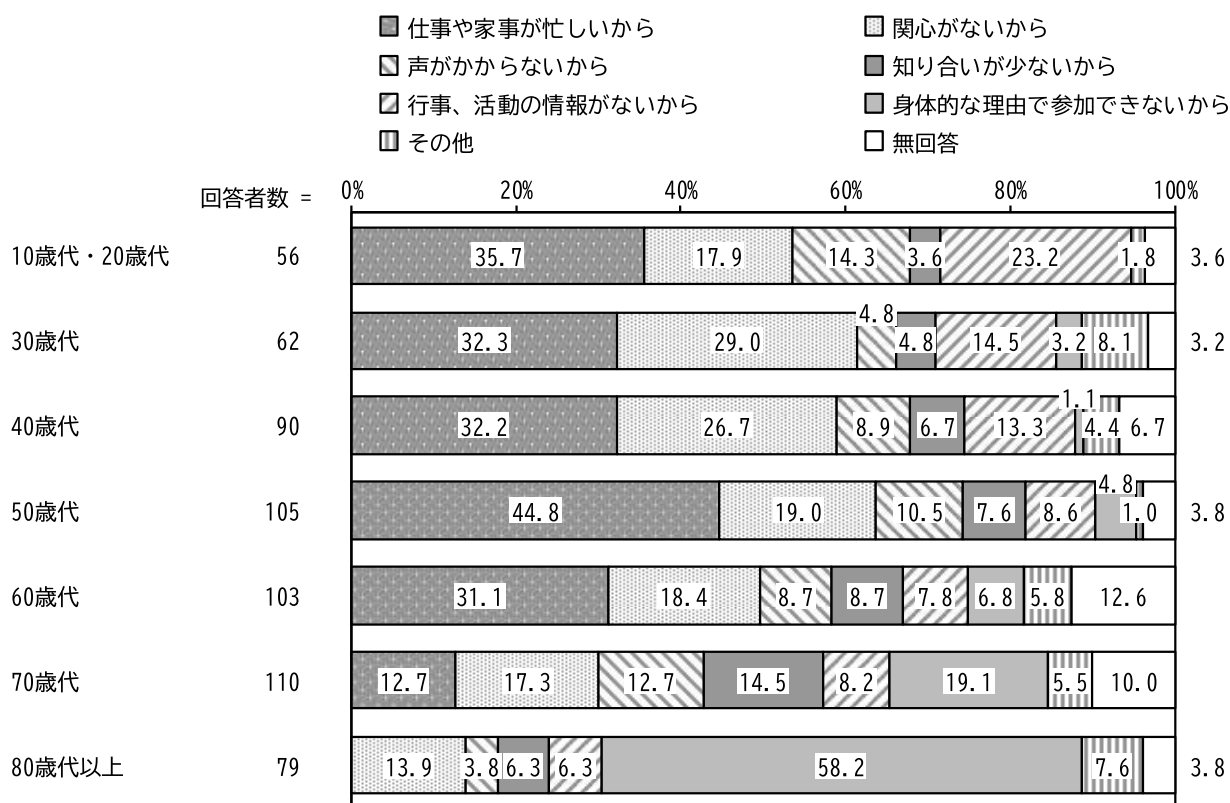
その理由で一番近いものを教えてください。（○は1つ）

「仕事や家事が忙しいから」の割合が26.8%と最も高く、次いで「関心がないから」の割合が20.0%、「身体的な理由で参加できないから」の割合が13.6%となっています。



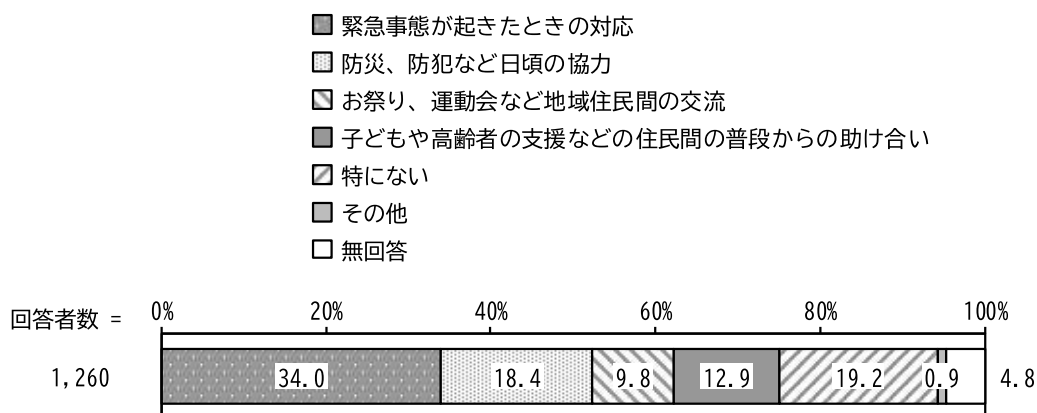
【年齢別】

年齢別にみると、50歳代で「仕事や家事が忙しいから」の割合が、30歳代と40歳代で「関心がないから」の割合が、10歳代・20歳代で「行事、活動の情報がないから」の割合が、80歳代以上で「身体的な理由で参加できないから」の割合が高くなっています。



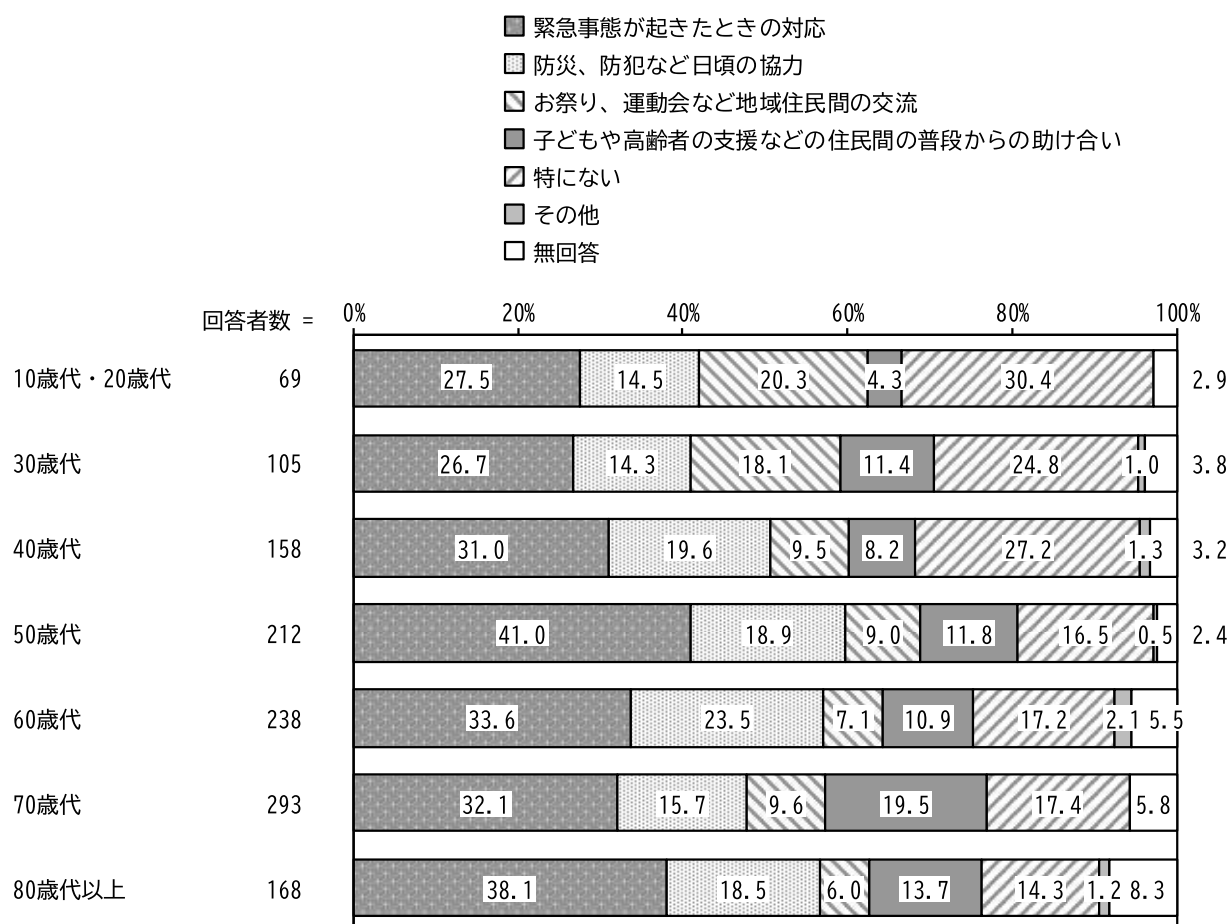
問 12 どのような地域活動を期待しますか。最も期待するものをお選びください。(○は1つ)

「緊急事態が起きたときの対応」の割合が34.0%、「防災、防犯など日頃の協力」の割合が18.4%となっています。



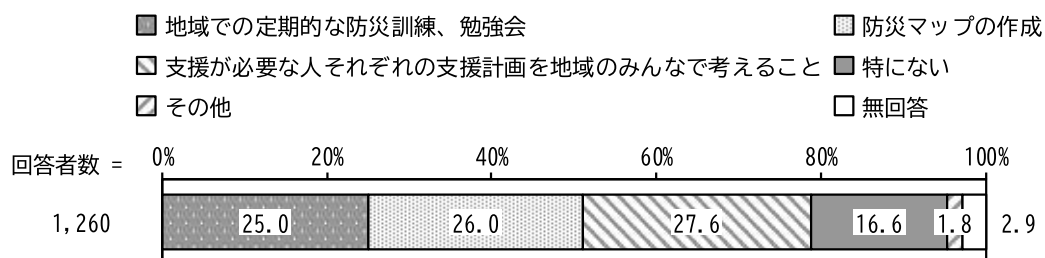
【年齢別】

年齢別にみると、すべての年代で「緊急事態が起きたときの対応」の割合が高く、50歳代で最も高くなっています。また、若年層（10歳代・20歳代、30歳代）で「お祭り、運動会など地域住民間の交流」の割合が高くなっています。



問 13 地震や火災等の災害時に住民同士が協力し合えるために、平常時からどのようなことが必要だと思いますか。最も必要だと思うものをお選びください。（○は1つ）

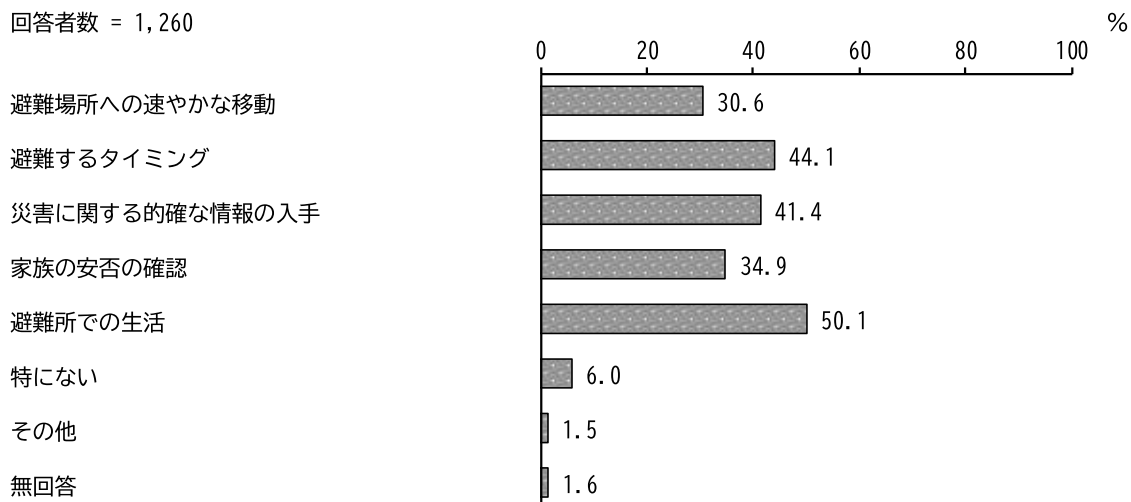
「支援が必要な人それぞれの支援計画を地域のみんなで考えること」の割合が 27.6%と最も高く、次いで「防災マップの作成」の割合が 26.0%、「地域での定期的な防災訓練、勉強会」の割合が 25.0%となっています。



問 14 災害時の避難について不安に感じることは何ですか。(○は主なもの3つまで)

「避難所での生活」の割合が 50.1%と最も高く、次いで「避難するタイミング」の割合が 44.1%、「災害に関する的確な情報の入手」の割合が 41.4%となっています。

回答者数 = 1,260



【年齢別】

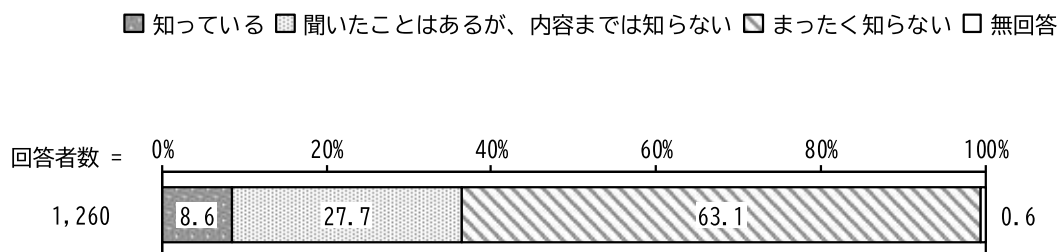
年齢別にみると、年齢が下がるにつれて「家族の安否の確認」の割合が高くなる傾向にあり、30 歳代で最も高くなっています。また、10 歳代・20 歳代で「避難場所への速やかな移動」の割合が、勤労者層で「避難所での生活」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	件数 (件)	避難場所への速やかな移動	避難するタイミング	災害に関する的確な情報の入手	家族の安否の確認	避難所での生活	特になし	その他	無回答
全 体	1,260	30.6	44.1	41.4	34.9	50.1	6.0	1.5	1.6
10歳代・20歳代	69	43.5	37.7	37.7	49.3	55.1	7.2	—	—
30歳代	105	29.5	50.5	41.9	52.4	53.3	4.8	1.0	—
40歳代	158	19.0	38.6	38.6	48.7	56.3	4.4	1.3	0.6
50歳代	212	30.2	45.3	36.8	43.9	60.8	4.2	2.4	0.9
60歳代	238	26.1	48.7	45.4	32.4	50.0	5.0	2.9	1.3
70歳代	293	34.5	46.4	47.8	22.5	42.0	6.8	0.3	1.4
80歳代以上	168	36.9	34.5	34.5	18.5	42.3	10.1	1.8	5.4

問 15 周南市では、地震などの災害発生時に、家族等の援助が十分に得られず、助けを必要とする避難行動要支援者（障害のある人、高齢者などで、災害時に何らかの支援が必要な人）の名簿を整備し、災害発生時に支援が得られる仕組みづくりに取り組んでいます。あなたはこの制度を知っていますか。（○は1つ）

「まったく知らない」の割合が 63.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」の割合が 27.7%、「知っている」の割合が 8.6%となっています。

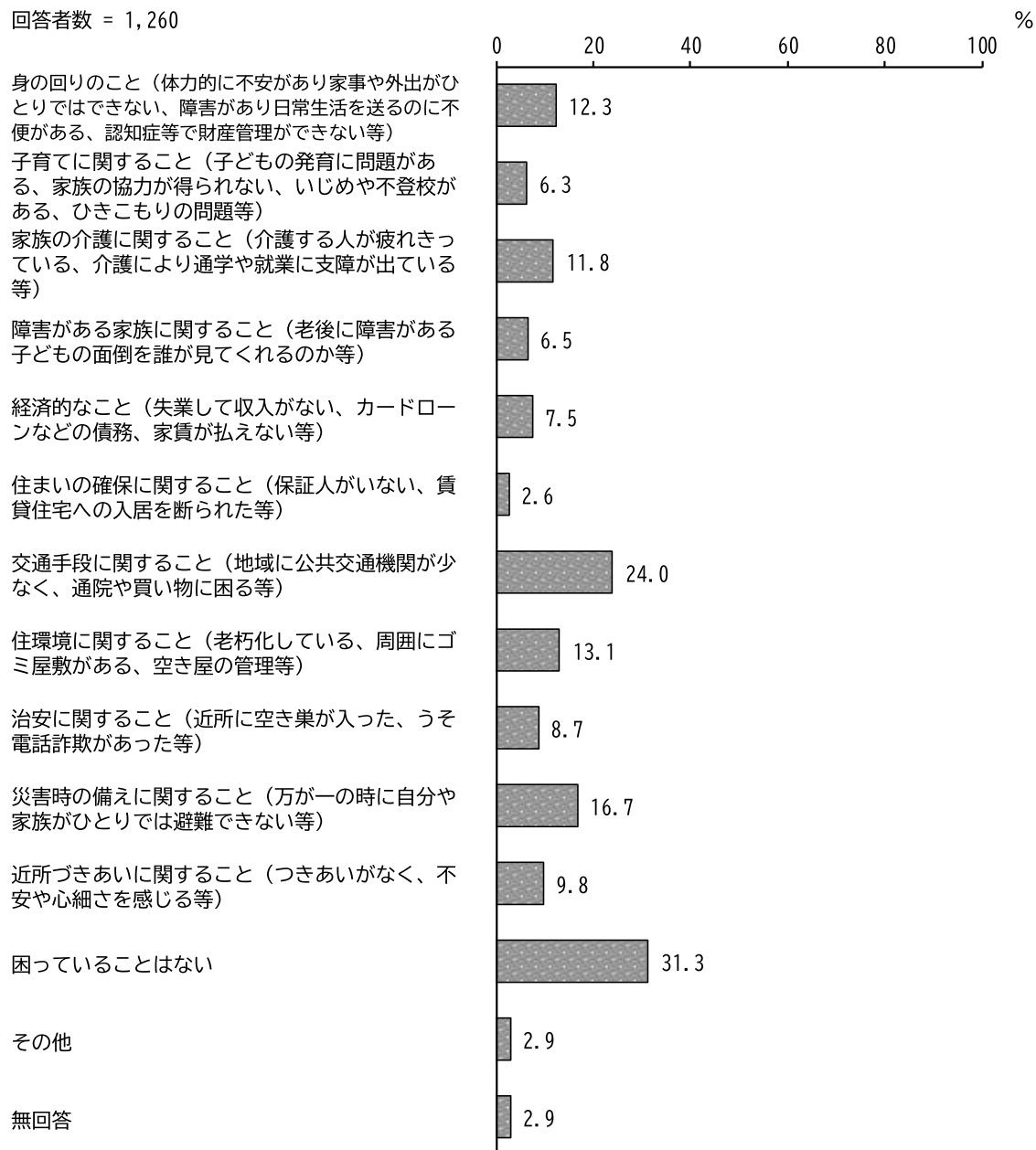


(3) 地域福祉（住民による身近な支え合い）について

問 16 あなたや身近な人が日常生活で困っていることは何ですか。（○はいくつでも）

「困っていることはない」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「交通手段に関すること（地域に公共交通機関が少なく、通院や買い物に困る等）」の割合が 24.0%、「災害時の備えに関すること（万が一の時に自分や家族がひとりでは避難できない等）」の割合が 16.7%となっています。

回答者数 = 1,260



【年齡別】

年齢別にみると、50 歳代以下で「経済的なこと（失業して収入がない、カードローンなどの債務、家賃が払えない等）」の割合が高い傾向にあります。60 歳代以上では「災害時の備えに関すること（万が一の時に自分や家族がひとりでは避難できない等）」「近所づきあいに関すること（つきあいがなく、不安や心細さを感じる等）」の割合が高い傾向にあります。また、40 歳代以下で「子育てに関すること（子どもの発育に問題がある、家族の協力が得られない、いじめや不登校がある、ひきこもりの問題等）」の割合が高くなっています。

單位：%

区分	費 （件）	身の回りのこと、食事や洗濯、掃除、買い物、送迎、介護等	問題の発生、関係の構築、子育て、育児、に	家族の養育に関する、介護は（養育者や人	障壁がある子（後）に	介護保険、年金、税金、福祉サービス、が払え	住居、環境、生活費、を断る	介護に関わる費用、が
全 体	1,260	12.3	6.3	11.8	6.5	7.5	2.6	24.0
10歳代・20歳代	69	4.3	14.5	8.7	-	14.5	1.4	23.2
30歳代	105	6.7	19.0	9.5	7.6	14.3	4.8	13.3
40歳代	158	8.2	17.1	11.4	7.0	10.1	3.2	17.1
50歳代	212	12.3	3.3	18.9	7.1	10.8	0.9	19.3
60歳代	238	11.8	3.8	16.0	5.5	6.3	3.8	27.7
70歳代	293	12.6	1.7	7.5	7.5	3.1	2.7	29.0
80歳代以上	168	23.2	1.2	8.3	6.5	3.0	1.8	29.8

区分	環境 （等） に 関 する 意 見 を 述 べ る 者 の 数 （人）	安 居 に 関 する 意 見 を 述 べ る 者 の 数 （人）	時 間 に 関 する 意 見 を 述 べ る 者 の 数 （人）	近 所 に 関 する 意 見 を 述 べ る 者 の 数 （人）	困 り を 述 べ る 者 の 数 （人）	他 の 意 見 を 述 べ る 者 の 数 （人）	合 計 （人）
全 体	13.1	8.7	16.7	9.8	31.3	2.9	2.9
10歳代・20歳代	4.3	2.9	11.6	8.7	44.9	4.3	—
30歳代	12.4	7.6	9.5	10.5	37.1	1.0	1.0
40歳代	7.6	12.0	13.3	7.0	36.1	3.8	—
50歳代	14.6	7.1	15.1	6.6	36.3	2.8	0.5
60歳代	16.8	11.3	18.1	10.9	31.1	3.4	1.3
70歳代	15.4	8.5	19.1	11.9	25.9	1.7	5.8
80歳代以上	8.9	7.1	22.6	10.1	22.0	4.8	8.3

【世帯構成別】

世帯構成別にみると、すべての年代で「交通手段に関すること（地域に公共交通機関が少なく、通院や買い物に困る等）」の割合が高い傾向にあり、夫婦のみの世帯で最も高くなっています。また、三世代世帯（親と子と孫）で「災害時の備えに関すること（万が一の時に自分や家族がひとりでは避難できない等）」の割合が高くなっています。

単位：％

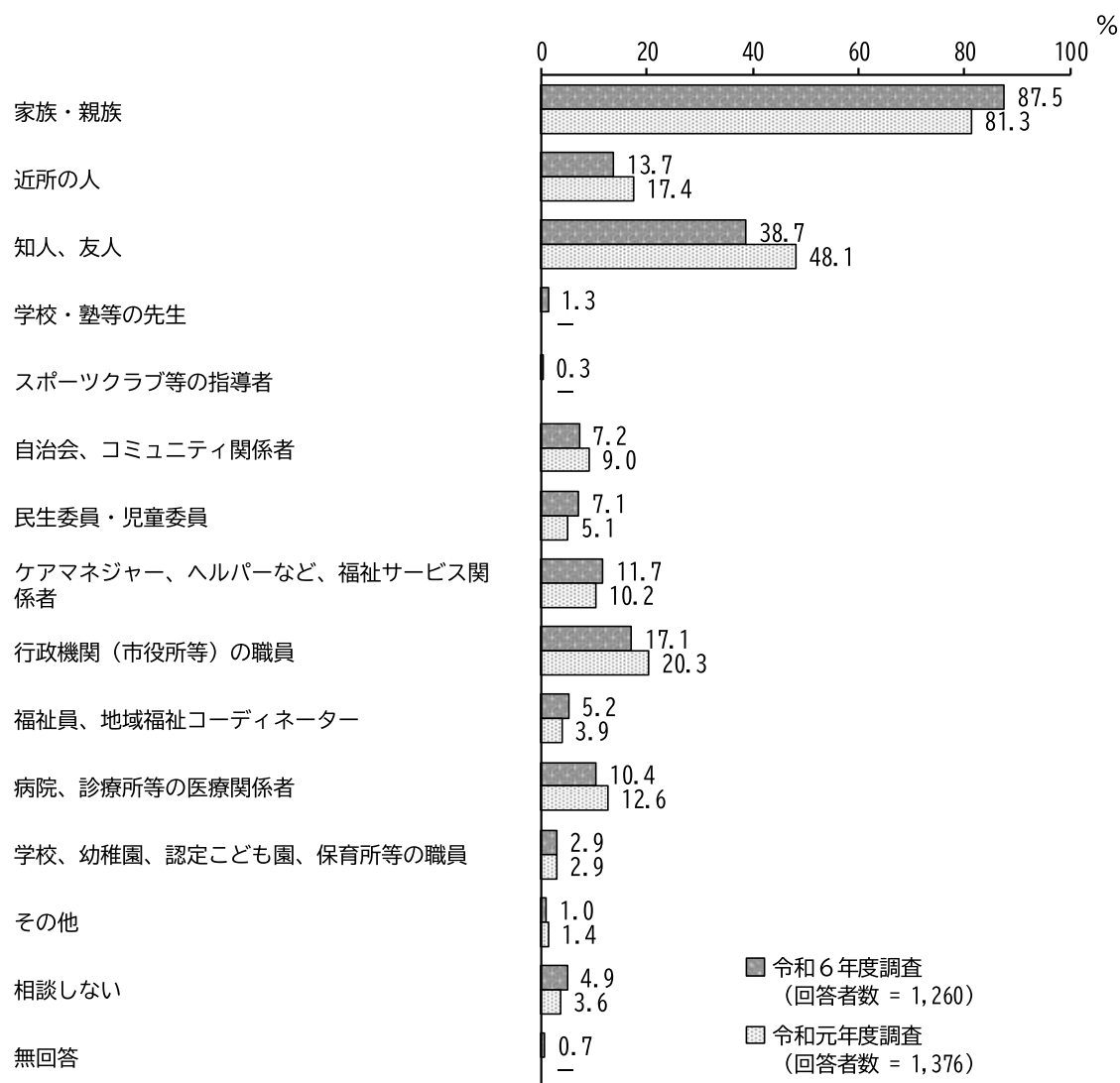
区分	世帯数 (件)	身の回りの 生活に困る 等	災害時の備え に関すること (万が一の時に 自分や家族が ひとりでは 避難できない 等)	交通手段に関 すること (地域に公共交 通機関が少な く、通院や買 い物に困る等)	家族の養育に 関すること (子育て、学 校生活、健康 管理、介護等)	高齢者の生活 に関すること (介護、認知 症対策、孤独 死対策等)	住まいに関 すること (賃貸、購入、 リフォーム等)	その他
全 体	1,260	12.3	6.3	11.8	6.5	7.5	2.6	24.0
単身世帯（ひとり暮らし）	190	12.6	2.6	6.8	3.2	10.0	6.8	22.6
夫婦のみの世帯	430	12.3	2.6	12.8	5.1	5.8	1.6	27.4
二世代世帯（親と子）	538	10.6	10.8	13.2	8.7	8.7	2.0	22.3
三世代世帯（親と子と孫）	59	18.6	5.1	6.8	6.8	1.7	—	22.0
その他の世帯	17	41.2	11.8	23.5	5.9	11.8	5.9	23.5

区分	災害時の備え に関すること (万が一の時に 自分や家族が ひとりでは 避難できない 等)	交通手段に関 すること (地域に公共交 通機関が少な く、通院や買 い物に困る等)	家族の養育に 関すること (子育て、学 校生活、健康 管理、介護等)	高齢者の生活 に関すること (介護、認知 症対策、孤独 死対策等)	住まいに関 すること (賃貸、購入、 リフォーム等)	その他	世帯数 (件)
全 体	13.1	8.7	16.7	9.8	31.3	2.9	2.9
単身世帯（ひとり暮らし）	13.7	4.7	14.7	13.2	33.7	5.8	5.3
夫婦のみの世帯	15.3	10.0	16.3	10.7	29.5	2.3	4.0
二世代世帯（親と子）	11.0	8.6	17.1	8.2	32.5	2.6	1.5
三世代世帯（親と子と孫）	8.5	13.6	23.7	6.8	32.2	1.7	—
その他の世帯	11.8	11.8	17.6	—	23.5	5.9	—

問 17 困った時や生活の問題を解決したい時、誰に相談しますか。(〇はいくつでも)

「家族・親族」の割合が 87.5%と最も高く、次いで「知人、友人」の割合が 38.7%、「行政機関（市役所等）の職員」の割合が 17.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「家族・親族」の割合が 6.2 ポイント増加しています。一方、「知人、友人」の割合が 9.4 ポイント減少しています。



※前回調査では、「家族・親族」が「親族」、「行政機関（市役所等）の職員」が「行政機関」、「病院、診療所等の医療関係者」が「病院、診療所」、「学校、幼稚園、認定こども園、保育所等の職員」が「学校、幼稚園、認定こども園、保育所」、「相談しない」が「相談する先がない」となっており、「学校・塾等の先生」、「スポーツクラブ等の指導者」の選択肢はありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「近所の人」の割合が高くなっている一方、年齢が下がるにつれて「知人、友人」の割合が高くなっています。また、80歳代以上で「民生委員・児童委員」「ケアマネジャー、ヘルパーなど、福祉サービス関係者」の割合が、30歳代で「学校、幼稚園、認定こども園、保育所等の職員」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	世帯 (件)	家族	近 所 の 人	知 、 友 人	親 戚 の 先 住	ボ ー ー 等 の 者	会 社 、 ヨ ウ テ イ 関	其 他
全 体	1,260	87.5	13.7	38.7	1.3	0.3	7.2	7.1
10歳代・20歳代	69	92.8	2.9	49.3	1.4	1.4	—	—
30歳代	105	88.6	7.6	46.7	1.9	—	5.7	1.0
40歳代	158	88.6	8.2	44.3	4.4	—	4.4	1.9
50歳代	212	89.2	11.3	43.4	1.9	—	2.8	0.5
60歳代	238	85.7	16.0	43.3	0.4	0.4	10.9	4.6
70歳代	293	87.0	17.4	34.1	—	—	8.5	14.3
80歳代以上	168	85.7	20.2	20.8	0.6	1.2	11.9	18.5

区分	ど、夢 補 サ ー ビ ス 関 係 者 な い	職 業 (種 別) の 職	一 次 、 補 助 コ ー デ イ ネ	院 、 障 害 の 職	障 害 、 障 害 の 職 、 認 定 こ ど も 園、	の 他	親 戚 な い	其 他
全 体	11.7	17.1	5.2	10.4	2.9	1.0	4.9	0.7
10歳代・20歳代	1.4	4.3	—	4.3	1.4	2.9	—	—
30歳代	—	13.3	1.0	9.5	14.3	1.9	4.8	—
40歳代	6.3	14.6	3.2	6.3	9.5	1.3	5.1	—
50歳代	9.4	16.5	0.5	7.5	0.5	0.9	5.2	—
60歳代	15.1	23.5	6.3	14.7	0.4	0.8	3.8	—
70歳代	13.3	19.5	8.2	11.6	0.3	0.7	5.8	0.7
80歳代以上	24.4	13.7	10.1	13.1	1.8	0.6	7.1	3.0

【世帯構成別】

世帯構成別にみると、すべての世帯構成で「家族・親族」の割合が最も高くなっていますが、他の世帯構成に比べ、「単身世帯（ひとり暮らし）」、「その他の世帯」で割合が低くなっています。また、「単身世帯（ひとり暮らし）」で「民生委員・児童委員」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	世帯数 (件)	家族・親族	近 の 人	知 、 友	養 の 先	ポ ー ツ 等 の 場	治 、 ヨ ウ テ イ 関	養
全 体	1,260	87.5	13.7	38.7	1.3	0.3	7.2	7.1
単身世帯（ひとり暮らし）	190	73.7	17.9	42.6	1.1	1.1	7.4	14.2
夫婦のみの世帯	430	89.3	15.3	31.6	—	0.5	8.6	8.1
二世帯世帯（親と子）	538	90.5	10.8	42.9	2.4	—	5.9	4.1
三世帯世帯（親と子と孫）	59	98.3	11.9	39.0	—	—	8.5	5.1
その他の世帯	17	70.6	17.6	41.2	—	—	5.9	5.9

区分	ど、 福 サ ー バ ー な	養 (種) の 員	種 、 種 コ ー デ イ ネ	院、 護 の 場	養 、 種 の 員、 認 ご 園、	の 他	組 む	養
全 体	11.7	17.1	5.2	10.4	2.9	1.0	4.9	0.7
単身世帯（ひとり暮らし）	8.4	12.6	6.3	10.5	1.1	2.1	7.4	0.5
夫婦のみの世帯	15.8	21.9	7.2	10.9	0.5	0.5	5.1	1.2
二世帯世帯（親と子）	9.1	14.9	3.0	9.5	5.8	1.1	4.1	0.2
三世帯世帯（親と子と孫）	15.3	15.3	5.1	13.6	3.4	—	3.4	—
その他の世帯	23.5	17.6	5.9	23.5	—	5.9	—	5.9

【地域活動の参加有無別】

地域活動の参加有無別にみると、参加している人ほど「近所の人」「知人、友人」の割合が高くなっています。

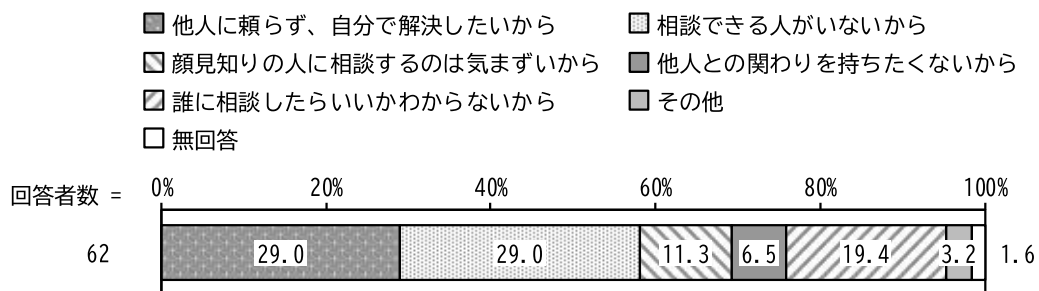
単位：％

区分	費 (件)	親 族	近 所 の 人	知 、 友 人	塾 、 学 校 の 先 生	ボ ー ー 等 の 皆 手	治 、 ユ テ イ 関	費
全 体	1,260	87.5	13.7	38.7	1.3	0.3	7.2	7.1
都合がつく限り参加している	386	88.9	20.7	43.8	1.6	0.5	13.5	11.4
頼まれれば参加している	243	91.8	15.2	42.8	1.6	—	5.8	4.9
ほとんど参加していない（年に1回程度）	287	88.5	9.4	33.1	2.1	0.3	3.8	3.8
全く参加していない	318	81.8	7.2	34.9	—	0.3	3.5	5.3

区分	ど、 補 サ ー バ 関 係 な い	親 族 (親 、 子 の 関 係)	補 佐 、 補 佐 コ ー デ ィ ネ	院 、 護 の 関 係	補 佐 、 補 佐 の 関 係、 認 志 園、	の 他	親 戚 の 関 係	費
全 体	11.7	17.1	5.2	10.4	2.9	1.0	4.9	0.7
都合がつく限り参加している	15.3	18.9	9.1	12.7	4.9	0.8	4.1	0.8
頼まれれば参加している	10.3	16.0	2.9	8.6	2.5	0.4	3.3	1.2
ほとんど参加していない（年に1回程度）	8.7	16.4	2.4	9.4	2.4	0.7	3.5	0.7
全く参加していない	10.7	15.7	3.5	8.8	1.6	2.2	8.2	—

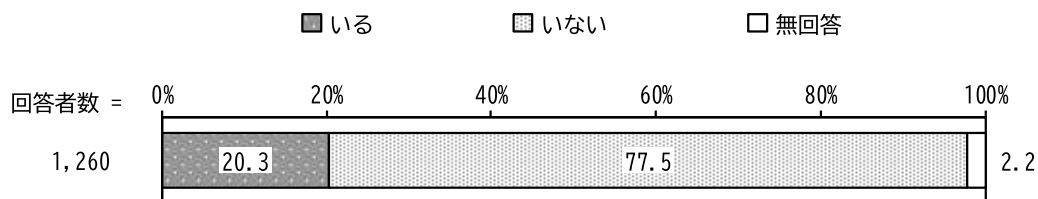
問 18 相談しない理由は何ですか。（○は1つ）

「他人に頼らず、自分で解決したいから」、「相談できる人がいないから」の割合が 29.0%と最も高く、次いで「誰に相談したらいいかわからないから」の割合が 19.4%となっています。



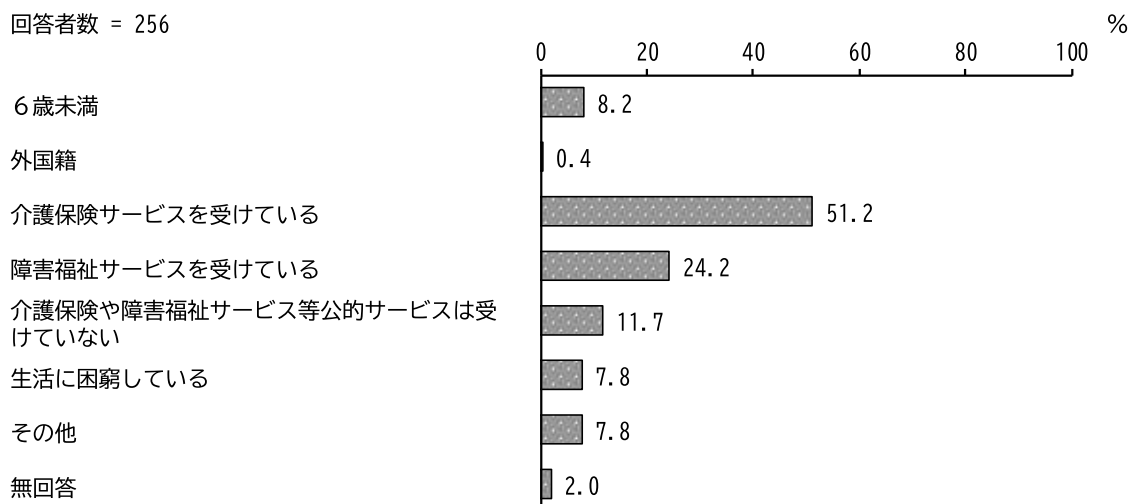
問 19 あなた又はあなたの家族に、支援が必要な人はいますか。(○は1つ)

「いる」の割合が 20.3%、「いない」の割合が 77.5%となっています。



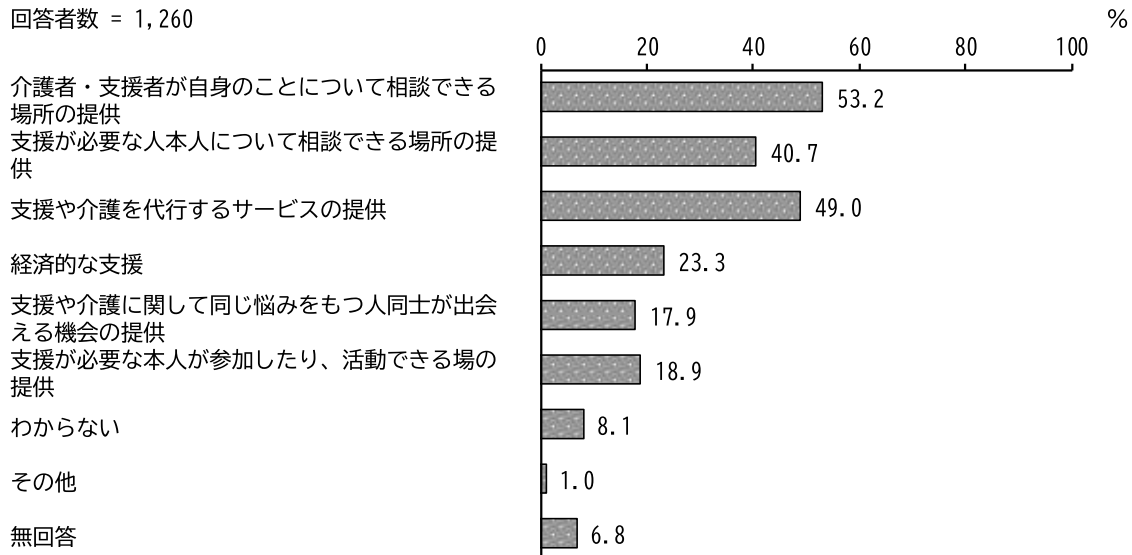
問 20 具体的にはどのような方ですか。(○はいくつでも)

「介護保険サービスを受けている」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「障害福祉サービスを受けている」の割合が 24.2%、「介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない」の割合が 11.7%となっています。



問 21 家族の介護や支援等をしている方にとってどのような支援が必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

「介護者・支援者が自身のことについて相談できる場所の提供」の割合が 53.2%と最も高く、次いで「支援や介護を代行するサービスの提供」の割合が 49.0%、「支援が必要な人本人について相談できる場所の提供」の割合が 40.7%となっています。

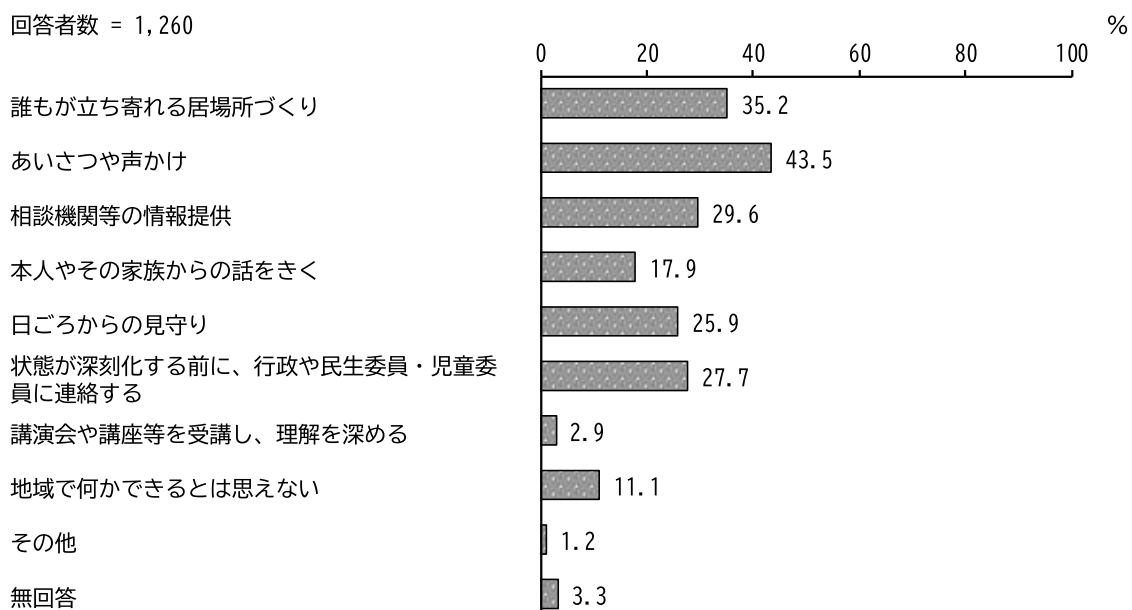


【支援が必要な人の有無別】

支援が必要な人の有無別にクロス集計を行いました。差や傾向はありませんでした。

問 22 社会的孤立やひきこもりが社会問題となっていますが、地域として、これらの問題に対してどのようなことができると考えますか。(○は主なもの3つまで)

「あいさつや声かけ」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「誰もが立ち寄れる居場所づくり」の割合が 35.2%、「相談機関等の情報提供」の割合が 29.6%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、若年層で「本人やその家族からの話をきく」の割合が、高齢層で「あいさつや声かけ」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	件数 (件)	誰か が立ち 寄り居る	声か け	家族 の話を きく	本人 や家族 からの 話をきく	日 常 生 活 の 見 り	親 戚 や 知 人 と の 交 渉 を 深 め る	講 義 や 座 談 会 に 参 加 す る	地 域 で 何 か を し る	他	計
全 体	1,260	35.2	43.5	29.6	17.9	25.9	27.7	2.9	11.1	1.2	3.3
10歳代・20歳代	69	39.1	29.0	24.6	30.4	13.0	23.2	4.3	26.1	—	—
30歳代	105	37.1	28.6	27.6	29.5	23.8	25.7	3.8	13.3	1.0	2.9
40歳代	158	32.3	36.7	30.4	18.4	21.5	19.6	2.5	17.7	1.9	1.3
50歳代	212	34.0	37.7	33.5	17.0	18.9	30.7	2.4	14.2	—	3.8
60歳代	238	36.1	48.7	38.7	17.6	27.7	26.1	2.1	9.2	2.1	0.4
70歳代	293	35.2	52.9	25.9	10.6	32.8	31.7	2.7	7.5	1.4	3.8
80歳代以上	168	35.7	49.4	20.8	19.0	29.8	29.2	3.6	3.6	1.2	8.9

【ひきこもりの方の有無別】（問 23 とのクロス集計）

ひきこもりの方の有無別にみると、「いる」で「相談機関等の情報提供」の割合が高くなっています。

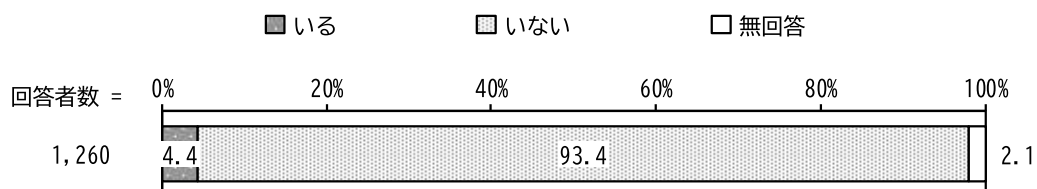
単位：％

区分	件数 (件)	誰か が立ち 寄り居る	声か け	家族 の話を きく	本人 や家族 からの 話をきく	日 常 生 活 の 見 り	親 戚 や 知 人 と の 交 渉 を 深 め る	講 義 や 座 談 会 に 参 加 す る	地 域 で 何 か を し る	他	計
全 体	1,260	35.2	43.5	29.6	17.9	25.9	27.7	2.9	11.1	1.2	3.3
いる	56	35.7	21.4	41.1	21.4	16.1	17.9	12.5	14.3	1.8	3.6
いない	1,177	35.6	45.0	29.4	17.9	26.6	28.5	2.4	11.0	1.2	2.5

問 23 あなた又はあなたのご家族で、このような社会的孤立やひきこもりの状態にある方は
いらっしゃる습니까。（○は1つ）

※複数人いらっしゃる場合は、より長期の人について回答ください。

「いる」の割合が4.4%、「いない」の割合が93.4%となっています。

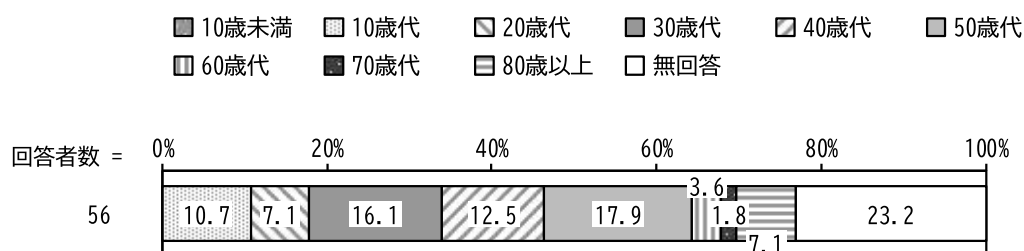


【世帯構成別】

世帯構成別に分析して、どの世帯構成でも一定数いることが判明しました。

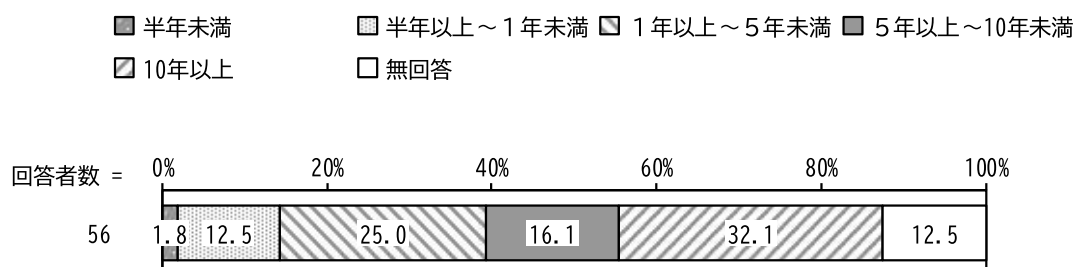
社会的孤立やひきこもりの状態にある方の年齢

「50 歳代」の割合が 17.9%と最も高く、次いで「30 歳代」の割合が 16.1%、「40 歳代」の割合が 12.5%となっています。



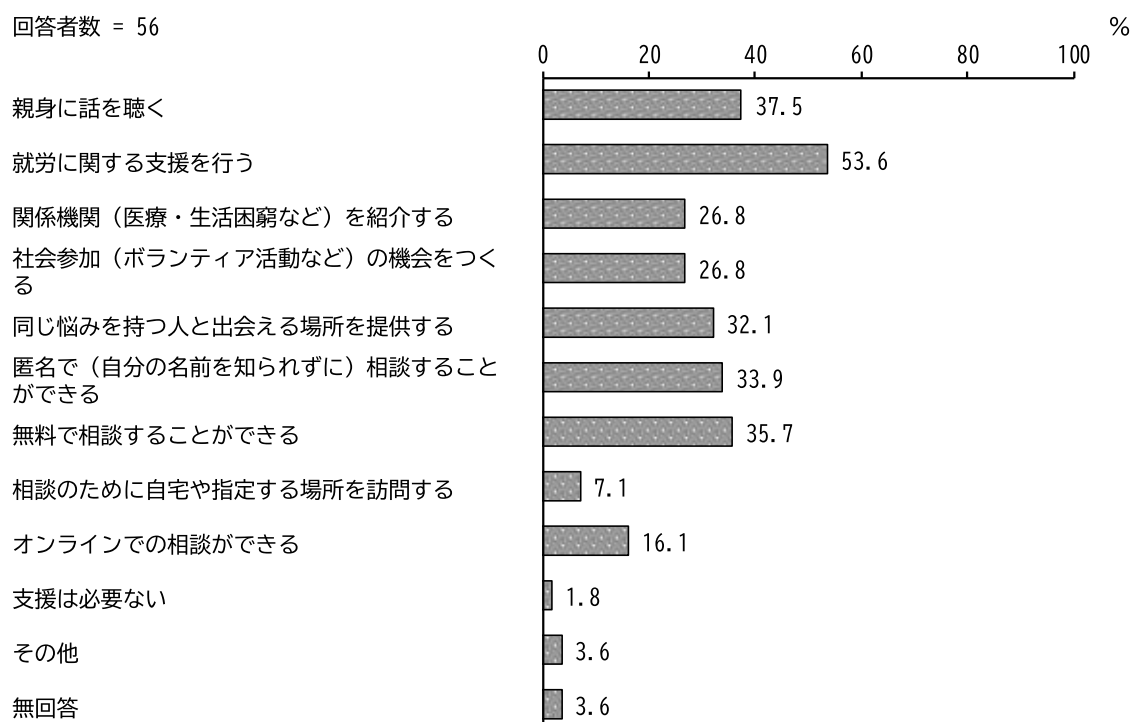
問 24 その方は、どのくらいその状態が続いていますか。(○は1つ)

「10 年以上」の割合が 32.1%と最も高く、次いで「1 年以上～5 年未満」の割合が 25.0%、「5 年以上～10 年未満」の割合が 16.1%となっています。



問 25 どのような支援が必要ですか。(○はいくつでも)

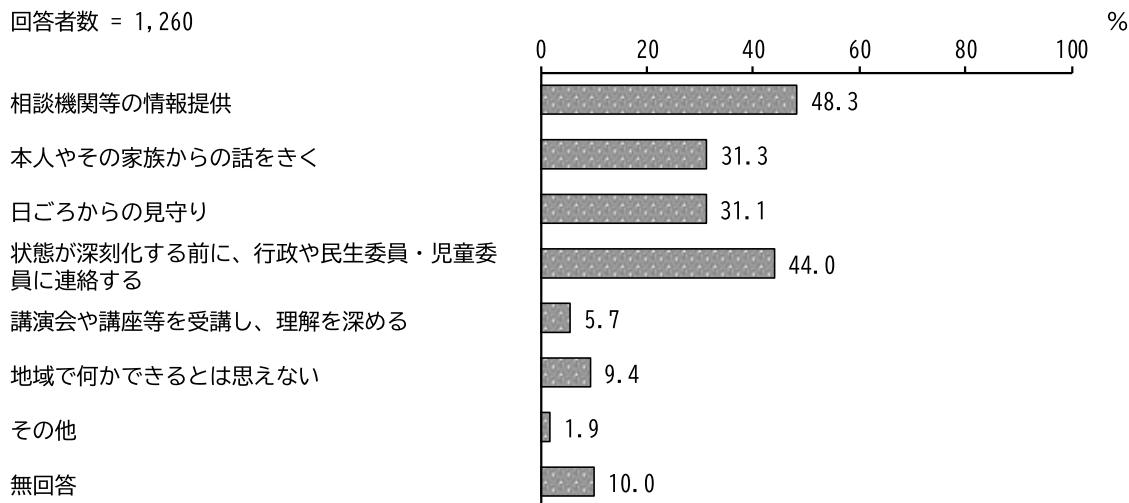
「就労に関する支援を行う」の割合が 53.6%と最も高く、次いで「親身に話を聴く」の割合が 37.5%、「無料で相談することができる」の割合が 35.7%となっています。



問 26 ダブルケアラーやヤングケアラーが社会問題となっていますが、地域として、これらの問題に対してどのようなことができると考えますか。(〇は主なもの3つまで)

「相談機関等の情報提供」の割合が 48.3%と最も高く、次いで「状態が深刻化する前に、行政や民生委員・児童委員に連絡する」の割合が 44.0%、「本人やその家族からの話をきく」の割合が 31.3%となっています。

回答者数 = 1,260

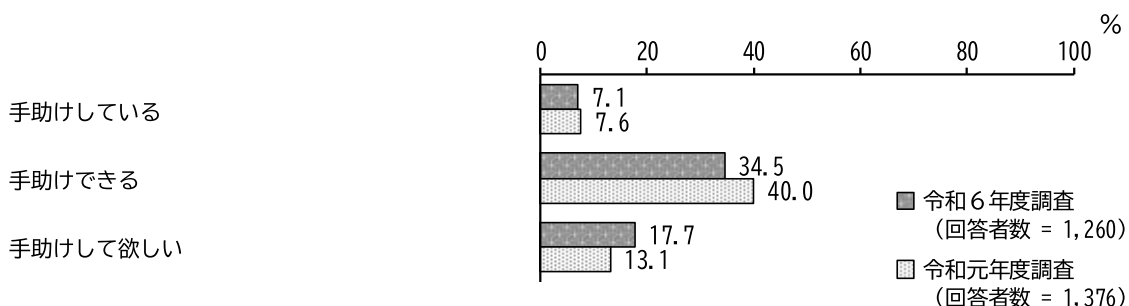


問 27 あなたの近所に困っている人がいる場合、「①現在、手助けしていること」「②今後、手助けできると思うこと」「③現在又は将来、あなた自身が手助けして欲しいと思うこと」はありますか。(それぞれあてはまるものすべてに〇)

安否確認の声かけ、話し相手（家に閉じこもりがちで、周囲との付き合いが少ない人に）

「手助けできる」の割合が 34.5%と最も高く、次いで「手助けして欲しい」の割合が 17.7%、「手助けしている」の割合が 7.1%となっています。

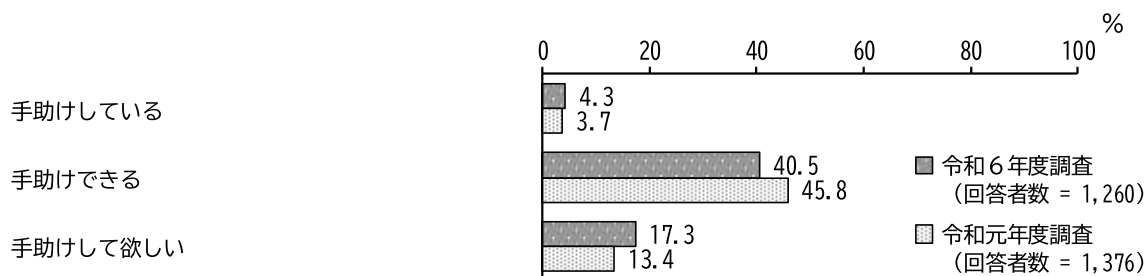
令和元年度調査と比較すると、「手助けできる」「手助けして欲しい」の割合が 5.5 ポイント減少しています。



ちょっとした電球の取り替えや買い物、ゴミ出しなど（身の回りのことをするのが困難な人に）

「手助けできる」の割合が 40.5%と最も高く、次いで「手助けして欲しい」の割合が 17.3%、「手助けしている」の割合が 4.3%となっています。

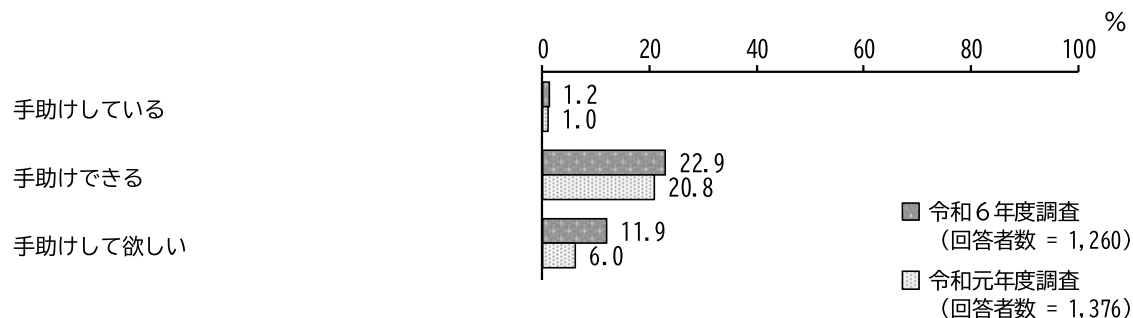
令和元年度調査と比較すると、「手助けできる」の割合が 5.3 ポイント減少しています。



子どもの一時預りや保育園等の送迎（共働き、ひとり親家庭など小さな子どものいる人に）

「手助けできる」の割合が 22.9%と最も高く、次いで「手助けして欲しい」の割合が 11.9%、「手助けしている」の割合が 1.2%となっています。

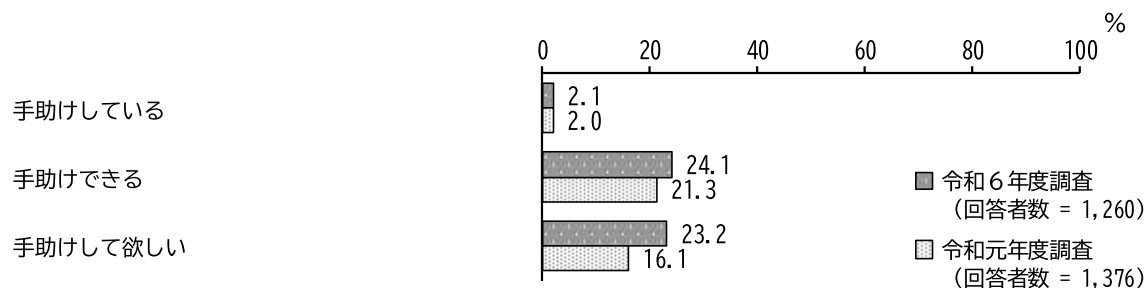
令和元年度調査と比較すると、「手助けして欲しい」の割合が 5.9 ポイント増加しています。



通院の送迎や外出の支援（一人で外出が困難な人に）

「手助けできる」の割合が 24.1%と最も高く、次いで「手助けして欲しい」の割合が 23.2%、「手助けしている」の割合が 2.1%となっています。

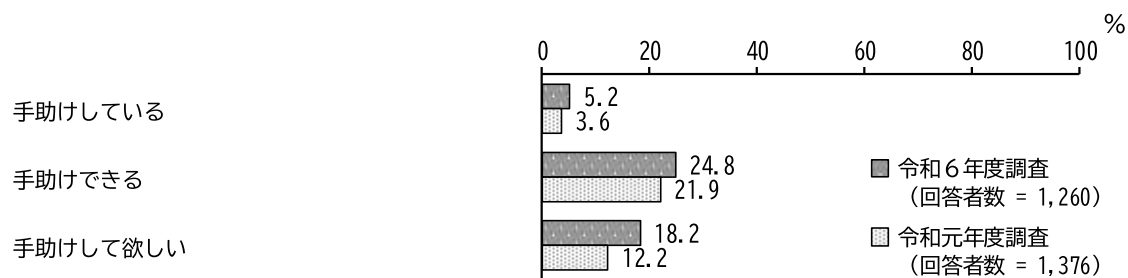
令和元年度調査と比較すると、「手助けして欲しい」の割合が 7.1 ポイント増加しています。



悩み事、心配ごとの相談

「手助けできる」の割合が24.8%と最も高く、次いで「手助けして欲しい」の割合が18.2%、「手助けしている」の割合が5.2%となっています。

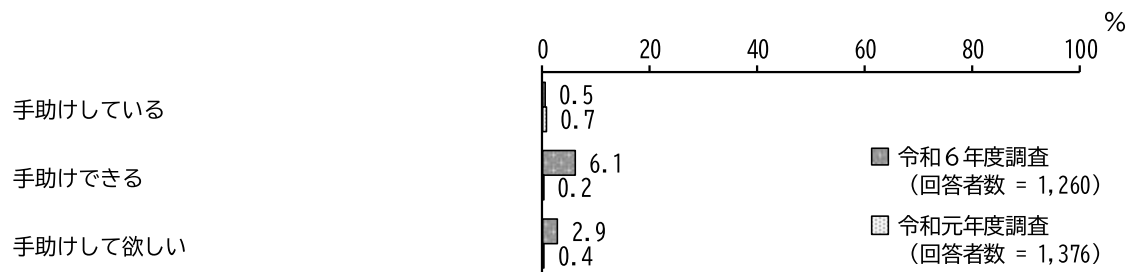
令和元年度調査と比較すると、「手助けして欲しい」の割合が6ポイント増加しています。



その他

「手助けできる」の割合が6.1%と最も高く、次いで「手助けして欲しい」の割合が2.9%、「手助けしている」の割合が0.5%となっています。

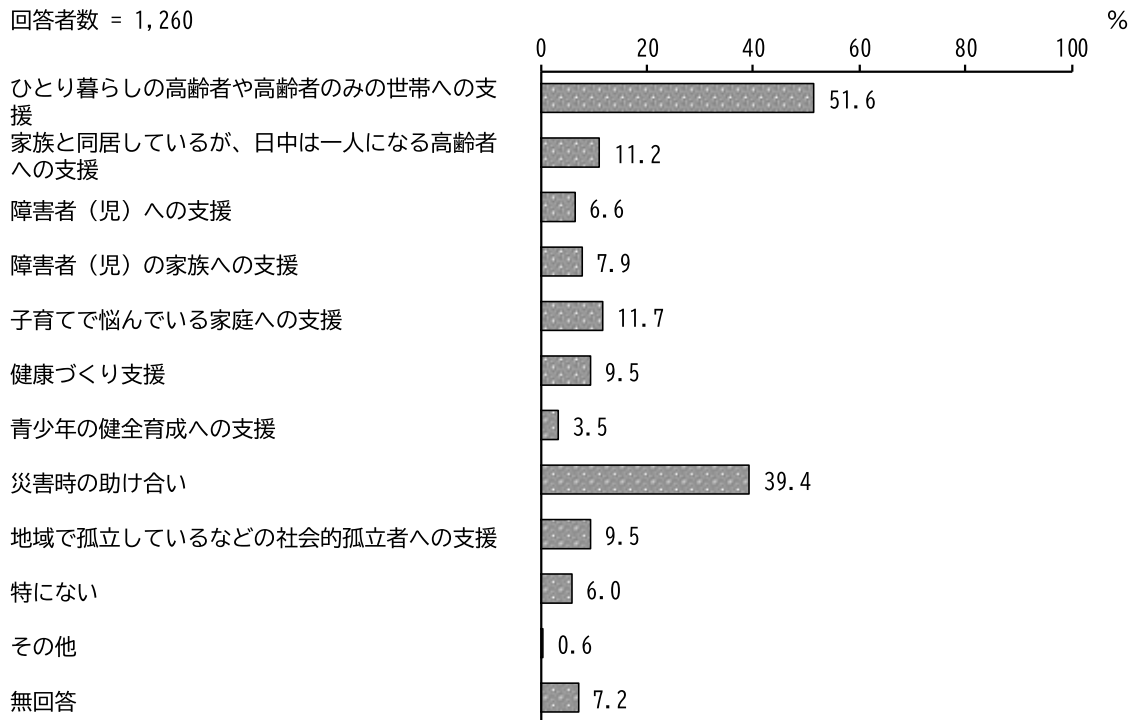
令和元年度調査と比較すると、「手助けできる」の割合が5.9ポイント増加しています。



問 28 地域の人たちが協力して取り組む支援として、一般的にどのようなことが必要だと考えますか。(〇は2つまで)

「ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯への支援」の割合が 51.6%と最も高く、次いで「災害時の助け合い」の割合が 39.4%となっています。

回答者数 = 1,260



【年齢別】

年齢別にみると、すべての年代で「ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯への支援」の割合が高く、70 歳代で最も高くなっています。また、若年層で「子育てで悩んでいる家庭への支援」の割合が高くなっています。

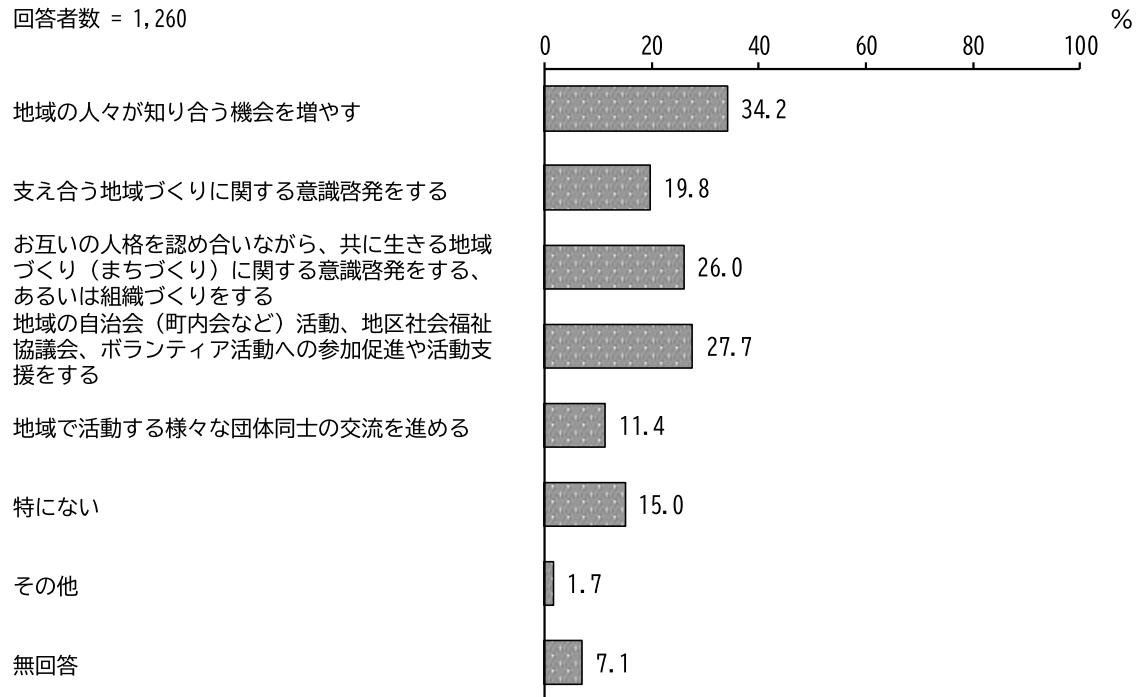
単位：％

区分	件数	ひとり暮らしの高齢者の世帯への支援	家族と同居しているが、日中は一人になる高齢者への支援	障害者（児）への支援	障害者（児）の家族への支援	子育てで悩んでいる家庭への支援	健康づくり支援	青少年の健全育成への支援	災害時の助け合い	地域で孤立しているなどの社会的孤立者への支援	特になし	その他	無回答
全 体	1,260	51.6	11.2	6.6	7.9	11.7	9.5	3.5	39.4	9.5	6.0	0.6	7.2
10歳代・20歳代	69	46.4	8.7	5.8	10.1	34.8	13.0	2.9	29.0	5.8	7.2	—	2.9
30歳代	105	39.0	5.7	12.4	13.3	26.7	1.0	10.5	38.1	8.6	7.6	1.0	3.8
40歳代	158	46.2	12.0	7.0	8.9	20.9	5.7	7.6	38.6	10.8	6.3	1.3	3.2
50歳代	212	53.8	15.1	9.0	10.4	13.2	7.5	0.9	40.1	11.3	5.7	—	3.8
60歳代	238	54.2	10.9	5.9	9.2	8.8	10.1	2.5	40.3	9.7	5.9	1.7	5.5
70歳代	293	54.9	9.2	5.1	4.8	3.1	13.3	2.7	44.4	8.2	6.1	—	9.6
80歳代以上	168	54.2	14.3	3.6	3.0	3.0	11.9	1.8	33.9	9.5	4.8	—	16.7

問 29 住民同士が協力して地域づくりを進めるために、行政ではどのような支援を行う必要があると思いますか。(〇は2つまで)

「地域の人々が知り合う機会を増やす」の割合が 34.2%と最も高く、次いで「地域の自治会（町内会など）活動、地区社会福祉協議会、ボランティア活動への参加促進や活動支援をする」の割合が 27.7%、「お互いの人格を認め合いながら、共に生きる地域づくり（まちづくり）に関する意識啓発をする、あるいは組織づくりをする」の割合が 26.0%となっています。

回答者数 = 1,260



【年齢別】

年齢別にみると、すべての年代で「地域の人々が知り合う機会を増やす」の割合が最も高く、勤労者層・高齢層に比べ、若年層で高くなっています。また、50歳代で「支え合う地域づくりに関する意識啓発をする」の割合が高く、高齢層で「地域の自治会（町内会など）活動、地区社会福祉協議会、ボランティア活動への参加促進や活動支援をする」の割合が高い傾向にあります。

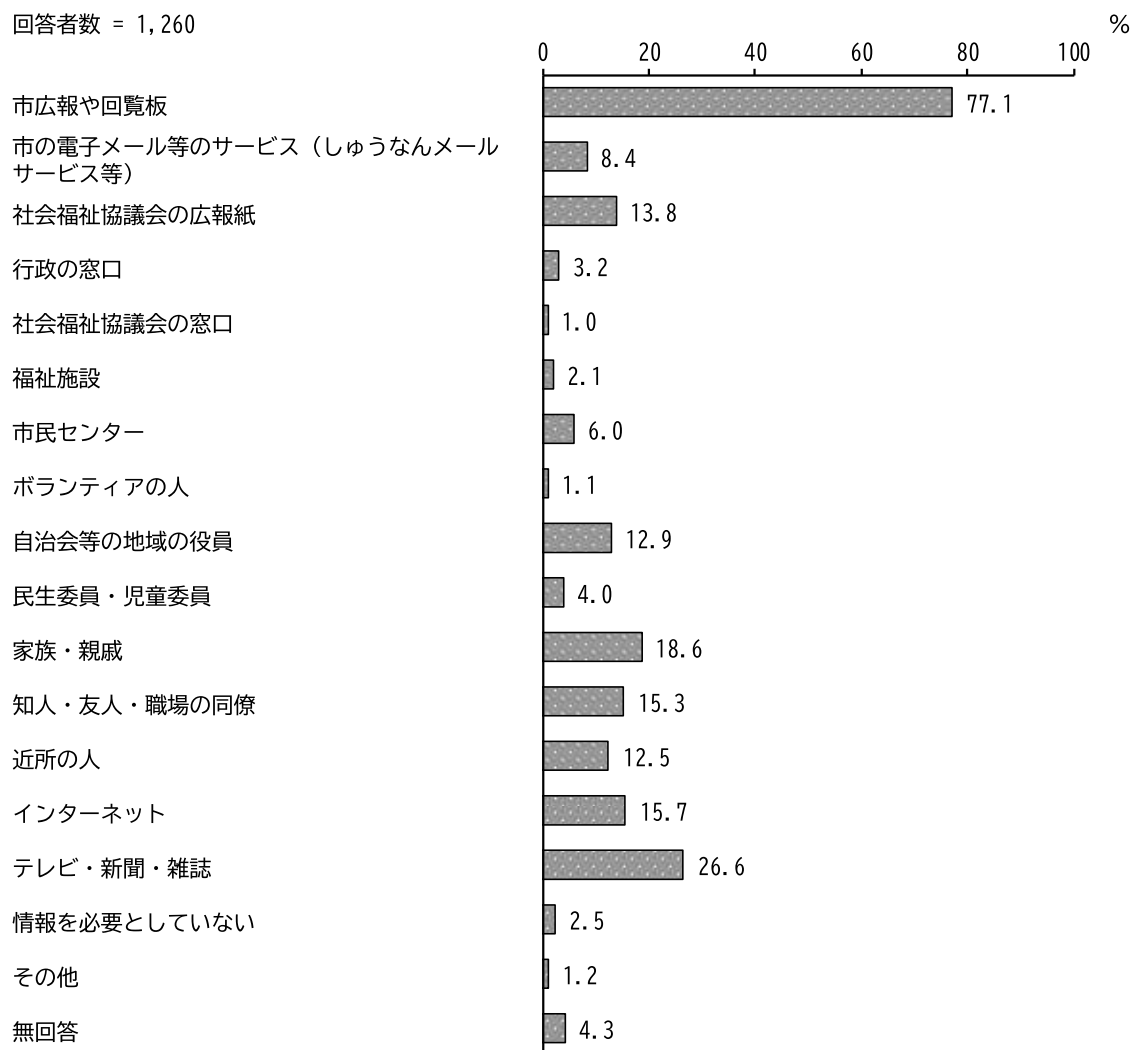
単位：%

区分	件数	地域の人々が知り合う機会を増やす	支え合う地域づくりに関する意識啓発をする	お互いの人格を認め合いながら、共に生きる地域づくり（まちづくり）に関する意識啓発をする、あるいは組織づくりをする	地域の自治会（町内会など）活動、地区社会福祉協議会、ボランティア活動への参加促進や活動支援をする	地域で活動する様々な団体同士の交流を進める	特になし	その他	無回答
全 体	1,260	34.2	19.8	26.0	27.7	11.4	15.0	1.7	7.1
10歳代・20歳代	69	37.7	15.9	23.2	17.4	14.5	20.3	—	1.4
30歳代	105	39.0	11.4	21.9	28.6	12.4	21.0	4.8	1.0
40歳代	158	32.3	17.1	18.4	22.8	16.5	26.6	1.9	1.9
50歳代	212	33.0	28.3	30.7	24.1	11.8	15.1	1.9	3.8
60歳代	238	34.5	21.4	25.2	31.1	10.9	12.2	1.7	5.0
70歳代	293	34.1	18.1	27.3	32.8	9.9	11.3	1.0	11.9
80歳代以上	168	32.7	18.5	28.0	28.0	8.9	9.5	1.8	15.5

問 30 あなたは、地域行事や福祉に関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

「市広報や回覧板」の割合が 77.1%と最も高く、次いで「テレビ・新聞・雑誌」の割合が 26.6%、「家族・親戚」の割合が 18.6%となっています。

回答者数 = 1,260



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「社会福祉協議会の広報紙」「テレビ・新聞・雑誌」の割合が高くなる傾向にあります。また、若年層、勤労者層で「インターネット」の割合が、高齢層で「自治会等の地域の役員」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	費 (件)	報 や 図	市の電 メール等 のサー ビス(し ゆん 等)	職 の 職	政 の 窓	職 の 窓	職	民 を し	ボ イ ア の 人	職 の 地 の 役
全 体	1,260	77.1	8.4	13.8	3.2	1.0	2.1	6.0	1.1	12.9
10歳代・20歳代	69	50.7	10.1	2.9	1.4	—	—	2.9	—	1.4
30歳代	105	72.4	4.8	4.8	2.9	—	—	3.8	1.0	6.7
40歳代	158	75.3	12.0	6.3	3.2	—	1.9	1.9	0.6	4.4
50歳代	212	75.9	15.6	9.9	2.8	0.5	1.9	2.4	0.5	3.3
60歳代	238	86.1	7.6	13.4	4.6	1.7	2.5	5.0	0.8	15.5
70歳代	293	81.9	6.1	22.5	4.1	1.0	2.0	12.3	1.7	23.2
80歳代以上	168	73.8	3.0	21.4	1.2	3.0	4.2	8.3	2.4	20.2

区分	費	報	職 の 役	近 の 人	タ ー ネ ッ ト	ゼ 職	報 を 要 求	の 他	職
全 体	4.0	18.6	15.3	12.5	15.7	26.6	2.5	1.2	4.3
10歳代・20歳代	—	27.5	23.2	5.8	33.3	17.4	10.1	1.4	1.4
30歳代	—	15.2	14.3	5.7	25.7	14.3	5.7	3.8	1.9
40歳代	1.3	20.3	17.1	3.8	25.3	22.2	2.5	1.9	0.6
50歳代	—	17.0	19.8	6.1	24.5	26.9	3.8	—	3.3
60歳代	2.1	15.1	14.7	10.9	12.2	27.7	0.4	1.3	2.9
70歳代	8.9	18.4	14.3	21.8	6.8	30.0	1.4	—	7.2
80歳代以上	10.1	22.0	8.9	21.4	2.4	34.5	1.2	2.4	7.1

【同居している要支援者の状態別】

同居している要支援者の状態別にみると、「介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない」で「市の電子メール等のサービス（しゅうなんメールサービス等）」「社会福祉協議会の広報紙」の割合が、「障害福祉サービスを受けている」で「行政の窓口」の割合が、「介護保険サービスを受けている」で「家族・親戚」の割合が高くなっています。

単位：％

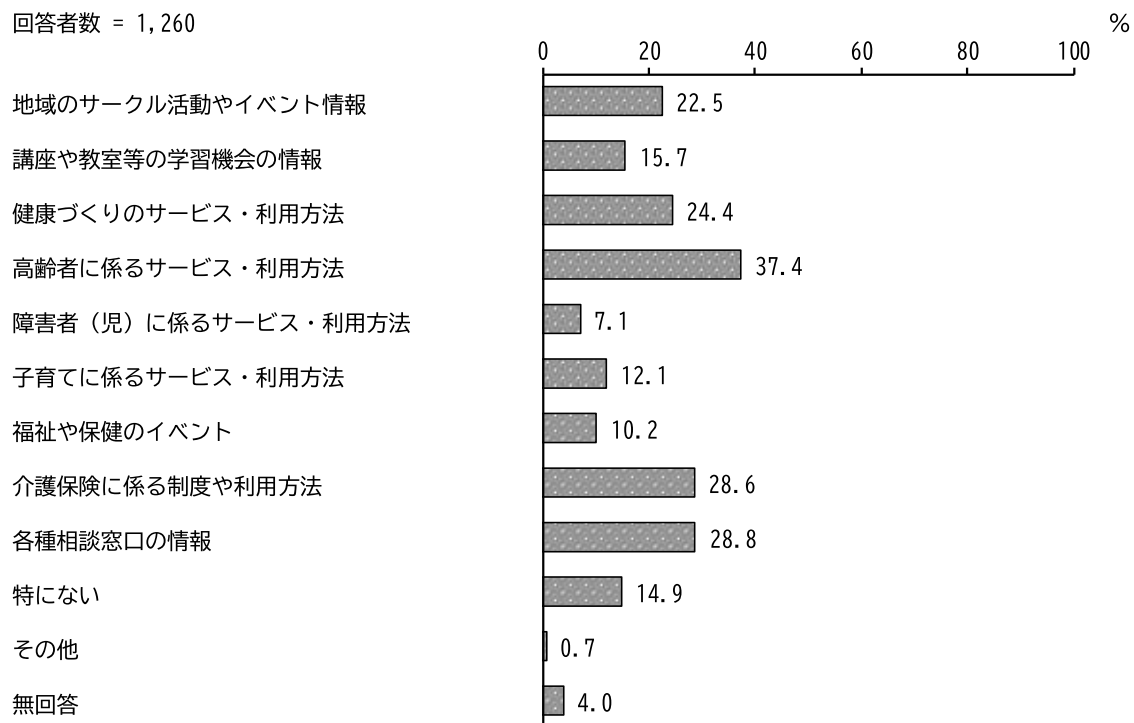
区分	数 (件)	親 や 祖 父 母	市の電 子メール 等のサ ービス (しゅう なんメ ールサ ービス 等)	親 戚 の 窓 口	障 害 の 窓 口	障 害 の 窓 口	障 害 の 窓 口	民 生 委 員 会	サ マ ー イ ン テ ー グ レ ー テ ィ ン グ	障 害 の 窓 口
全 体	256	80.1	8.2	16.0	6.6	0.8	5.9	5.9	1.2	10.5
6歳未満	21	90.5	19.0	4.8	—	—	—	9.5	—	4.8
外国籍	1	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—
介護保険サービスを受けている	131	83.2	8.4	16.0	6.1	1.5	6.1	6.1	1.5	14.5
障害福祉サービスを受けている	62	75.8	4.8	17.7	14.5	—	11.3	3.2	—	6.5
介護保険や障害福祉サービス等 公的サービスは受けていない	30	80.0	16.7	26.7	6.7	—	3.3	6.7	3.3	10.0
生活に困窮している	20	80.0	5.0	15.0	—	—	—	—	5.0	5.0
その他	20	75.0	—	5.0	—	—	—	5.0	—	15.0

区分	数	親 戚	親 戚 の 窓 口	近 所 の 人	タ ブ ー ネ ッ ト	互 に 訪 問	輔 助 を 要 す	其 他	障 害
全 体	2.7	17.2	14.5	15.2	18.8	27.0	—	1.6	3.5
6歳未満	—	9.5	9.5	14.3	23.8	19.0	—	4.8	4.8
外国籍	—	—	—	—	—	—	—	—	—
介護保険サービスを受けている	3.1	25.2	15.3	19.8	18.3	29.0	—	0.8	3.8
障害福祉サービスを受けている	3.2	16.1	19.4	9.7	16.1	22.6	—	1.6	4.8
介護保険や障害福祉サービス等 公的サービスは受けていない	3.3	13.3	10.0	13.3	23.3	26.7	—	—	3.3
生活に困窮している	—	10.0	15.0	10.0	15.0	30.0	—	—	5.0
その他	10.0	—	10.0	10.0	25.0	35.0	—	10.0	—

問 31 あなたは、福祉や保健に関する情報でどのようなものを入手したいですか。
(○はいくつでも)

「高齢者に係るサービス・利用方法」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「各種相談窓口の情報」の割合が 28.8%、「介護保険に係る制度や利用方法」の割合が 28.6%となっています。

回答者数 = 1,260



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「高齢者に係るサービス・利用方法」の割合が高くなる傾向にあります。若年層で「子育てに係るサービス・利用方法」の割合が、勤労者層で「地域のサークル活動やイベント情報」の割合が高い傾向にあります。また、50歳代で「各種相談窓口の情報」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	費 (件)	地域 のサークル 活動	障 害 の 有 無 の 有 無	健康 の 有 無 の 有 無	健康 の 有 無 の 有 無	障 害 の 有 無 の 有 無	障 害 の 有 無 の 有 無	障 害 の 有 無 の 有 無	障 害 の 有 無 の 有 無	障 害 の 有 無 の 有 無	障 害 の 有 無 の 有 無	障 害 の 有 無 の 有 無	障 害 の 有 無 の 有 無
全 体	1,260	22.5	15.7	24.4	37.4	7.1	12.1	10.2	28.6	28.8	14.9	0.7	4.0
10歳代・20歳代	69	21.7	14.5	18.8	8.7	4.3	36.2	7.2	8.7	23.2	29.0	—	—
30歳代	105	27.6	23.8	15.2	12.4	13.3	49.5	9.5	14.3	26.7	18.1	1.9	1.0
40歳代	158	29.7	18.4	17.1	23.4	10.8	23.4	7.0	20.3	23.4	23.4	0.6	0.6
50歳代	212	23.6	17.0	21.2	34.4	9.0	7.1	9.4	34.0	40.1	14.6	0.9	2.8
60歳代	238	20.6	18.5	29.8	39.9	6.7	6.3	12.6	33.2	29.8	15.5	0.8	2.9
70歳代	293	20.8	13.0	27.0	50.2	3.4	1.4	12.3	32.4	30.0	8.5	—	6.1
80歳代以上	168	16.1	8.9	30.4	53.6	6.0	3.0	9.5	32.7	21.4	10.7	1.2	9.5

【同居している要支援者の状態別】

同居している要支援者の状態別にみると、「障害福祉サービスを受けている」で「障害者（児）に係るサービス・利用方法」の割合が、「6歳未満」で「子育てに係るサービス・利用方法」の割合が、「介護保険サービスを受けている」で「介護保険に係る制度や利用方法」の割合が、「介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない」で「各種相談窓口の情報」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	数 (件)	地域 のサ ービ ス	機 器 の サ ービ ス	ス キ ル の サ ービ ス	ス キ ル に 係 る サ ービ ス	サ ービ ス (児 に 係 る)	サ ービ ス に 係 る サ ービ ス	ト ク や 健 の サ ービ ス	サ ービ ス に 係 る サ ービ ス	サ ービ ス に 係 る サ ービ ス	特 に 注 意 す べ き 点	の 他	其 他
全 体	256	21.5	16.4	24.6	50.0	18.8	12.9	12.9	39.1	31.6	4.7	1.2	3.5
6歳未満	21	33.3	9.5	19.0	9.5	23.8	76.2	4.8	14.3	14.3	9.5	—	—
外国籍	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
介護保険サービスを受けている	131	21.4	16.8	31.3	64.9	7.6	8.4	16.0	52.7	31.3	5.3	2.3	2.3
障害福祉サービスを受けている	62	17.7	11.3	19.4	38.7	43.5	6.5	16.1	30.6	30.6	6.5	—	1.6
介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない	30	33.3	16.7	30.0	36.7	10.0	—	10.0	36.7	23.3	3.3	—	6.7
生活に困窮している	20	20.0	15.0	10.0	25.0	25.0	20.0	10.0	25.0	55.0	5.0	—	—
その他	20	10.0	25.0	20.0	65.0	20.0	15.0	20.0	25.0	40.0	—	5.0	10.0

【情報の入手手段別】

情報の入手手段別にみると、「行政の窓口」で「地域のサークル活動やイベント情報」の割合が、「市民センター」で「講座や教室等の学習機会の情報」「健康づくりのサービス・利用方法」の割合が、「民生委員・児童委員」と「近所の人」で「高齢者に係るサービス・利用方法」の割合が高くなっています。

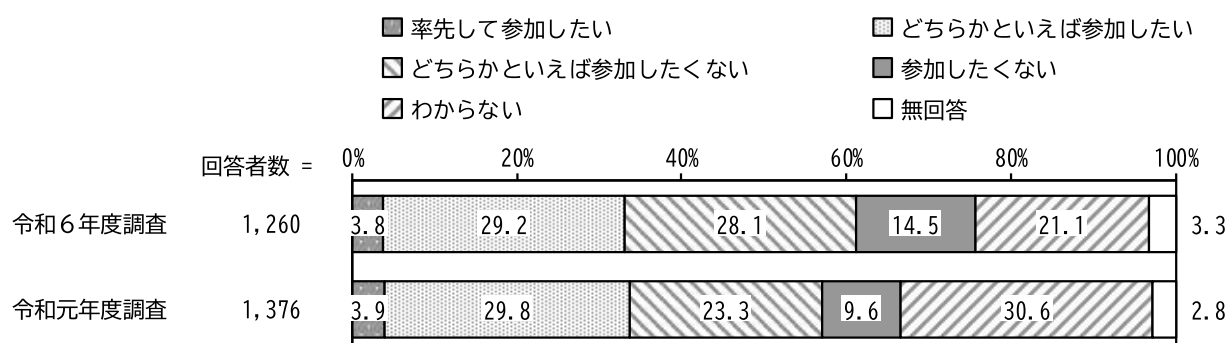
単位：％

区分	数 (件)	地域 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動	健康 のサー クル 活動
全 体	1,260	22.5	15.7	24.4	37.4	7.1	12.1	10.2	28.6	28.8	14.9	0.7	4.0
市広報や回覧板	971	25.4	17.2	27.3	39.8	7.0	11.1	11.1	29.9	29.4	12.2	0.4	3.5
市の電子メール等のサービス（しゅうなんメールサービス等）	106	34.0	33.0	34.0	33.0	8.5	13.2	17.0	30.2	37.7	8.5	0.9	0.9
社会福祉協議会の広報紙	174	30.5	22.4	34.5	51.7	12.1	8.6	23.6	35.6	27.6	7.5	—	2.9
行政の窓口	40	40.0	32.5	22.5	35.0	22.5	17.5	30.0	32.5	40.0	12.5	—	—
社会福祉協議会の窓口	13	38.5	38.5	69.2	53.8	30.8	30.8	53.8	38.5	61.5	—	—	—
福祉施設	26	30.8	23.1	26.9	42.3	34.6	11.5	30.8	38.5	23.1	7.7	—	3.8
市民センター	76	38.2	43.4	48.7	47.4	15.8	19.7	19.7	35.5	35.5	3.9	—	5.3
ボランティアの人	14	28.6	35.7	50.0	57.1	14.3	14.3	35.7	42.9	28.6	7.1	—	7.1
自治会等の地域の役員	162	29.6	17.3	32.1	50.0	6.8	10.5	19.1	41.4	26.5	9.9	—	3.7
民生委員・児童委員	51	31.4	31.4	43.1	64.7	9.8	9.8	21.6	29.4	37.3	3.9	—	3.9
家族・親戚	234	23.5	17.5	32.9	43.2	8.1	13.2	12.8	33.3	31.2	12.8	0.4	4.3
知人・友人・職場の同僚	193	31.6	24.4	34.7	39.4	9.3	14.5	15.5	31.1	30.6	13.5	0.5	3.1
近所の人	157	23.6	18.5	31.2	60.5	6.4	7.6	18.5	42.0	31.2	7.6	—	1.9
インターネット	198	28.8	23.7	28.8	33.3	9.6	23.2	15.2	30.8	34.3	14.6	2.0	1.5
テレビ・新聞・雑誌	335	22.4	15.8	33.1	44.8	7.5	8.7	11.9	34.0	32.5	10.7	0.9	3.6
情報を必要としていない	32	—	6.3	3.1	6.3	3.1	9.4	3.1	3.1	12.5	71.9	3.1	—
その他	15	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	26.7	20.0	13.3	33.3	26.7	13.3	—

問 32 あなたは、「地域福祉活動（＝住民による身近な支え合いの活動）」に参加したいと思いますか。（○は1つ）

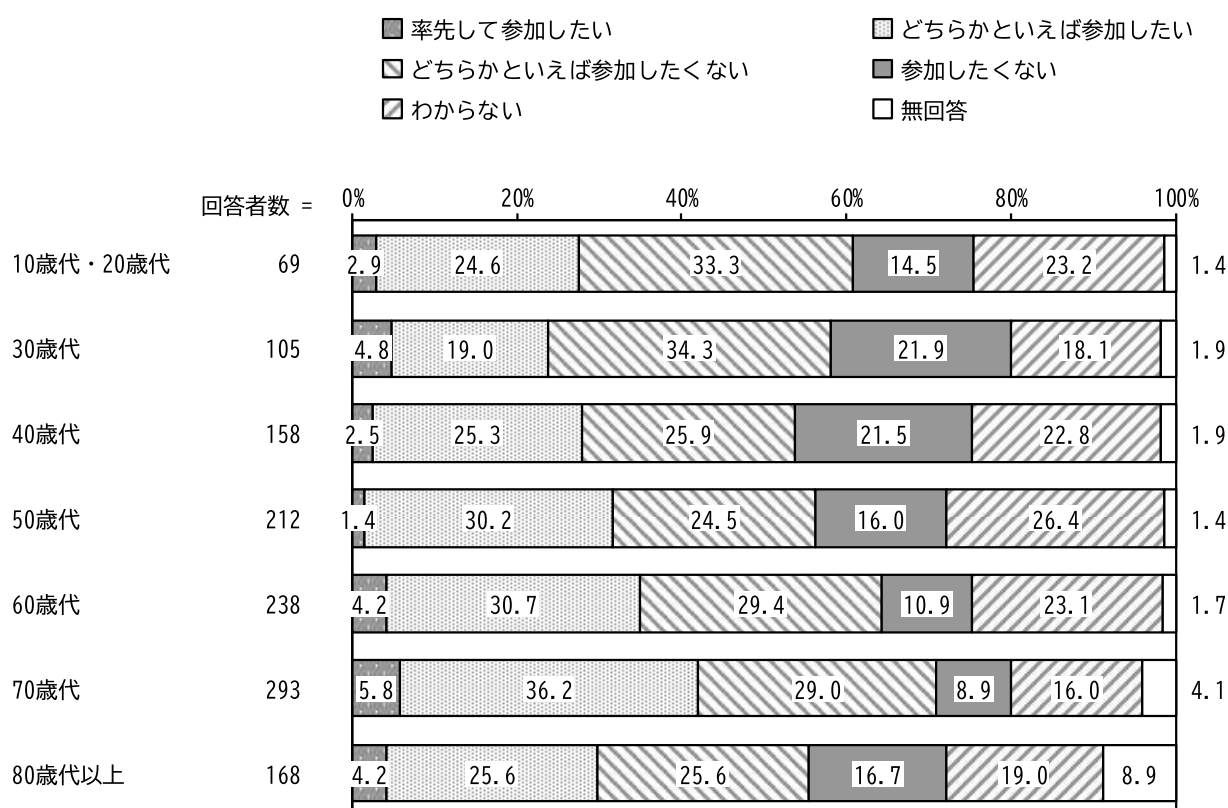
「率先して参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた“参加したい”の割合が 33.0%、「どちらかといえば参加したくない」と「参加したくない」を合わせた“参加したくない”の割合が 42.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、“参加したくない”の割合が 9.7 ポイント増加しています。



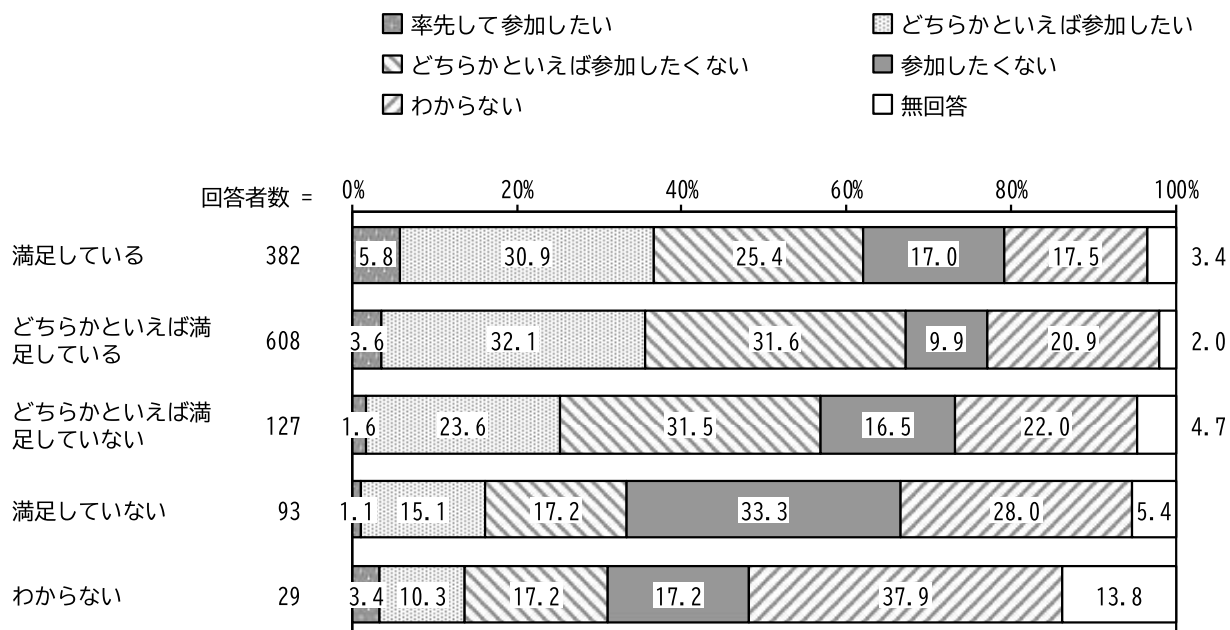
【年齢別】

年齢別にみると、“参加したい”の割合は、70歳代以下では年齢が上がるほど高くなる傾向にあります。また、30歳代で“参加したくない”の割合が最も高くなっています。



【暮らしの満足度別】

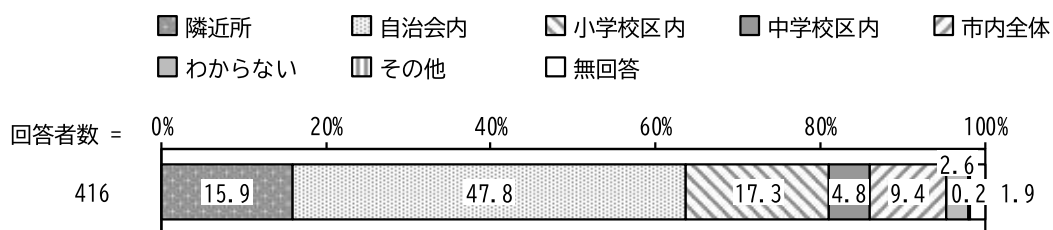
暮らしの満足度別にみると、満足度が下がるほど“参加したい”の割合は低くなる傾向にあり、「参加したくない」の割合は満足していないが最も高くなっています。



問 33 問 32 で、「率先して参加したい」「どちらかといえば参加したい」と回答した方にお尋ねします。

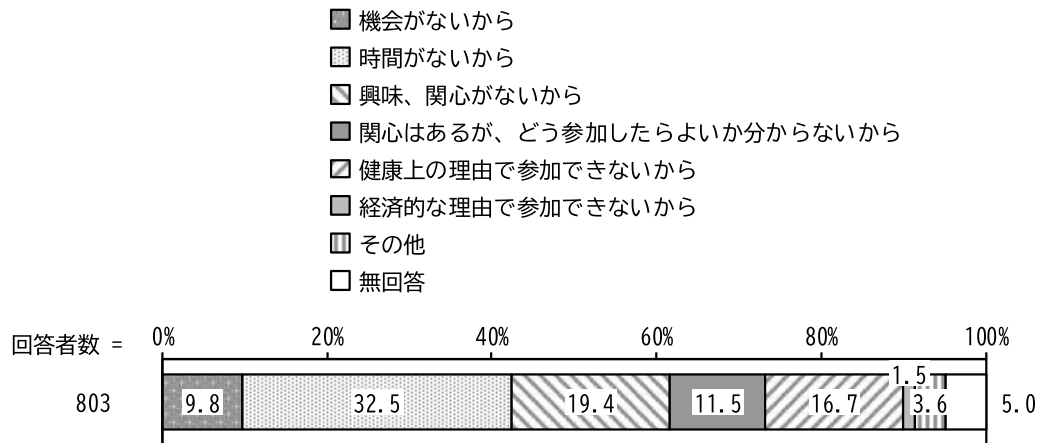
あなたが地域福祉活動に参加する場合、どの範囲まで活動ができると考えますか。
(○は1つ)

「自治会内」の割合が47.8%と最も高く、次いで「小学校区内」の割合が17.3%、「隣近所」の割合が15.9%となっています。



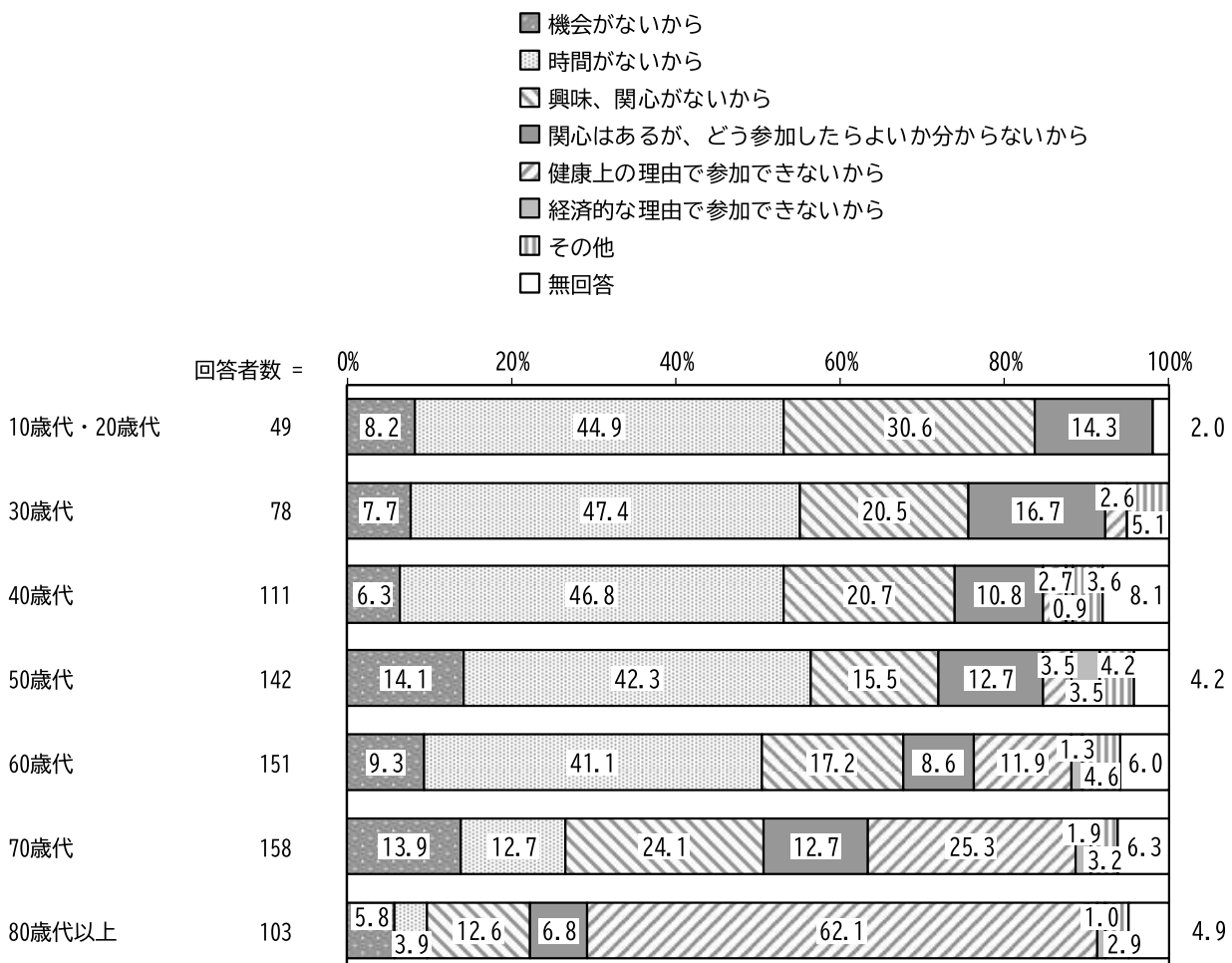
問 34 問 32 で、地域福祉活動に「どちらかといえば参加したくない」「参加したくない」「わからない」と回答した方にお尋ねします。
 主な理由を教えてください。(○は1つ)

「時間がないから」の割合が 32.5%と最も高く、次いで「興味、関心がないから」の割合が 19.4%、「健康上の理由で参加できないから」の割合が 16.7%となっています。



【年齢別】

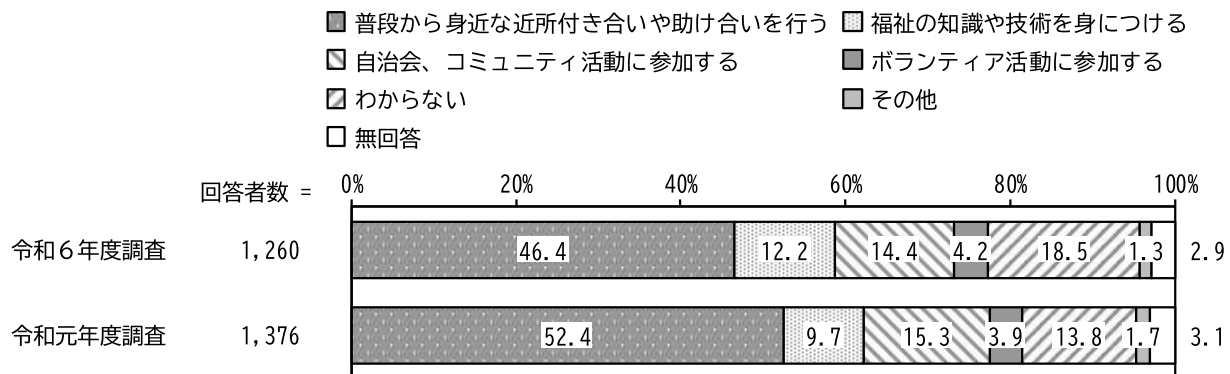
年齢別にみると、60 歳代以下で「時間がないから」の割合が高い傾向にあり、若年層で高くなっています。また、年齢が上がるにつれて「健康上の理由で参加できないから」の割合が高くなっており、80 歳代以上で6割を超えています。



問 35 地域福祉を進めていくために、住民一人一人はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(〇は1つ)

「普段から身近な近所付き合いや助け合いを行う」の割合が 46.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 18.5%、「自治会、コミュニティ活動に参加する」の割合が 14.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「普段から身近な近所付き合いや助け合いを行う」の割合が 6 ポイント減少しています。

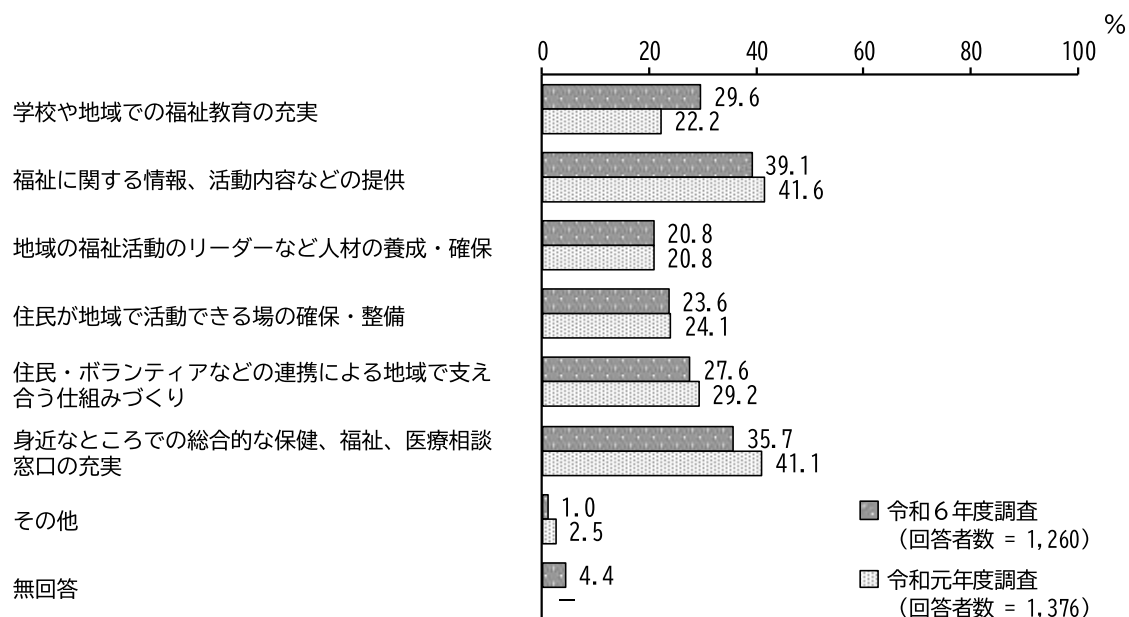


※前回調査では、「普段から身近な近所付き合いや助け合いを行う」が「身近な近所付き合いや助け合い」、「自治会、コミュニティ活動に参加する」が「自治会、コミュニティ活動に積極的に参加する」となっていました。

問 36 今後、取り組むべき地域福祉の課題として、次のうちどれを優先させるのがよいと考えますか。(〇は3つまで)

「福祉に関する情報、活動内容などの提供」の割合が 39.1%と最も高く、次いで「身近なところでの総合的な保健、福祉、医療相談窓口の充実」の割合が 35.7%、「学校や地域での福祉教育の充実」の割合が 29.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「学校や地域での福祉教育の充実」の割合が 7.4 ポイント増加しています。一方、「身近なところでの総合的な保健、福祉、医療相談窓口の充実」の割合が 5.4 ポイント減少しています。



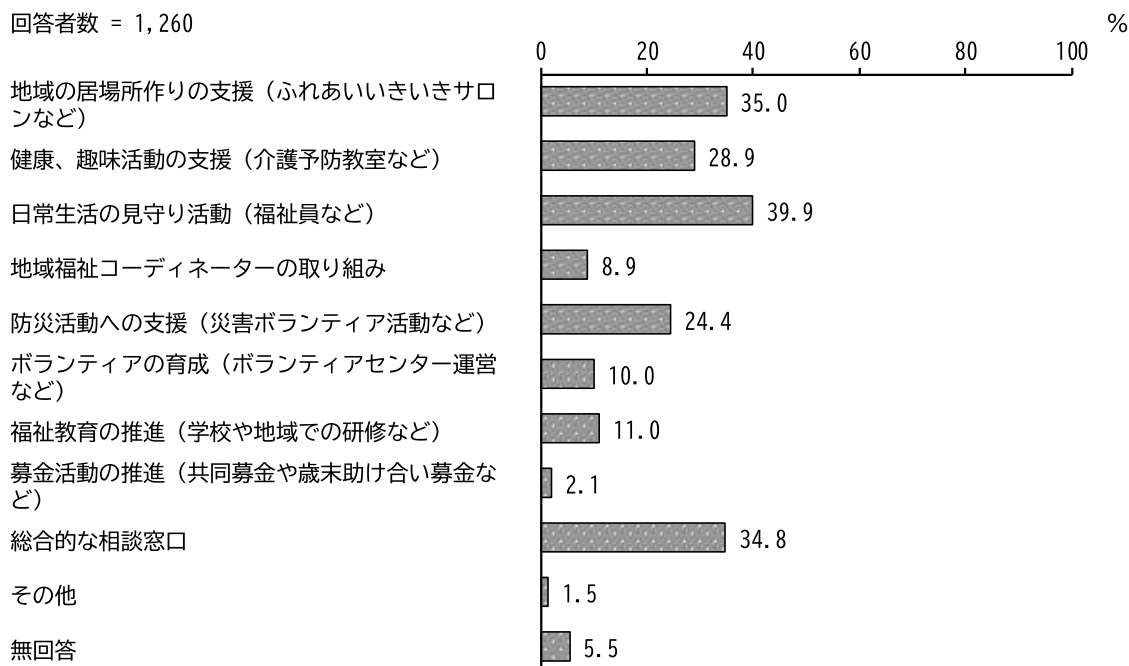
※前回調査では、「地域の福祉活動のリーダーなど人材の養成・確保」が「リーダーなど人材の養成・確保」となっていました。

(4) 社会福祉協議会、民生委員・児童委員について

問 37 周南市社会福祉協議会の活動の中で、今後、充実してほしいと思うものはどれですか。
(○は3つまで)

「日常生活の見守り活動（福祉員など）」の割合が 39.9%と最も高く、次いで「地域の居場所作りの支援（ふれあいいきいきサロンなど）」の割合が 35.0%、「総合的な相談窓口」の割合が 34.8%となっています。

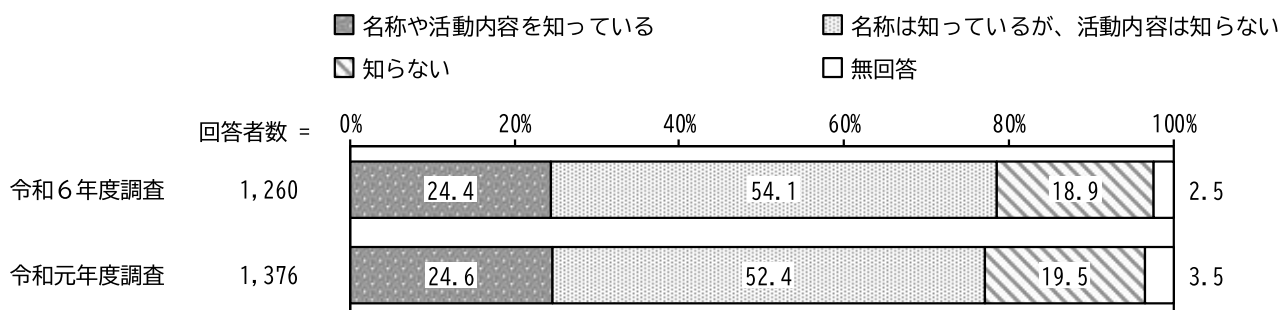
回答者数 = 1,260



問 38 あなたは、周南市社会福祉協議会を知っていましたか。(○は1つ)

「名称は知っているが、活動内容は知らない」の割合が 54.1%と最も高く、次いで「名称や活動内容を知っている」の割合が 24.4%、「知らない」の割合が 18.9%となっています。

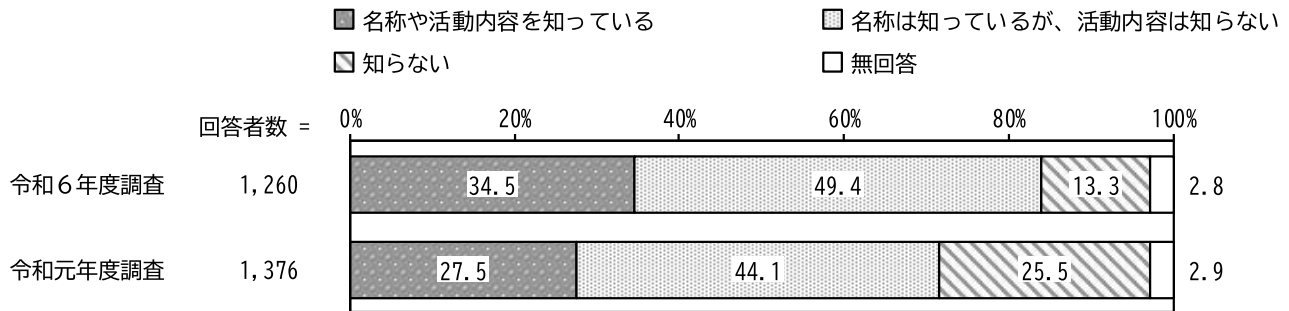
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 39 あなたは、民生委員・児童委員制度を知っていましたか。(○は1つ)

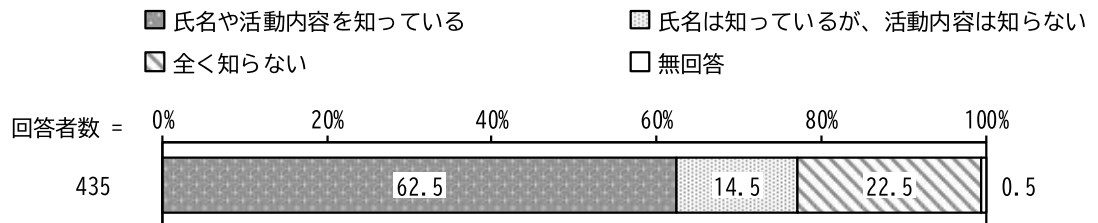
「名称は知っているが、活動内容は知らない」の割合が 49.4%と最も高く、次いで「名称や活動内容を知っている」の割合が 34.5%、「知らない」の割合が 13.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「名称や活動内容を知っている」の割合が7ポイント、「名称は知っているが、活動内容は知らない」の割合が5.3ポイント増加しています。一方、「知らない」の割合が12.2ポイント減少しています。



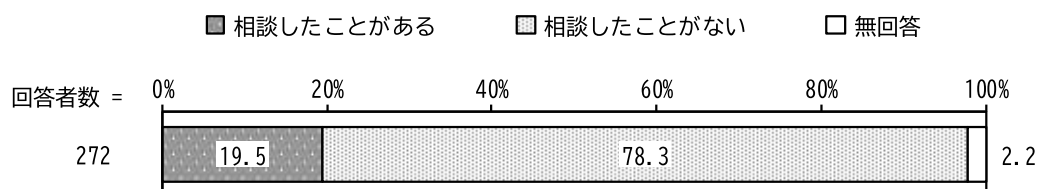
問 40 問 39 で、「名称や活動内容を知っている」と回答した方にお尋ねします。
あなたの地区を担当している民生委員・児童委員を知っていますか。(○は1つ)

「氏名や活動内容を知っている」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「全く知らない」の割合が 22.5%、「氏名は知っているが、活動内容は知らない」の割合が 14.5%となっています。



問 41 問 40 で、「氏名や活動内容を知っている」と回答した方にお尋ねします。
民生委員・児童委員に相談したことがありますか。(○は1つ)

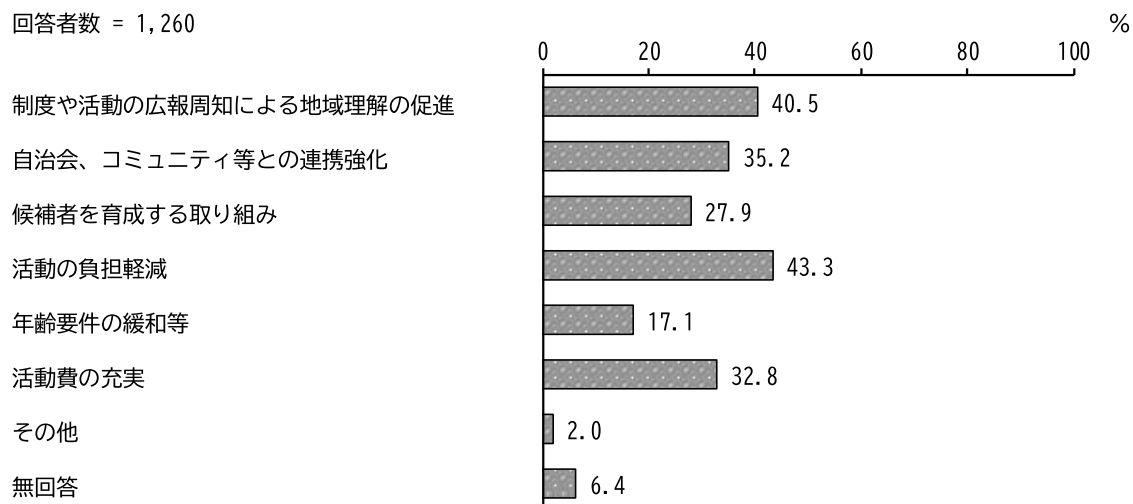
「相談したことがある」の割合が 19.5%、「相談したことがない」の割合が 78.3%となっています。



問 42 民生委員・児童委員も他の地域福祉団体と同様に担い手不足が問題となっています。担い手を増やすために必要だと考えることをお答えください。(〇は3つ)

「活動の負担軽減」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「制度や活動の広報周知による地域理解の促進」の割合が 40.5%、「自治会、コミュニティ等との連携強化」の割合が 35.2%となっています。

回答者数 = 1,260



【年齢別】

年齢別にみると、若年層で「活動費の充実」の割合が高くなっています。また、50歳代と60歳代で「活動の負担軽減」の割合が高くなっています。

単位：%

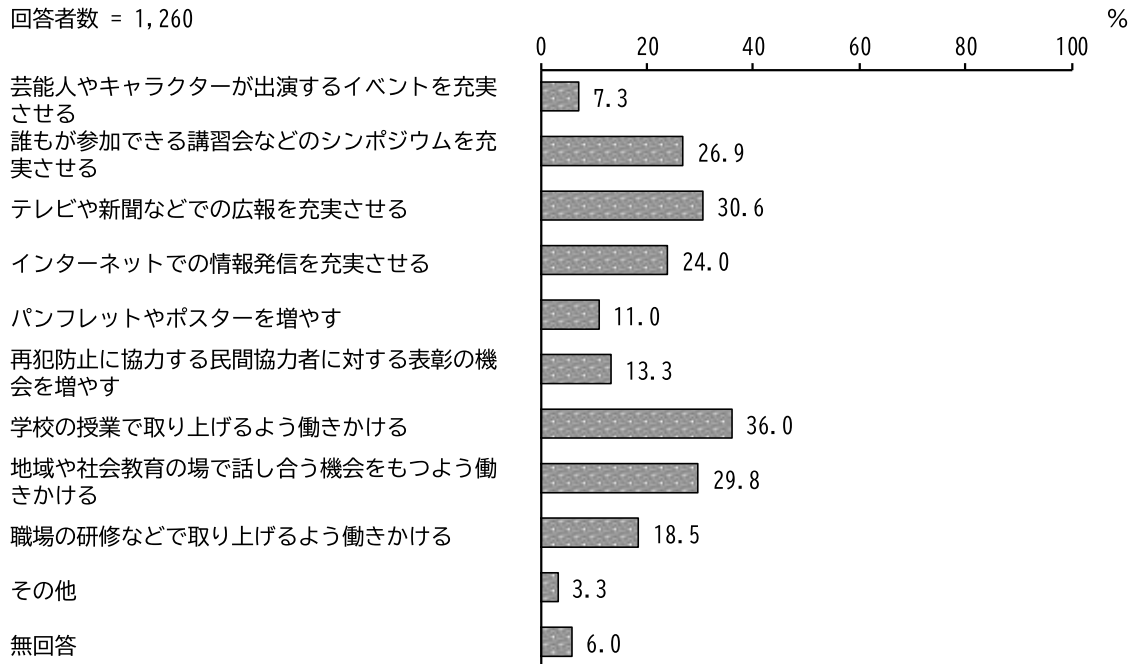
区分	件数	制度や活動の広報周知による地域理解の促進	自治会、コミュニティ等との連携強化	候補者を育成する取り組み	活動の負担軽減	年齢要件の緩和等	活動費の充実	その他	無回答
全 体	1,260	40.5	35.2	27.9	43.3	17.1	32.8	2.0	6.4
10歳代・20歳代	69	34.8	26.1	18.8	49.3	18.8	44.9	1.4	4.3
30歳代	105	42.9	27.6	32.4	43.8	20.0	43.8	1.0	2.9
40歳代	158	38.6	25.3	25.9	43.0	11.4	37.3	4.4	1.9
50歳代	212	40.1	34.9	27.8	51.9	15.6	42.0	2.4	2.8
60歳代	238	37.0	37.0	27.7	50.8	15.5	35.7	1.3	6.3
70歳代	293	43.7	41.0	31.1	39.2	21.5	22.5	1.4	9.2
80歳代以上	168	42.9	39.9	24.4	28.0	16.7	20.8	2.4	13.1

(5) 再犯防止の取り組みについて

問 43 あなたは、再犯防止に関して、広く理解や関心を深めるためには、何に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「学校の授業で取り上げるよう働きかける」の割合が 36.0%と最も高く、次いで「テレビや新聞などでの広報を充実させる」の割合が 30.6%、「地域や社会教育の場で話し合う機会をもつよう働きかける」の割合が 29.8%となっています。

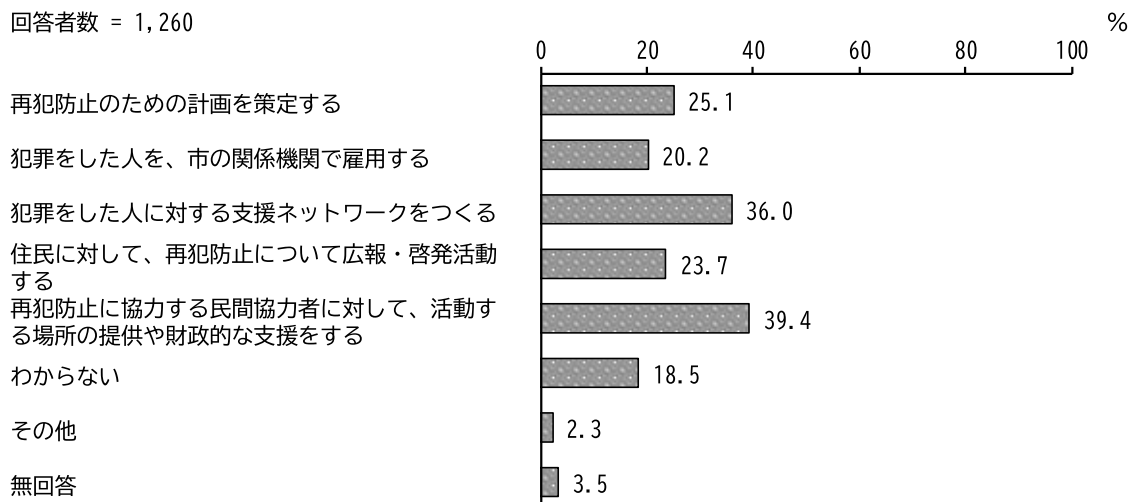
回答者数 = 1,260



問 44 再犯防止のために、周南市は何に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「再犯防止に協力する民間協力者に対して、活動する場所の提供や財政的な支援をする」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「犯罪をした人に対する支援ネットワークをつくる」の割合が 36.0%となっています。

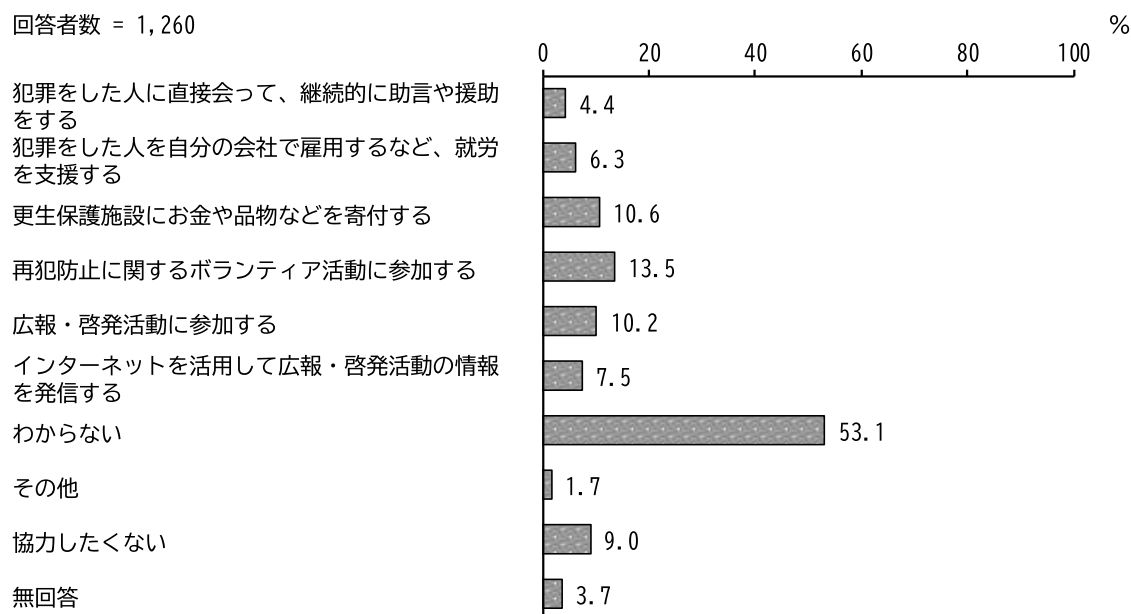
回答者数 = 1,260



問 45 あなたは、再犯防止のために、どのような協力をしたいと思いますか。(○は3つまで)

「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」の割合が 13.5%、「更生保護施設にお金や品物などを寄付する」の割合が 10.6%となっています。

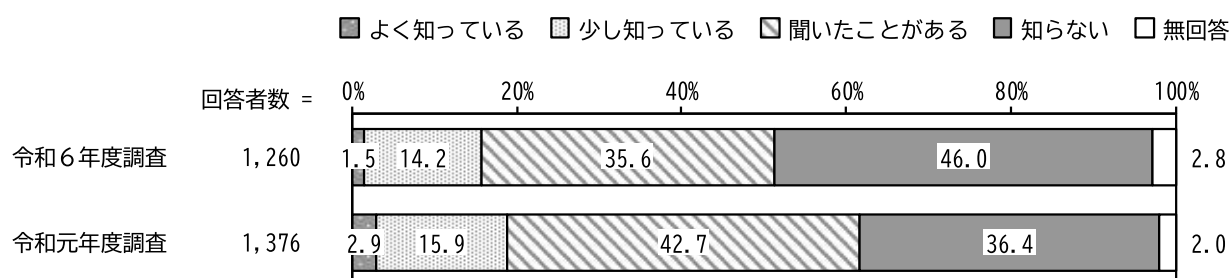
回答者数 = 1,260



問 46 あなたは、再犯防止の取り組みを知っていましたか。(○は1つ)

「知らない」の割合が 46.0%と最も高く、次いで「聞いたことがある」の割合が 35.6%、「少し知っている」の割合が 14.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「知らない」の割合が 9.6 ポイント増加しています。一方、「聞いたことがある」の割合が 7.1 ポイント減少しています。

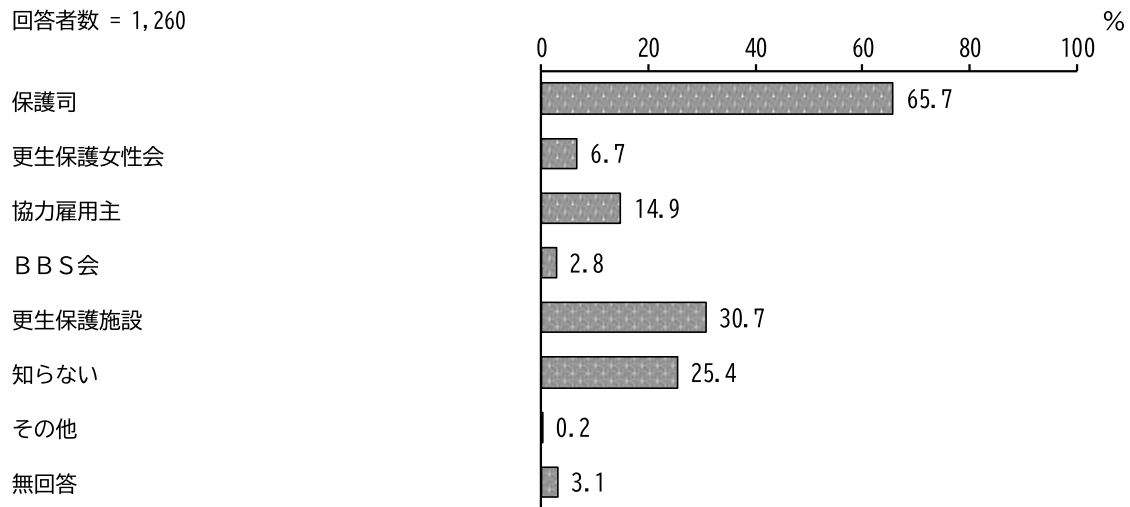


※前回調査では、「聞いたことがある」が「よく知らないが聞いたことがある」となっていました。

問 47 再犯防止に協力する民間協力者として、知っているものに○をつけてください。
(○はいくつでも)

「保護司」の割合が 65.7%と最も高く、次いで「更生保護施設」の割合が 30.7%、「知らない」の割合が 25.4%となっています。

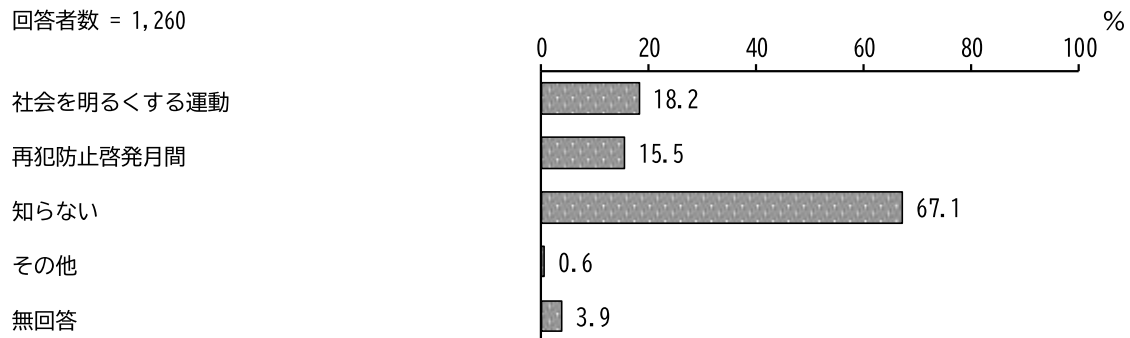
回答者数 = 1,260



問 48 再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みで知っているものに○をつけてください。
(○はいくつでも)

「知らない」の割合が 67.1%と最も高く、次いで「社会を明るくする運動」の割合が 18.2%、「再犯防止啓発月間」の割合が 15.5%となっています。

回答者数 = 1,260

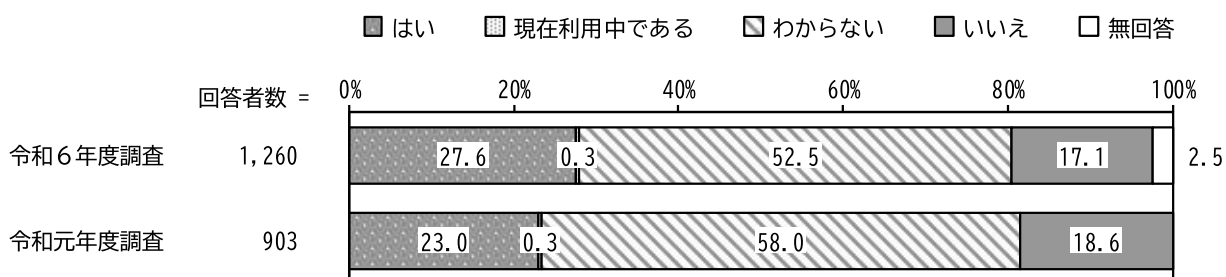


(6) 成年後見制度について

問 49 あなたは、必要となったときには、成年後見制度を利用したいと思いますか。
(○は1つ)

「わからない」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「はい」の割合が 27.6%、「いいえ」の割合が 17.1%となっています。

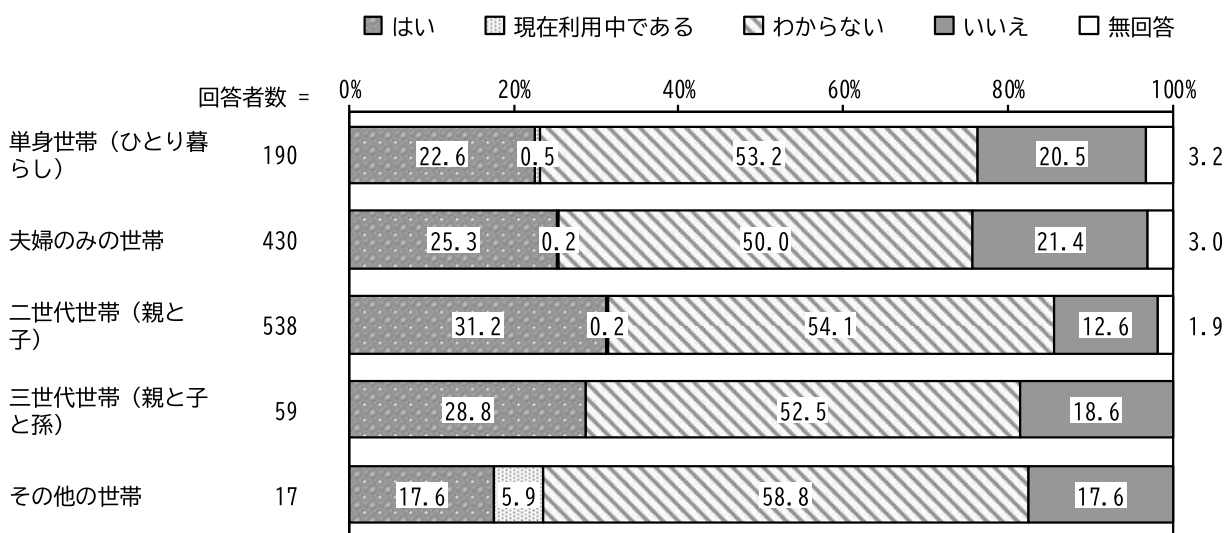
令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が 5.5 ポイント減少しています。



※前回調査では、「利用中」となっていました。

【世帯構成別】

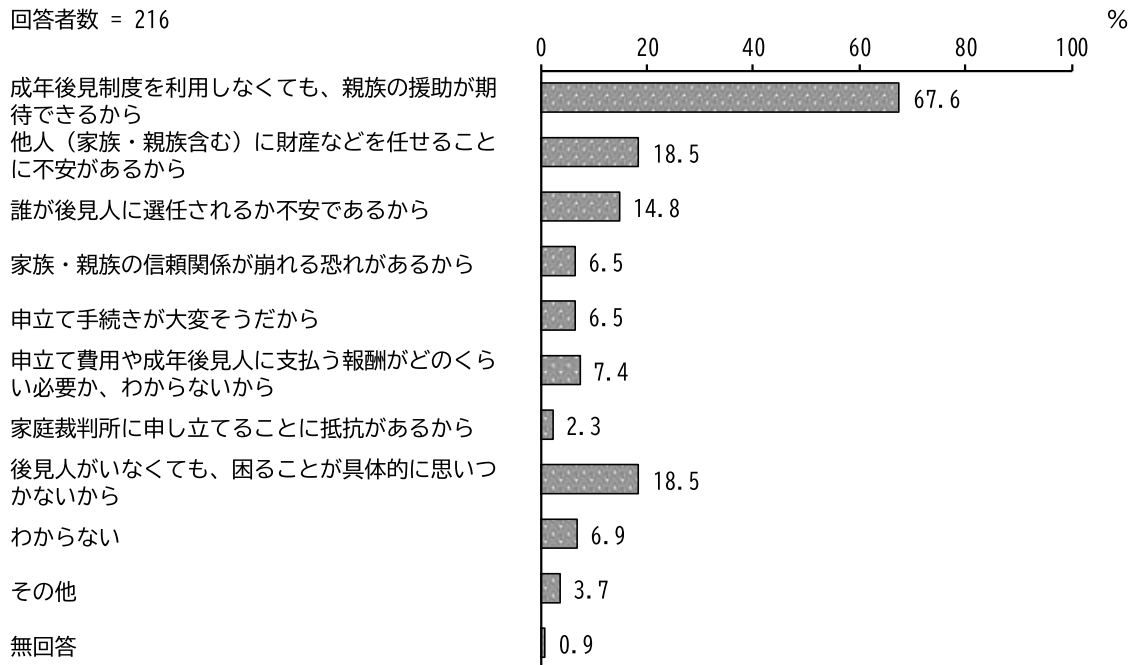
世帯構成別にみると、「二世世代世帯（親と子）」で「はい」の割合が高くなっています。また、「単身世帯（ひとり暮らし）」、「夫婦のみの世帯」で「いいえ」の割合がわずかに高くなっています。



問 50 問 49 で「いいえ」と答えた方にお尋ねします。
利用したくない理由は何ですか。(○は3つまで)

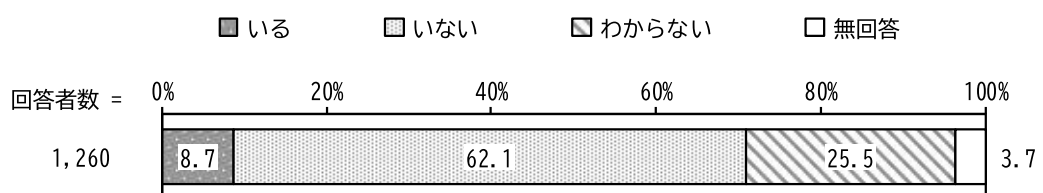
「成年後見制度を利用しなくても、親族の援助が期待できるから」の割合が 67.6%と最も高く、次いで「他人（家族・親族含む）に財産などを任せることに不安があるから」、「後見人がいなくても、困ることが具体的に思いつかないから」の割合が 18.5%となっています。

回答者数 = 216



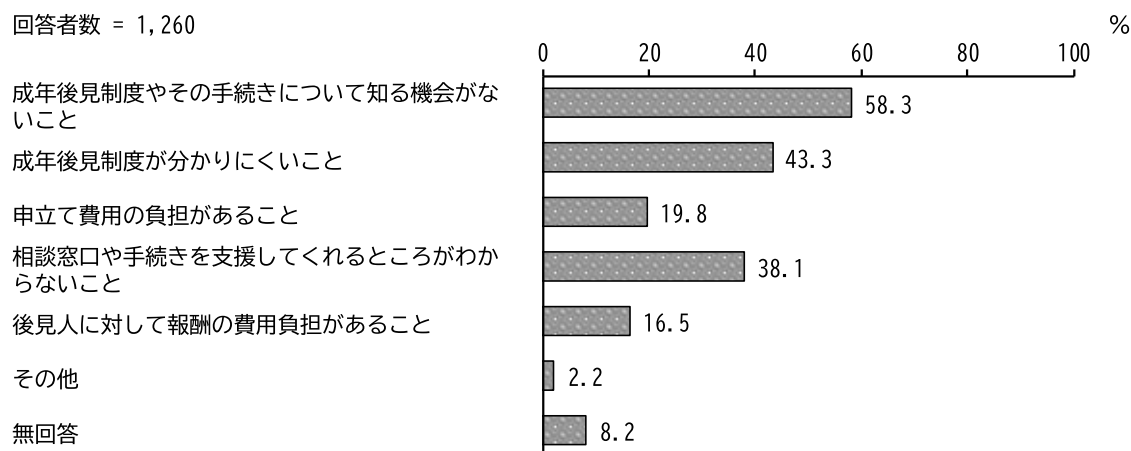
問 51 現在、あなたの身近に成年後見制度の利用が望ましい人がいますか。(○は1つ)

「いない」の割合が 62.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 25.5%、「いる」の割合が 8.7%となっています。



問 52 成年後見制度の利用を促進するには、何が課題だと思いますか。(○は3つまで)

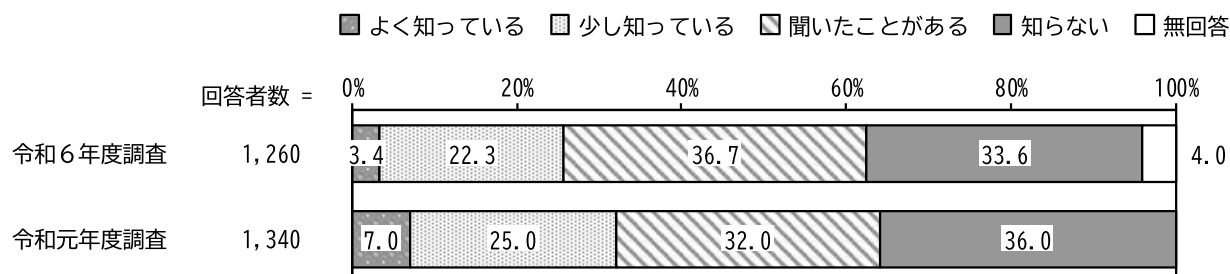
「成年後見制度やその手続きについて知る機会がないこと」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「成年後見制度が分かりにくいこと」の割合が 43.3%、「相談窓口や手続きを支援してくれるところがないこと」の割合が 38.1%となっています。



問 53 あなたは、成年後見制度を知っていましたか。(○は1つ)

「聞いたことがある」の割合が 36.7%と最も高く、次いで「知らない」の割合が 33.6%、「少し知っている」の割合が 22.3%となっています。

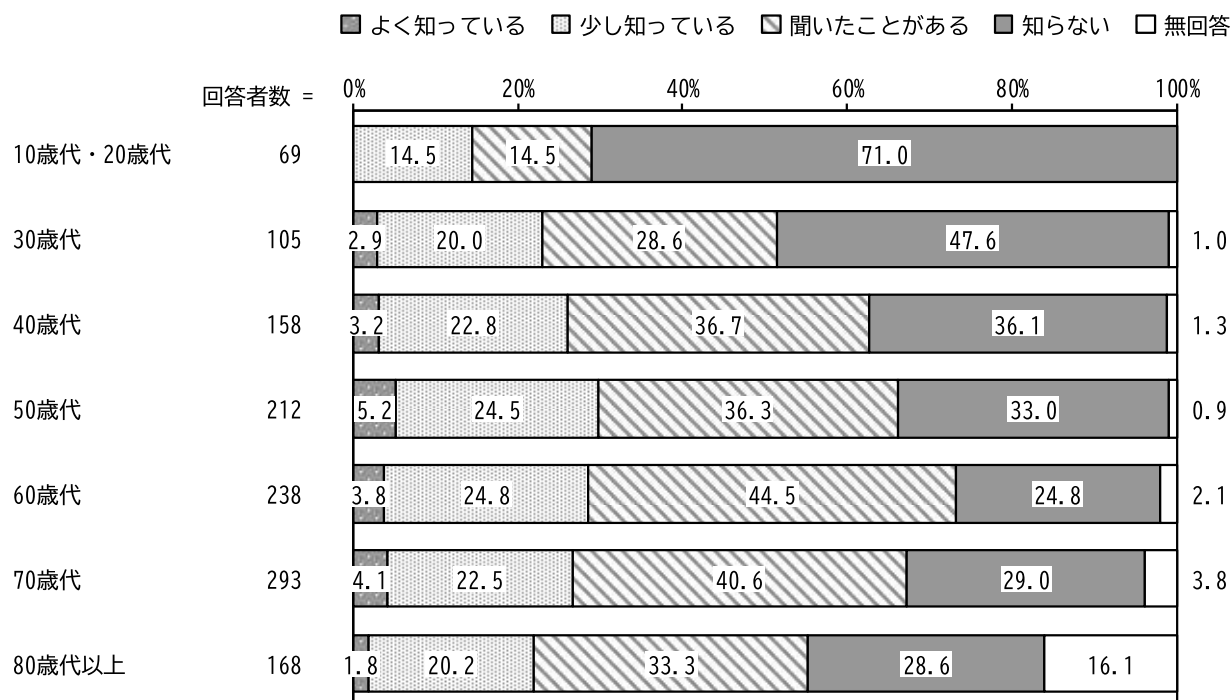
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※前回調査では、「聞いたことがある」が「良く知らないが聞いたことがある」となっていました。

【年齢別】

年齢別にみると、60歳代以下では年齢が下がるにつれ「知らない」の割合が高くなっており、10歳代・20歳代で最も高くなっています。また、60歳代で「聞いたことがある」の割合が高くなっています。

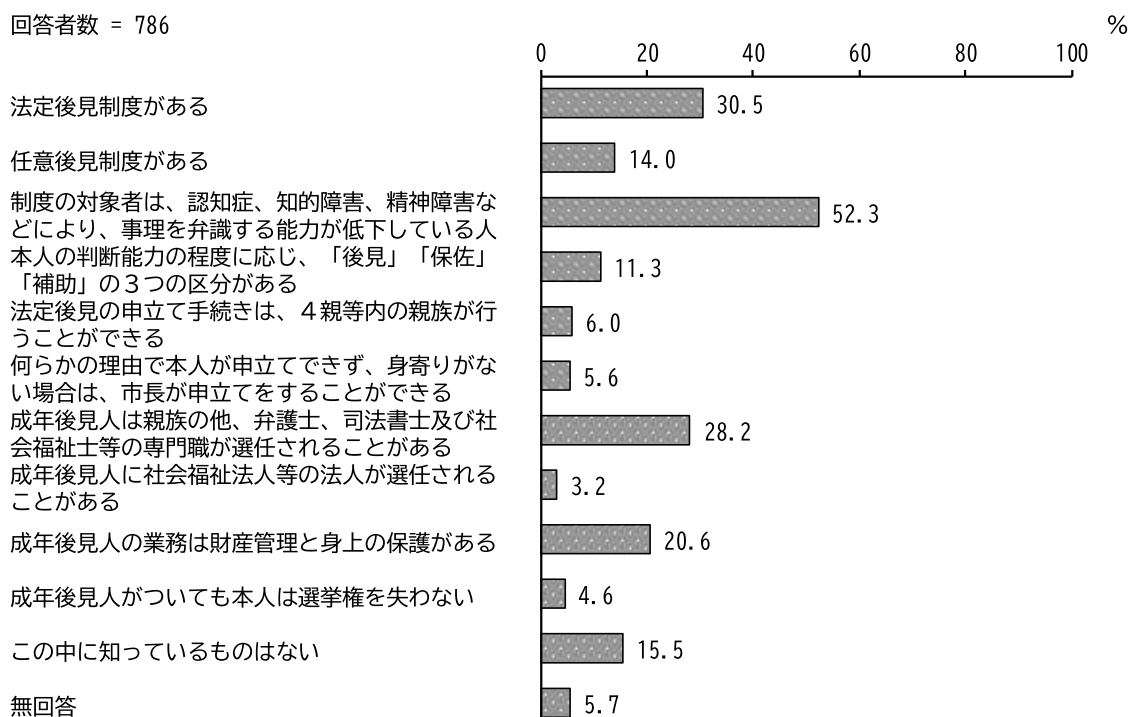


問 54 問 53 で「よく知っている」「少し知っている」「聞いたことがある」と答えた方にお尋ねします。

知っているものに○をつけてください。(○はいくつでも)

「制度の対象者は、認知症、知的障害、精神障害などにより、事理を弁識する能力が低下している人」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「法定後見制度がある」の割合が 30.5%、「成年後見人は親族の他、弁護士、司法書士及び社会福祉士等の専門職が選任されることがある」の割合が 28.2%となっています。

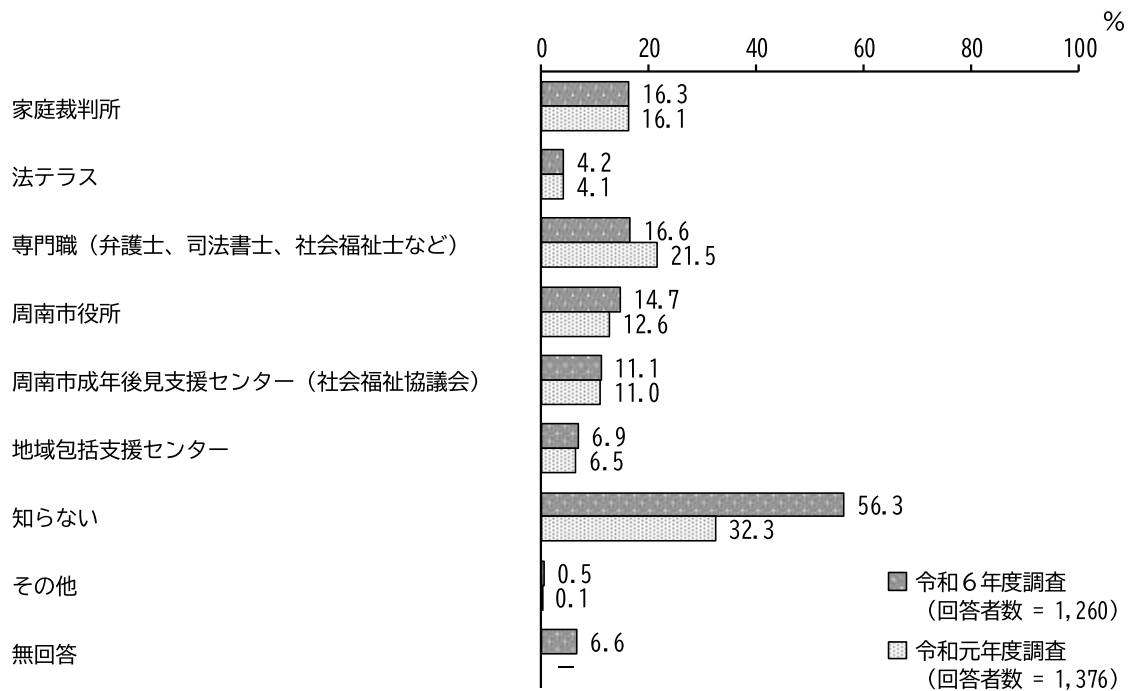
回答者数 = 786



問 55 成年後見制度の相談先を知っていますか。(〇はいくつでも)

「知らない」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士など）」の割合が 16.6%、「家庭裁判所」の割合が 16.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「知らない」の割合が 24 ポイント増加しています。



※前回調査では、「周南市成年後見支援センター（社会福祉協議会）」が「社会福祉協議会」となっていました。

【成年後見制度利用希望別】

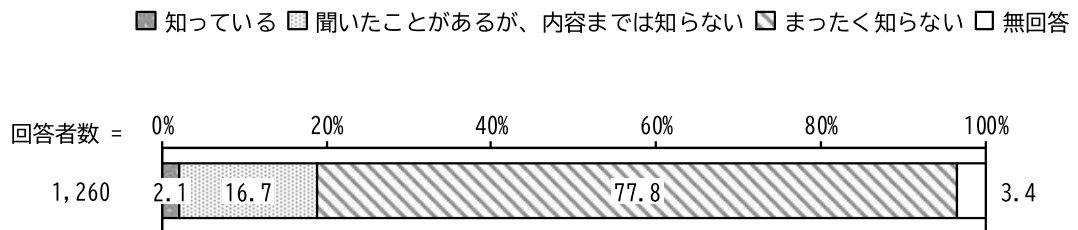
成年後見制度利用希望別にみると、「はい」で「知らない」の割合が5割を占めています。

単位：％

区分	件数	割合	法 院	士、 職 （ 護 士、 書 士 ）	所 長	タ ク ソ （ セ ン ター ）	支 援 セ ン ター	知 ら な い	の 他	無 回 答
全 体	1,260	16.3	4.2	16.6	14.7	11.1	6.9	56.3	0.5	6.6
はい	348	18.7	8.6	20.7	21.8	14.9	10.3	49.7	0.3	4.3
現在利用中である	4	50.0	—	25.0	—	25.0	—	25.0	—	—
わからない	661	12.3	1.7	13.2	10.9	7.6	4.5	66.0	0.5	4.8
いいえ	216	23.6	5.6	20.4	16.2	15.7	8.8	42.6	0.9	9.3

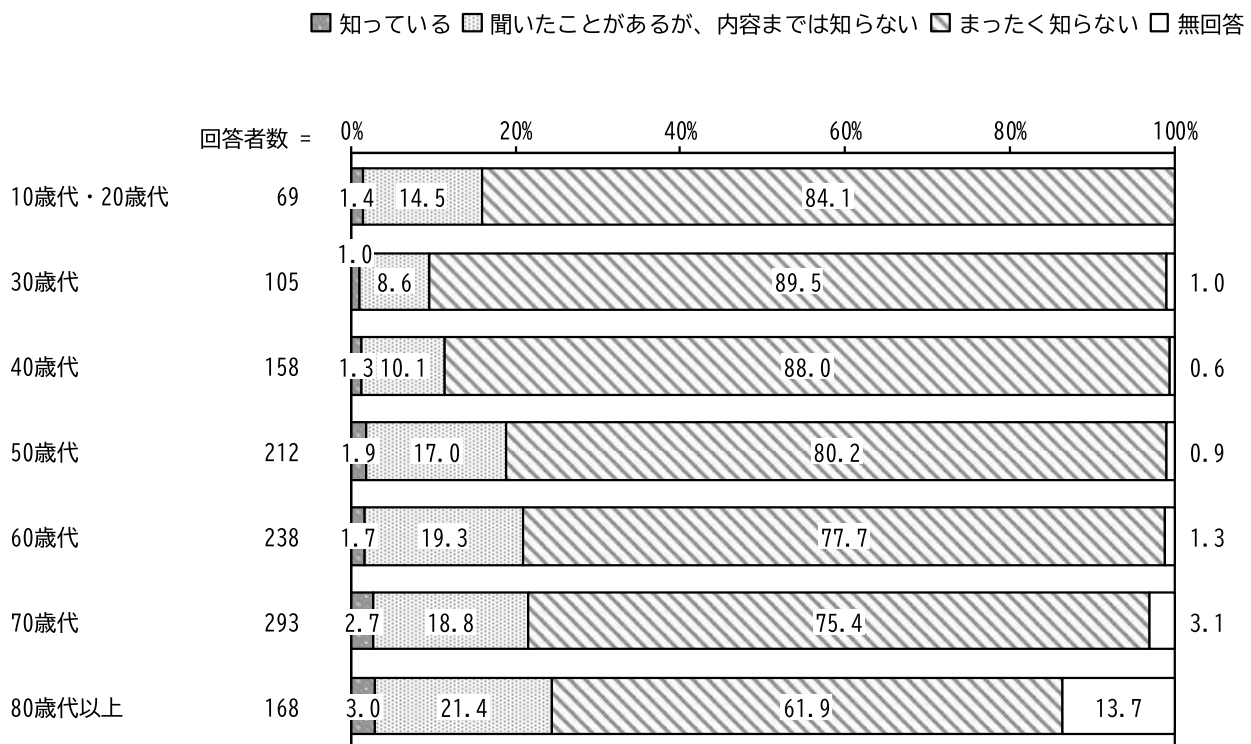
問 56 あなたは、「市民後見人」をご存知ですか。（※市民後見人とは、弁護士や司法書士などの資格を持たない親族以外の人で、成年後見制度に関する一定の知識や技術を身に付け、たうえで、家庭裁判所から選任された成年後見人等のことです）（○は1つ）

「まったく知らない」の割合が 77.8%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが、内容までは知らない」の割合が 16.7%、「知っている」の割合が 2.1%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、30 歳代で「まったく知らない」の割合が高くなっています。

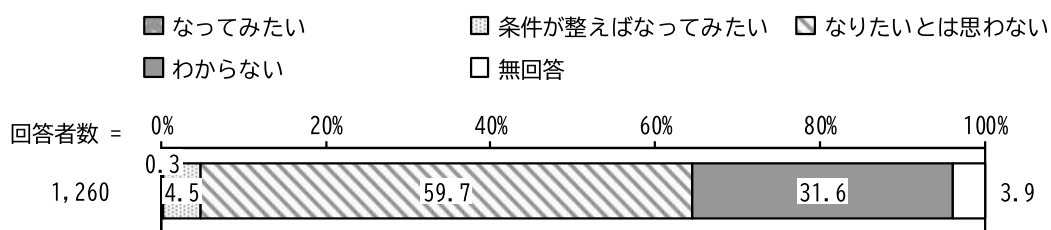


【成年後見制度利用希望別】

クロス集計を行った結果、突出した傾向はみられませんでした。

問 57 あなたは、「市民後見人」になってみたいと思いますか。(○は1つ)

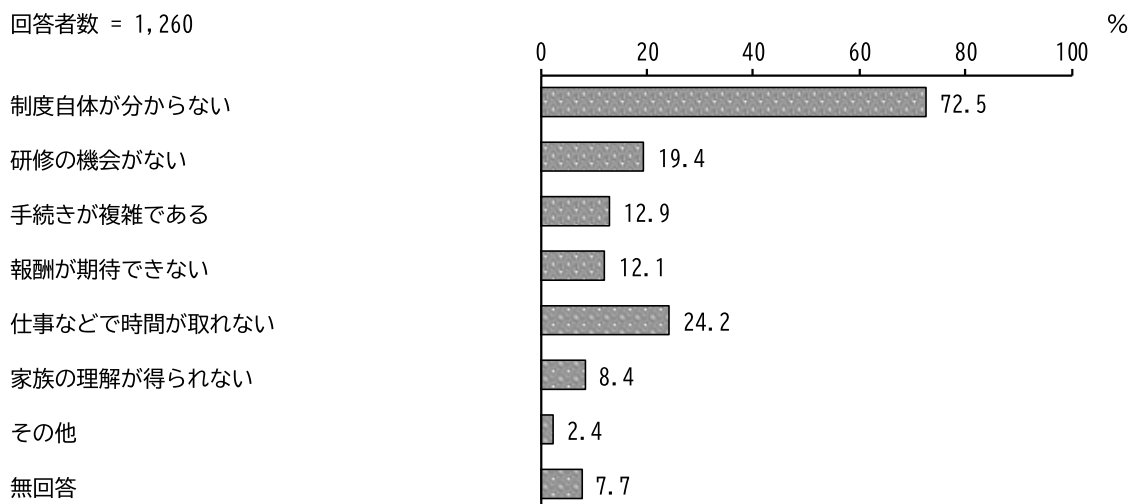
「なりたいとは思わない」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 31.6%、「条件を整えばなりたい」の割合が 4.5%となっています。



問 58 「市民後見人」になる人を増やすためには、何が課題だと思いますか。(○は3つまで)

「制度自体が分からない」の割合が 72.5%と最も高く、次いで「仕事などで時間が取れない」の割合が 24.2%、「研修の機会がない」の割合が 19.4%となっています。

回答者数 = 1,260

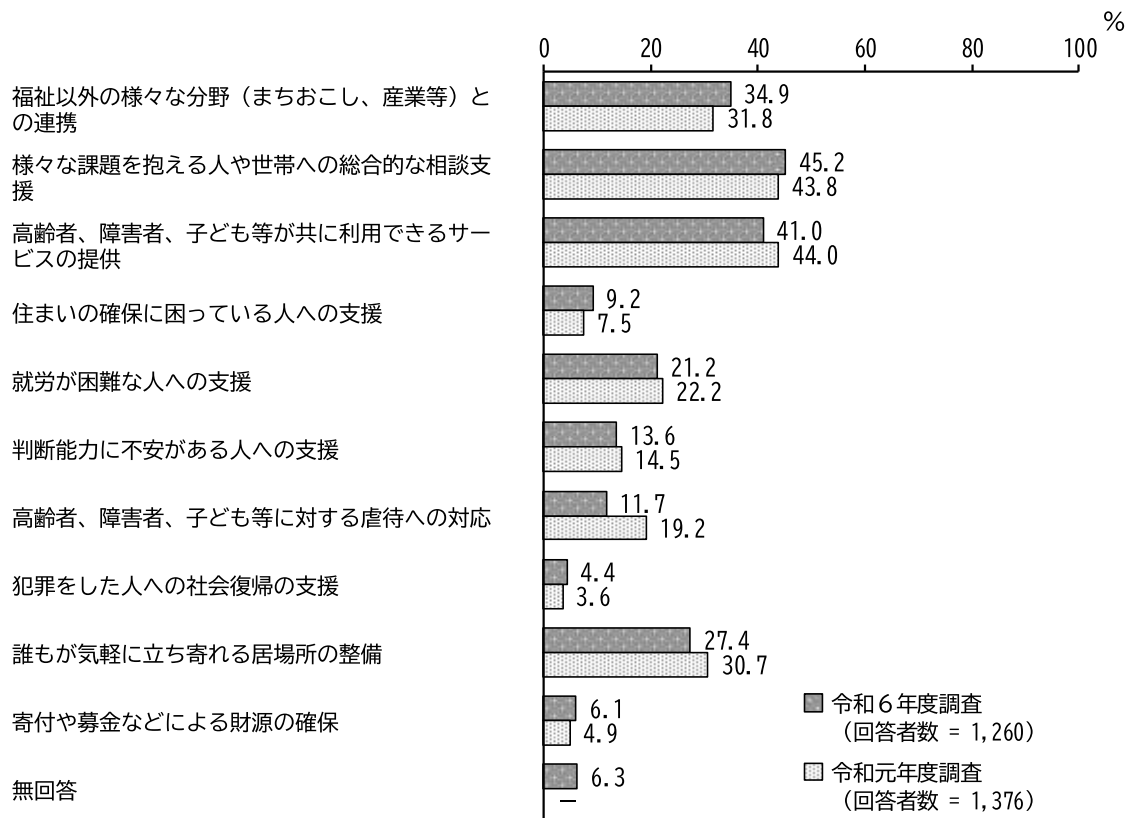


(7) 周南市地域福祉計画の策定について

問 59 国は、市が策定する地域福祉計画に、以下の項目を盛り込むよう定めています。周南市で特に必要と思う取り組みは、何だと思われますか。(〇は3つまで)

「様々な課題を抱える人や世帯への総合的な相談支援」の割合が 45.2%と最も高く、次いで「高齢者、障害者、子ども等が共に利用できるサービスの提供」の割合が 41.0%、「福祉以外の様々な分野（まちおこし、産業等）との連携」の割合が 34.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「高齢者、障害者、子ども等に対する虐待への対応」の割合が 7.5 ポイント減少しています。



※前回調査では、「福祉以外の様々な分野（まちおこし、産業等）との連携」が「福祉以外の様々な分野との連携」となっていました。

2 高校生・大学生アンケート調査結果

■調査のまとめ

○ 地域活動に対する状況

地域の行事や活動への参加状況は、“参加していない”人が約6割となっています。参加しない理由として「行事、活動の情報がないから」が上位となっていることから、何らかの機会や適切な情報があれば、地域活動への参加割合が増加する可能性があります。

地域福祉活動への参加意向は、“参加したい”と回答した学生は5割を超えており、市民と比べて、参加意向が高いことがうかがえる一方で、実際に参加することができない理由として、「学校や塾などが忙しく時間が確保できないから」「知っている人が少ない（いない）場所で活動することに抵抗があるから」が挙げられています。

次代の地域福祉の担い手となる学生に対し、学びの機会を増やし、各活動のさらなる広がりや新たな活動メニューの提供を行うとともに、学生の意欲・能力や状況に応じて主体的な関わりを促進する取組が必要です。

○ 居場所について

家や学校以外に安心できる場所や、居心地の良い場所について、6割半ばの学生が「ある」と回答しています。現在の暮らしに「満足している」と「どちらかといえば満足している」と回答した人は、居場所が「ある」の割合が高い傾向にあります。

具体的な場所については、8割近くの学生が「友達同士で集まる場」と回答している一方、「SNSやインターネット上のコミュニティ」に居場所を求める回答が2割ありました。

関係機関と連携して、子どもたちが安心して立ち寄り過ごせる居場所づくりを推進し、ネット社会の現代に応じた関係づくりや地域住民同士の交流を深めることが必要です。

○ 悩みや困りごと、相談の状況

日常生活で困っていることについて、7割半ばの学生は「困っていることはない」と回答している一方で、「身の回りのこと」や「災害時の備えに関すること」と回答した学生も一定数います。

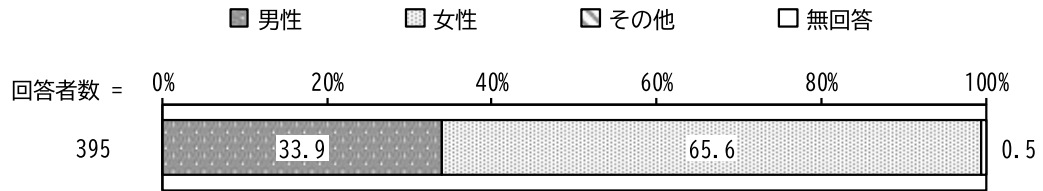
また、困った時の相談先としては、「家族・親族」や「知人、友人」の割合が大半を占めていますが、「相談しない」と回答した人もおり、理由として「相談できる人がいないから」「誰に相談したらいいかわからないから」を挙げた人もいることから、相談意向があるにもかかわらず相談につながっていないケースも見受けられます。

近年、ヤングケアラーのように家庭内に潜在化していて、支援の必要があっても相談機関につながりにくい子どもが全国的に問題となっています。そのような方への支援方法としてアウトリーチ機能を強化していくことが必要です。

(1) 回答者属性

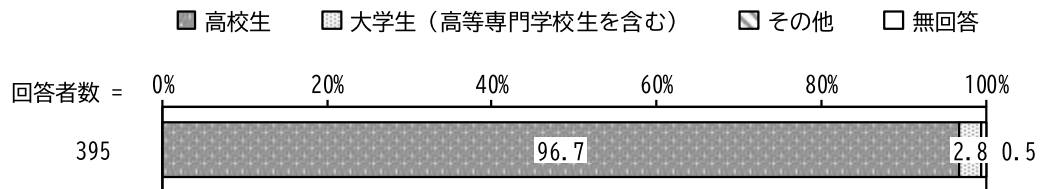
問1 あなたの性別を教えてください。(1つ選択)

「男性」の割合が 33.9%、「女性」の割合が 65.6%となっています。



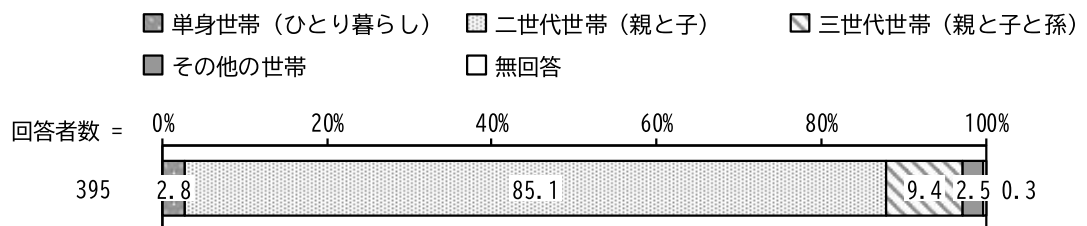
問2 あなたの令和6年11月1日現在の所属を教えてください。(1つ選択)

「高校生」の割合が 96.7%、「大学生（高等専門学校生を含む）」の割合が 2.8%となっています。



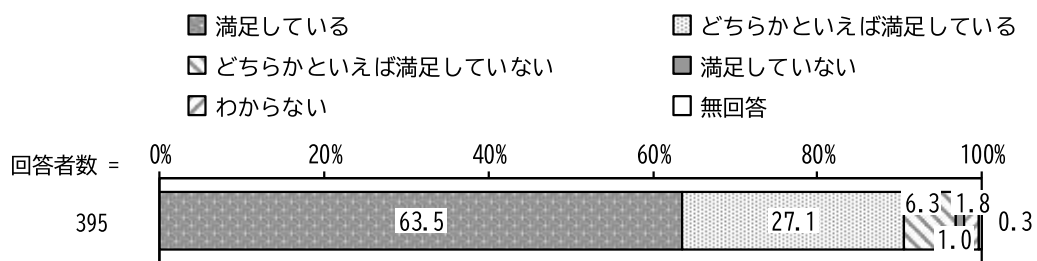
問3 あなたの現在の実生活での世帯の家族構成を教えてください。(1つ選択)

「二世世代世帯（親と子）」の割合が 85.1%と最も高く、次いで「三世世代世帯（親と子と孫）」の割合が 9.4%、「単身世帯（ひとり暮らし）」の割合が 2.8%となっています。



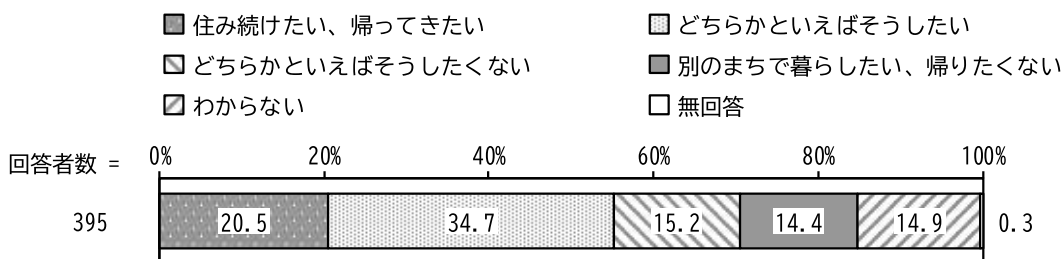
問4 あなたは、今の暮らしに満足していますか。（1つ選択）

「満足している」の割合が 63.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」の割合が 27.1%、「どちらかといえば満足していない」の割合が 6.3%となっています。



問5 あなたは、高校または大学（高等専門学校含む）を卒業後も、周南市で住み続けたいと思いますか。または、一度、離れたとしても、帰ってきたいと思いますか。（1つ選択）

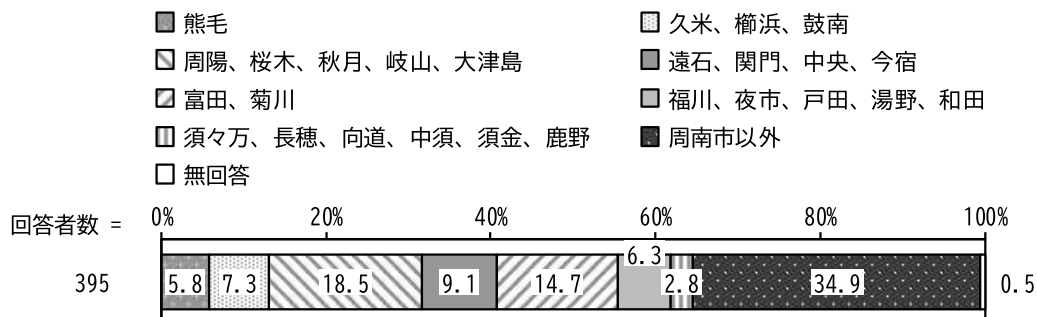
「どちらかといえばそうしたい」の割合が 34.7%と最も高く、次いで「住み続けたい、帰ってきたい」の割合が 20.5%、「どちらかといえばそうしたくない」の割合が 15.2%となっています。



(2) 住まいの地域での生活について

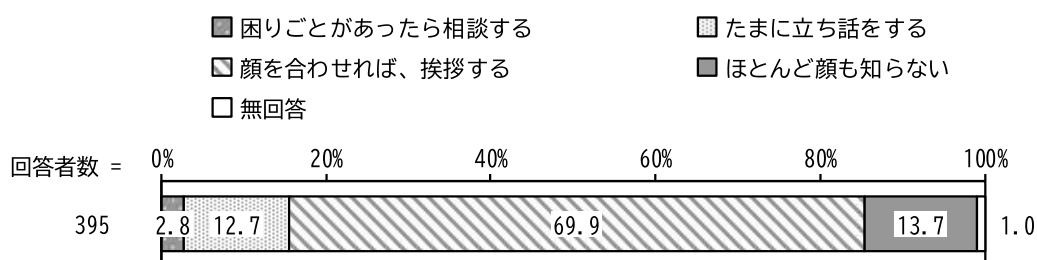
問6 あなたがお住まいの地域は、次のどれにあてはまりますか。(1つ選択)

「周南市以外」の割合が 34.9%と最も高く、次いで「周陽、桜木、秋月、岐山、大津島」の割合が 18.5%、「富田、菊川」の割合が 14.7%となっています。



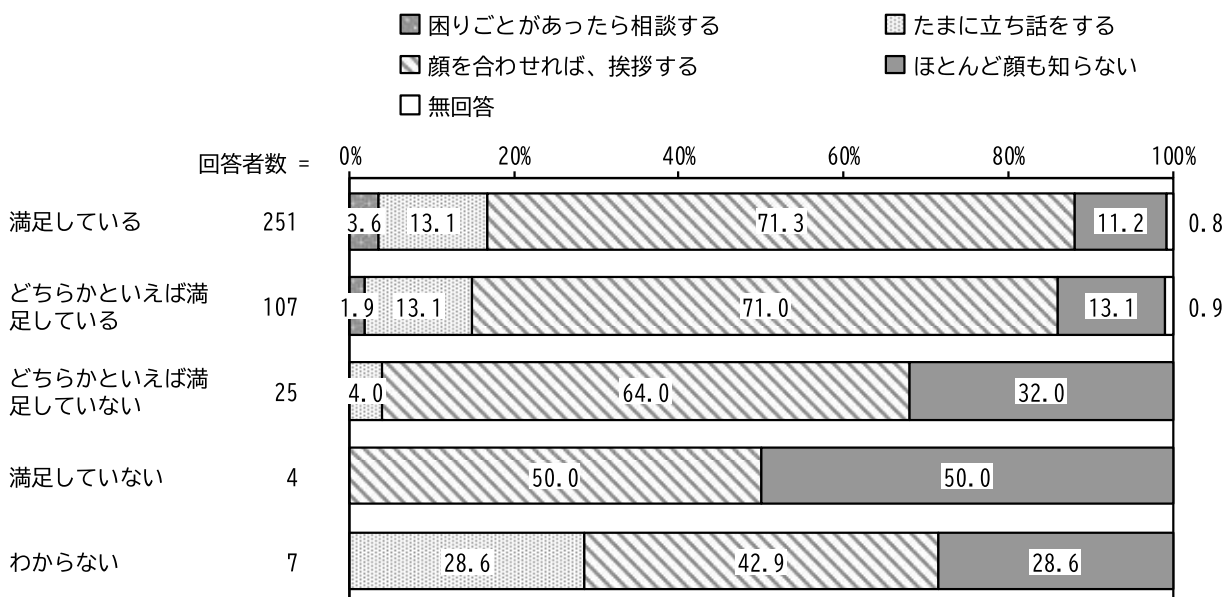
問7 あなたは、日頃、近所の方とどのような付き合い方をしていますか。(1つ選択)

「顔を合わせれば、挨拶する」の割合が 69.9%と最も高く、次いで「ほとんど顔も知らない」の割合が 13.7%、「たまに立ち話をする」の割合が 12.7%となっています。



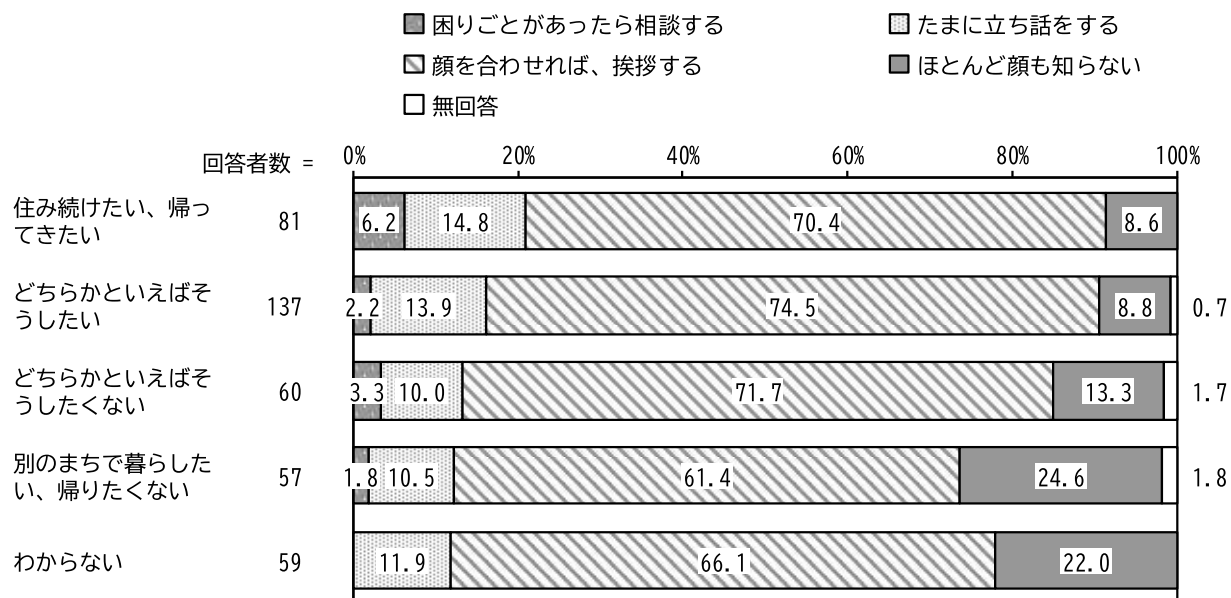
【暮らしの満足度別】

暮らしの満足度別にみると、「困りごとがあったら相談する」「たまに立ち話をする」「顔を合わせれば、挨拶する」と回答した人は、暮らしの満足度が高い傾向にあります。一方、どちらかといえば満足していないで「ほとんど顔も知らない」の割合が高くなっています。



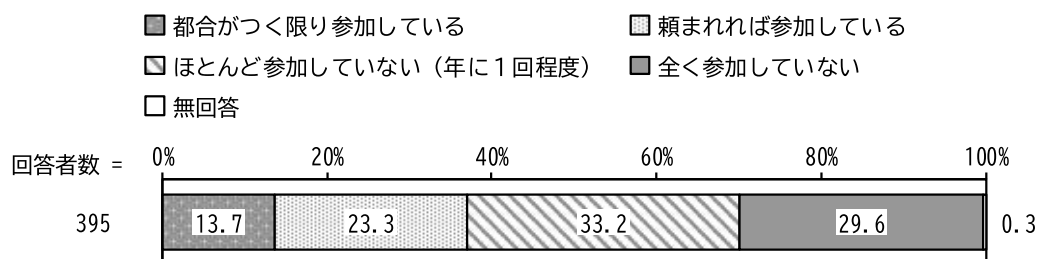
【定住意向別】

定住意向別にみると、「住み続けたい、帰ってきたい」と「どちらかといえばそうしたい」と回答した人は、「困りごとがあったら相談する」「たまに立ち話をする」「顔を合わせれば、挨拶する」の割合が高い傾向にあります。一方、「別のまちで暮らしたい、帰りたくない」で「ほとんど顔も知らない」の割合が高くなっています。



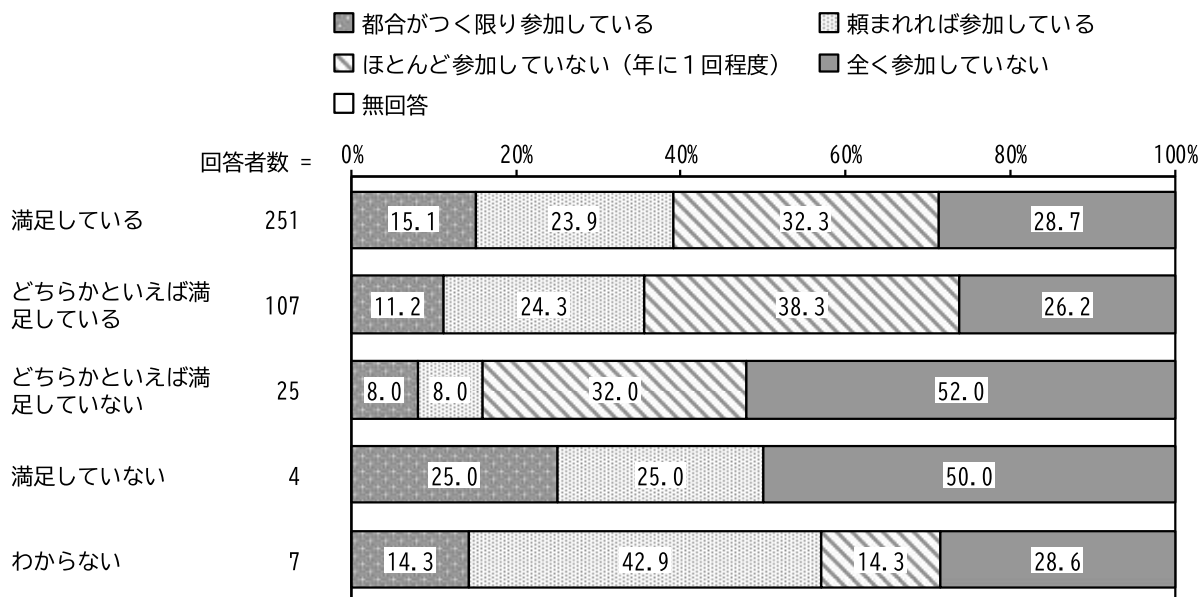
問8 あなたが地域の行事や活動に、参加する頻度はどの程度ですか。（1つ選択）

「ほとんど参加していない（年に1回程度）」の割合が33.2%と最も高く、次いで「全く参加していない」の割合が29.6%、「頼まれれば参加している」の割合が23.3%となっています。



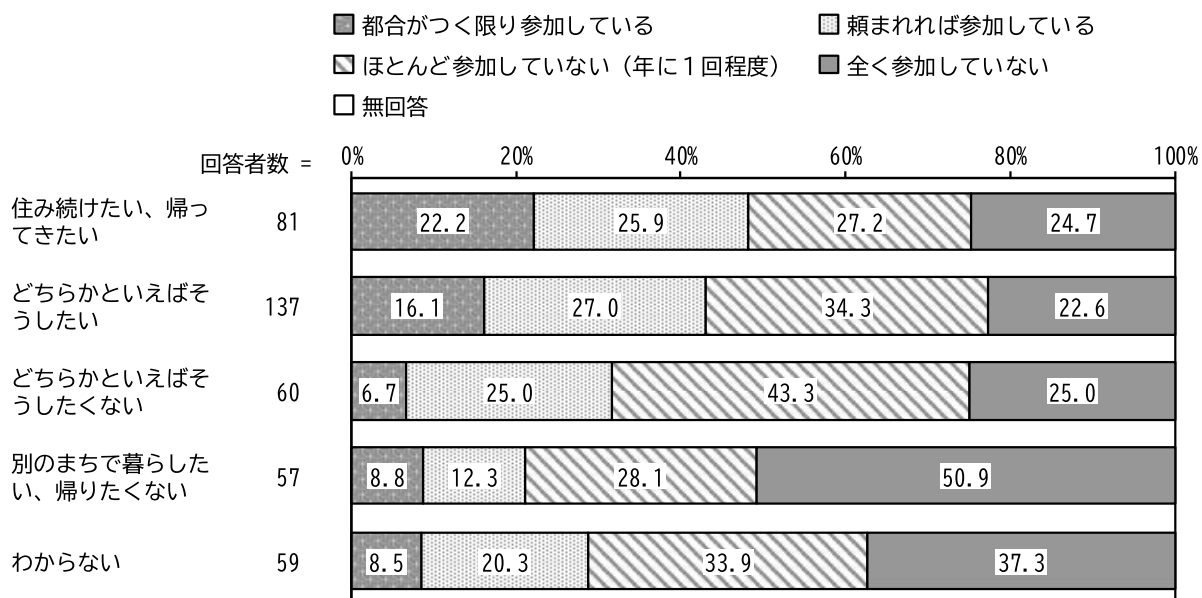
【暮らしの満足度別】

暮らしの満足度別にみると、「全く参加していない」と回答した人は、暮らしの満足度が低い傾向にあります。



【定住意向別】

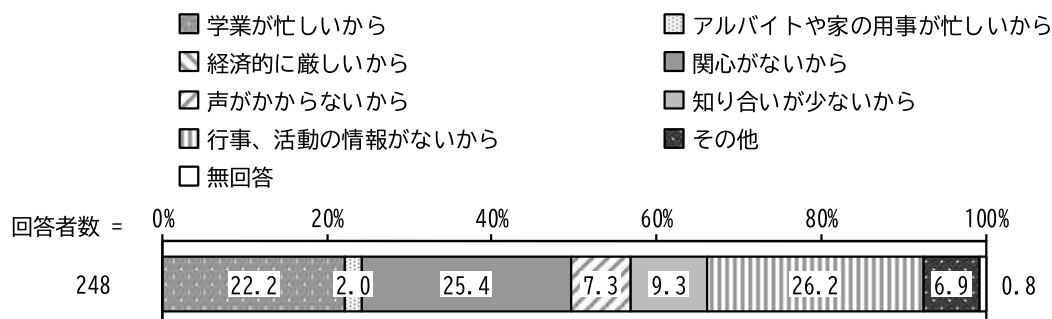
定住意向別にみると、「住み続けたい、帰ってきたい」と「どちらかといえばそうしたい」と回答した人は、「都合がつく限り参加している」「頼まれれば参加している」の割合が高く、行事に積極的に参加する傾向にあります。



問8で「ほとんど参加していない」「全く参加していない」と回答された方にお尋ねします。

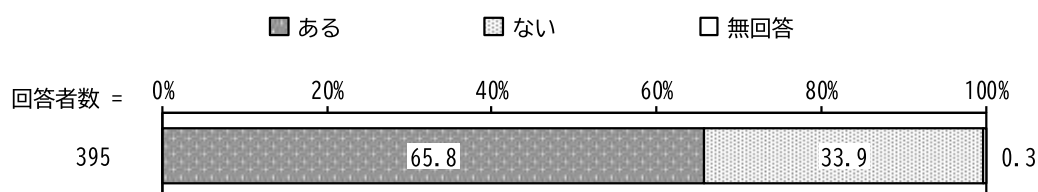
問9 その理由で一番近いものを教えて下さい。(1つ選択)

「行事、活動の情報がないから」の割合が26.2%と最も高く、次いで「関心がないから」の割合が25.4%、「学業が忙しいから」の割合が22.2%となっています。



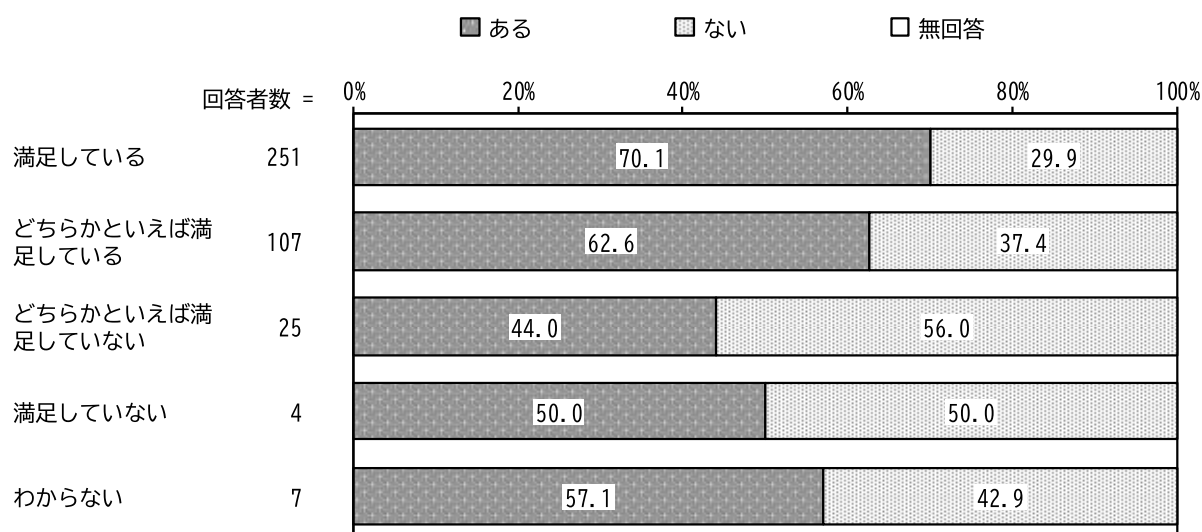
問10 あなたは家や学校以外に安心できる場所や、居心地の良い場所がありますか。(1つ選択)

「ある」の割合が65.8%、「ない」の割合が33.9%となっています。



【暮らしの満足度別】

暮らしの満足度別にみると、満足しているとどちらかといえば満足していると回答した人は、居場所が「ある」の割合が高い傾向にあります(相関関係がある)。



【定住意向別】

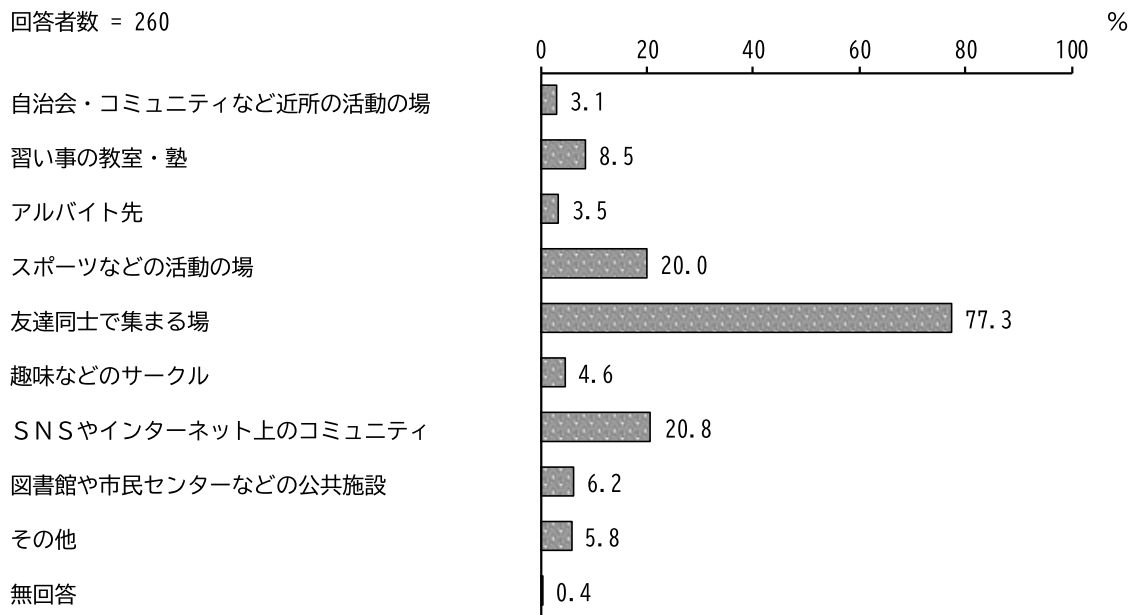
定住意向別にクロス集計を行いました。差や傾向はありませんでした。

問 10 で「居場所がある」と答えた方にお尋ねします。

問 11 具体的にはどのような場所ですか。(複数選択可)

「友達同士で集まる場」の割合が 77.3%と最も高く、次いで「SNSやインターネット上のコミュニティ」の割合が 20.8%、「スポーツなどの活動の場」の割合が 20.0%となっています。

回答者数 = 260

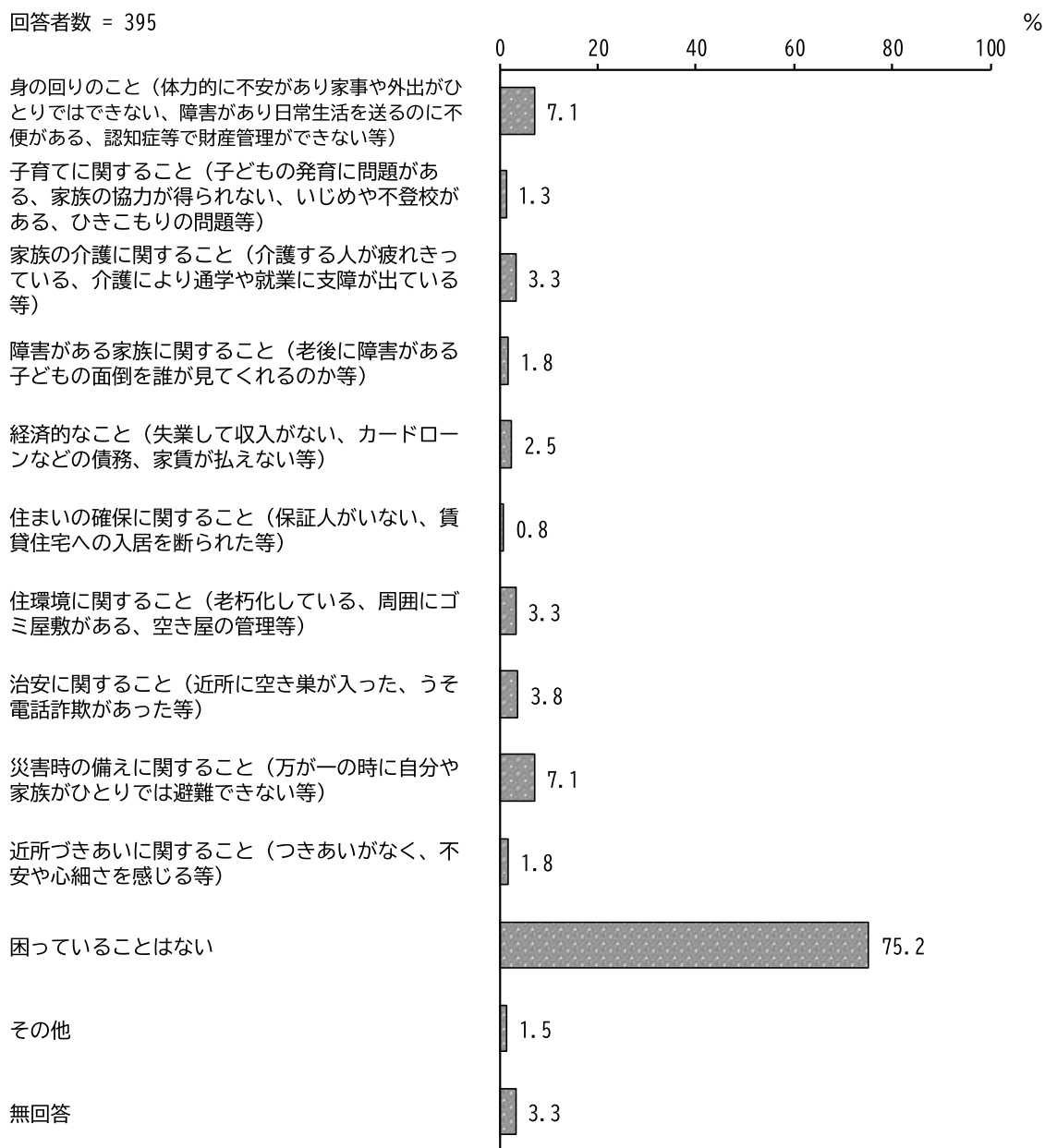


(3) 地域福祉（住民による身近な支え合い）について

問 12 あなたや身近な人が日常生活で困っていることは何ですか。（複数選択可）

「困っていることはない」の割合が 75.2%と最も高く、次いで「身の回りのこと（体力的に不安があり家事や外出がひとりではできない、障害があり日常生活を送るのに不便がある、認知症等で財産管理ができない等）」、「災害時の備えに関すること（万が一の時に自分や家族がひとりでは避難できない等）」の割合が 7.1%となっています。

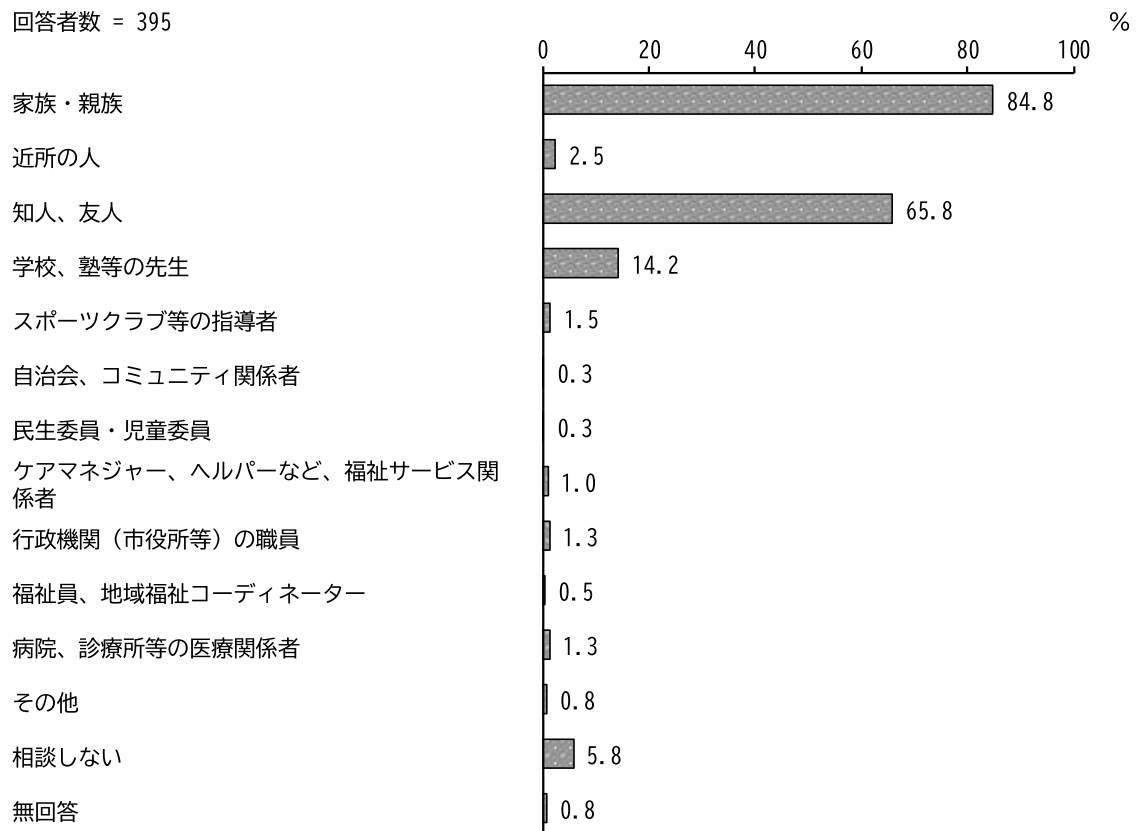
回答者数 = 395



問 13 困った時や生活の問題を解決したい時、誰に相談しますか。(複数選択可)

「家族・親族」の割合が 84.8%と最も高く、次いで「知人、友人」の割合が 65.8%、「学校、塾等の先生」の割合が 14.2%となっています。

回答者数 = 395



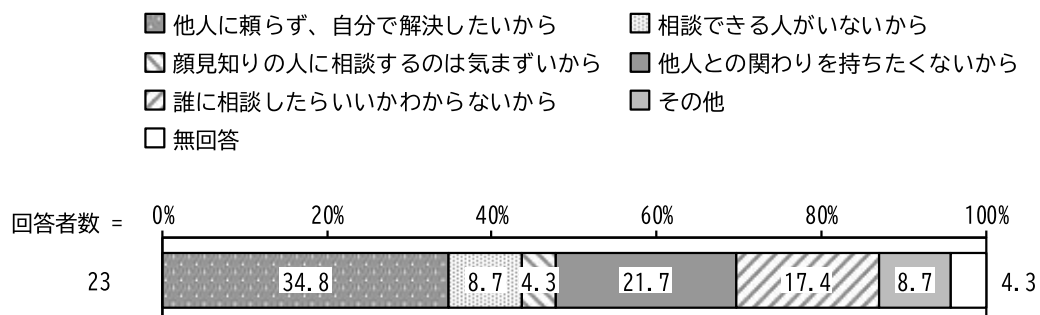
【地域活動参加頻度別】

地域活動参加頻度別にクロス集計を行いました。差や傾向はありませんでした。

問 13 で「相談しない」と回答した方にお尋ねします。

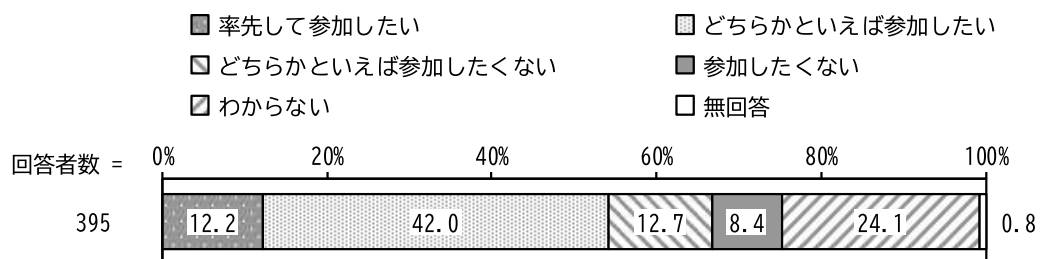
問 14 相談しない理由は何ですか。(1つ選択)

「他人に頼らず、自分で解決したいから」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「他人との関わりを持ちたくないから」の割合が 21.7%、「誰に相談したらいいかわからないから」の割合が 17.4%となっています。



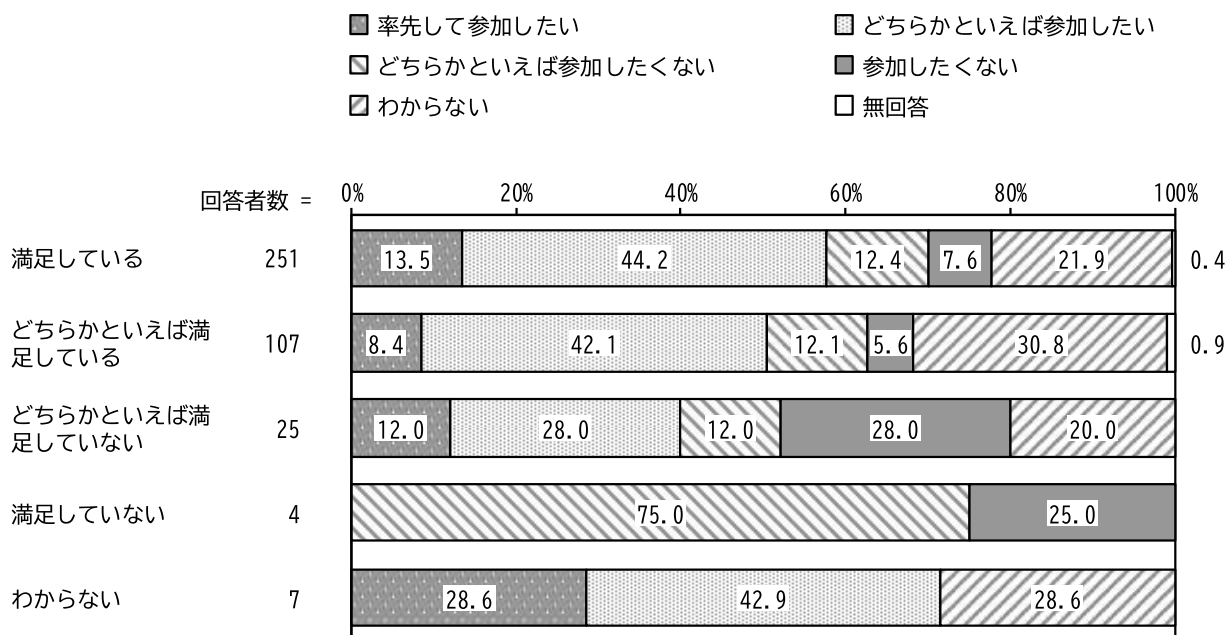
問 15 あなたは、「地域福祉活動（＝住民による身近な支え合いの活動・ボランティア活動を含む）」に参加したいと思いますか。(1つ選択)

「率先して参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた「参加したい」の割合が 54.2%と半数を超えています。



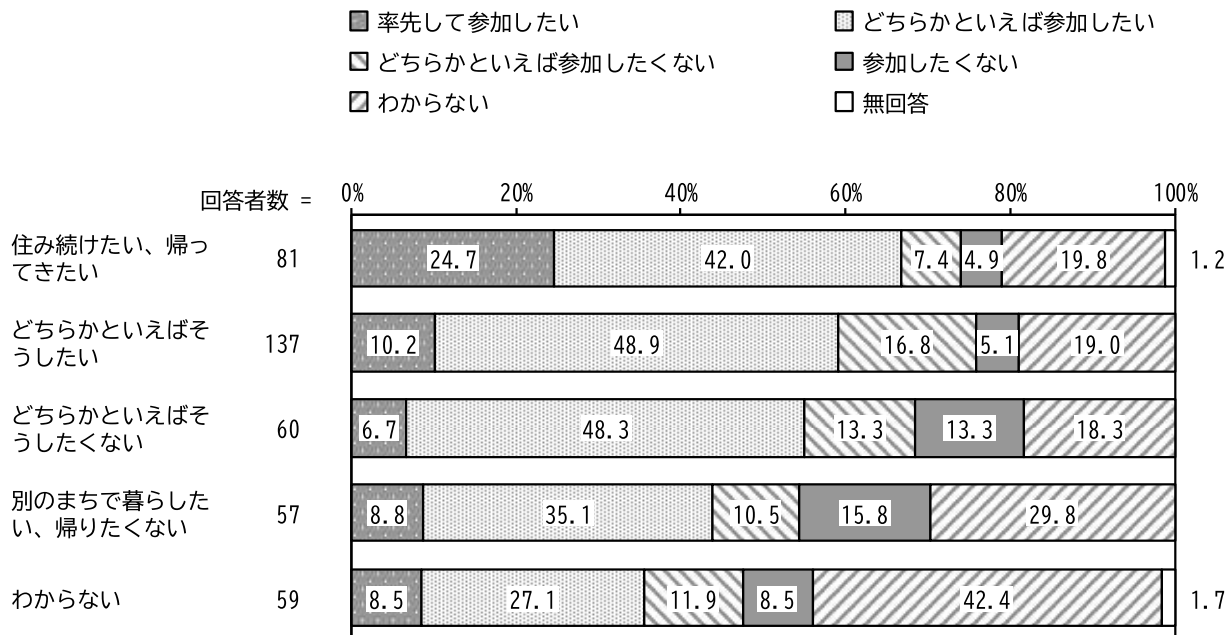
【暮らしの満足度別】

暮らしの満足度別にみると、満足度が高いほど“参加したい”の割合が高くなっています。



【定住意向別】

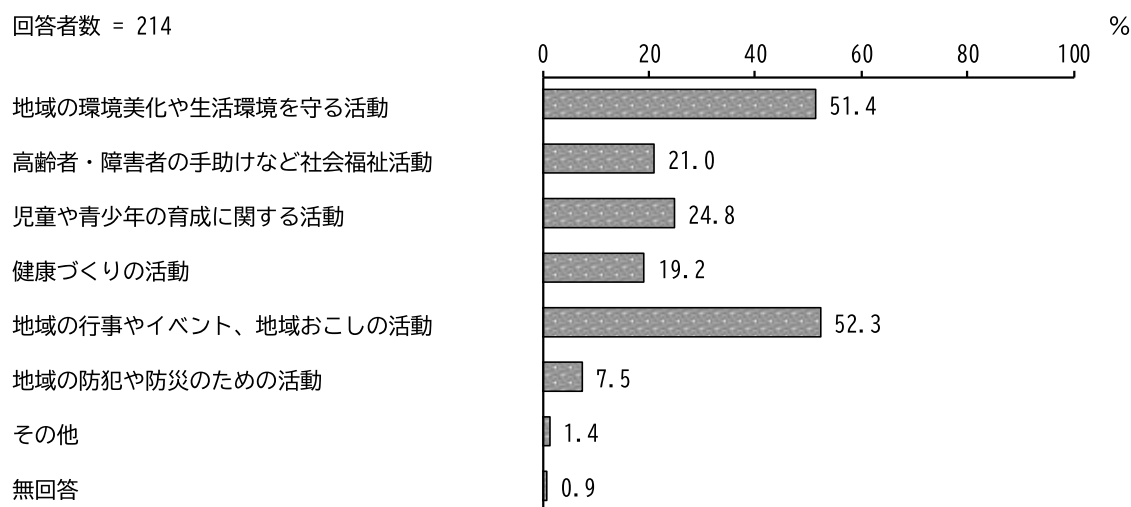
定住意向別にみると、定住の意向が高いほど“参加したい”の割合が高くなっています。



問 16～20 は問 15 で「率先して参加したい」「どちらかといえば参加したい」と回答した方にお尋ねします。

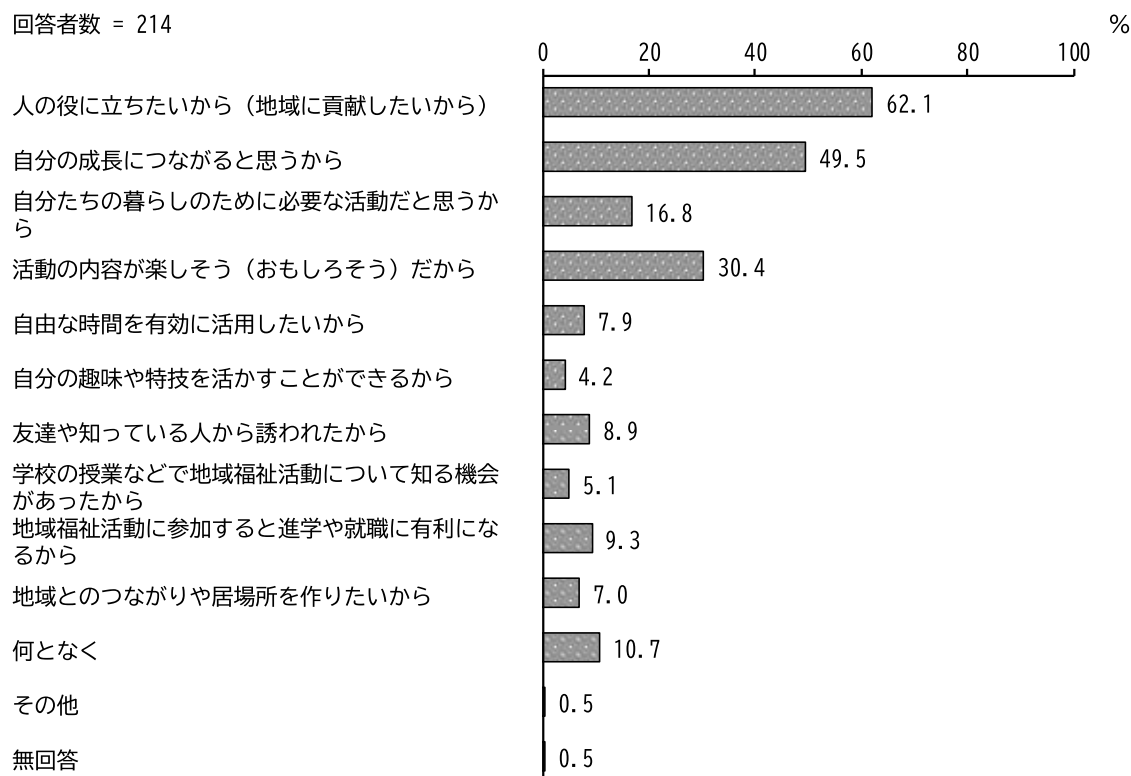
問 16 あなたは、どのような地域福祉活動に参加したいと思いますか。（複数選択可）

「地域の行事やイベント、地域おこしの活動」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「地域の環境美化や生活環境を守る活動」の割合が 51.4%となっています。



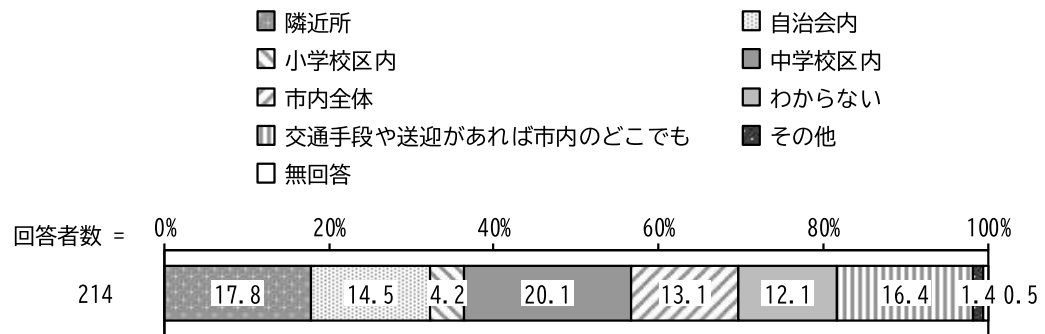
問 17 あなたが地域福祉活動に参加したいと思う理由は何ですか。（複数選択可）

「人の役に立ちたいから（地域に貢献したいから）」の割合が 62.1%と最も高く、次いで「自分の成長につながると思うから」の割合が 49.5%、「活動の内容及が楽しそう（おもしろそう）だから」の割合が 30.4%となっています。



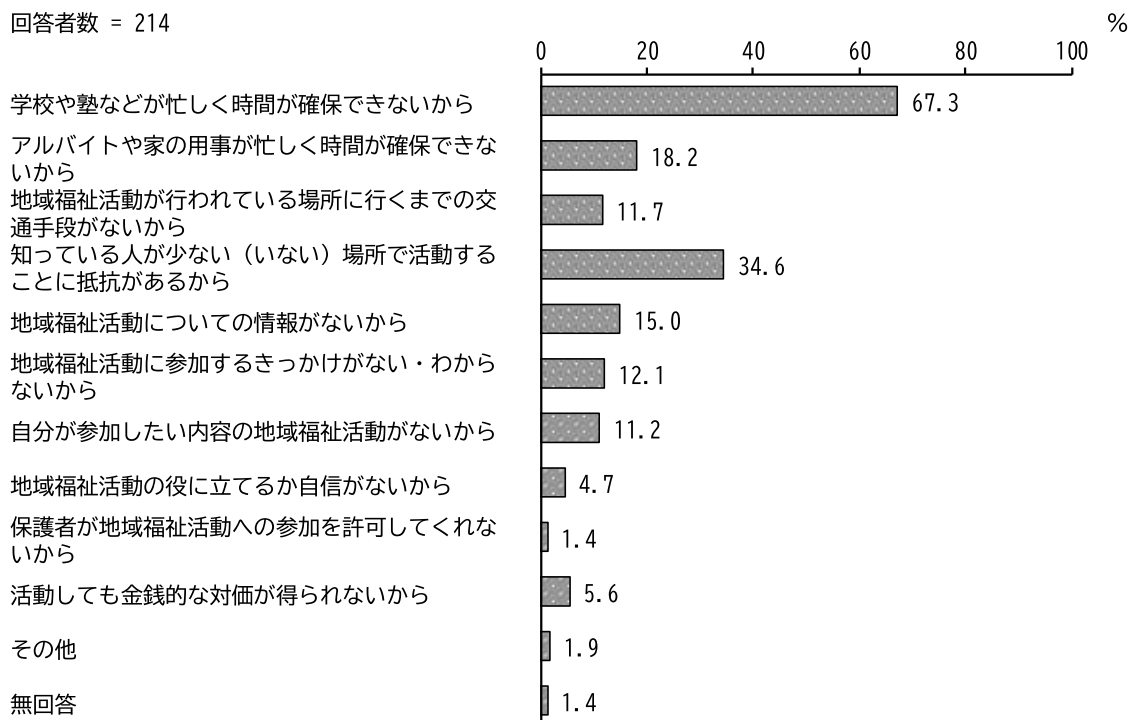
問 18 あなたが地域福祉活動に参加する場合、どの範囲まで活動ができると考えますか。
(1つ選択)

「中学校区内」の割合が 20.1%と最も高く、次いで「隣近所」の割合が 17.8%、「交通手段や送迎があれば市内のどこでも」の割合が 16.4%となっています。



問 19 地域福祉活動に参加したいと思っても、実際に行動に移せない（参加することができない）理由は何だと思えますか。（複数選択可）

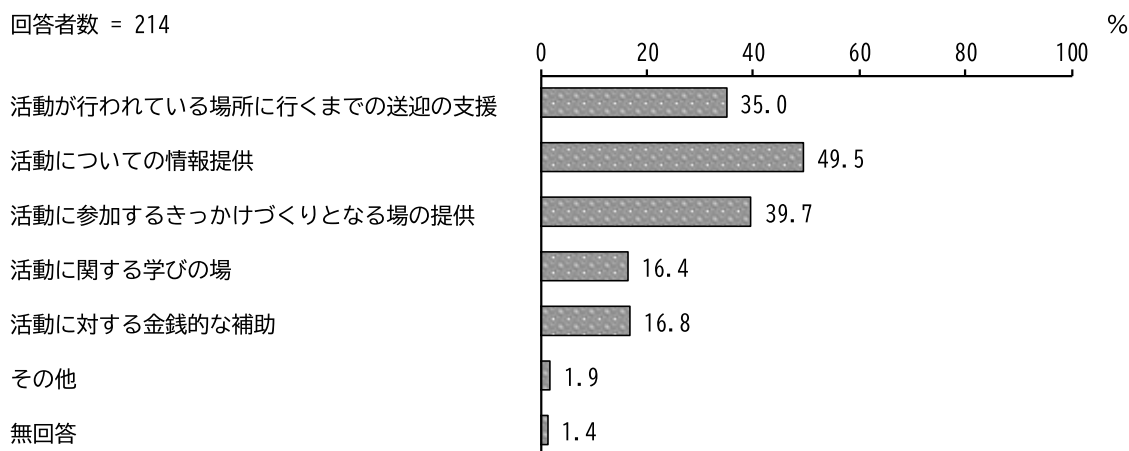
「学校や塾などが忙しく時間が確保できないから」の割合が 67.3%と最も高く、次いで「知っている人が少ない（いない）場所で活動することに抵抗があるから」の割合が 34.6%となっています。



問 20 どのような支援があれば、地域福祉活動に参加できると思いますか。（複数選択可）

「活動についての情報提供」の割合が 49.5%と最も高く、次いで「活動に参加するきっかけづくりとなる場の提供」の割合が 39.7%、「活動が行われている場所に行くまでの送迎の支援」の割合が 35.0%となっています。

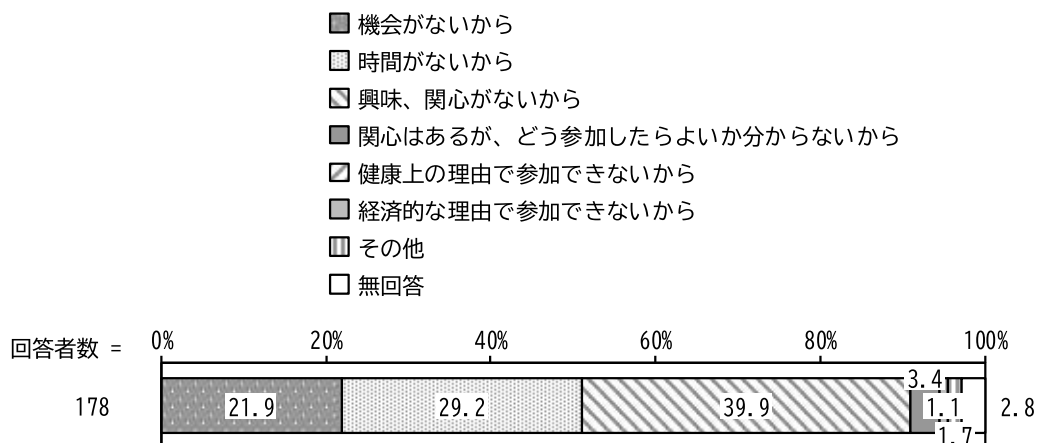
回答者数 = 214



問 15 で「どちらかといえば参加したくない」「参加したくない」「わからない」と回答した方にお尋ねします。

問 21 主な理由を教えてください。（1つ選択）

「興味、関心がないから」の割合が 39.9%と最も高く、次いで「時間がないから」の割合が 29.2%、「機会がないから」の割合が 21.9%となっています。



問 22 その他、地域福祉についてご提案、ご意見がありましたら、ご回答ください。
(自由回答)

- ・現状、周南市は消滅可能性都市には入っていないが、人口が減り続けている事には変わらない。そうなると、鹿野や熊毛の様な規模の小さい地域への対応がおざなりになったりして、徳山など規模の大きい地域に一極集中する事態が起こりうるし、それによって福祉が行き届かない地域が発生する恐れも考えられる。そうならない様に何か手を打つ事は出来ないのだろうか？私はこれからも周南市に住み続ける予定なので、地域福祉が無くならない様にして頂きたい。地域がなくなったり財政破綻したりする様は見たくないから…
- ・国際関係のボランティアを身近でやってほしい。いい日にちや午後からだったりすると、行きやすくなる。

3 関係団体調査結果

■調査のまとめ

○ 地域福祉に関する課題について

地域で寄せられる日常の困りごとは、高齢者の介護や移動支援の不足、障害者の災害対応や日常の支援、高齢化する福祉支援機関の人材不足などが挙げられました。また、子どもの貧困等といった家族支援の課題、社会的孤立や引きこもりなどの複合的な困りごともあり、包括的な相談窓口の周知不足や情報共有の難しさといった意見も挙げられました。

相談機関や支援体制の周知を図るとともに、複合する課題に対しては、分野別の支援制度だけではなく、分野を超えた支援体制の構築が必要です。

○ 連携相手について

民生委員・児童委員や社会福祉協議会をはじめとして、幅広く連携をしている団体は多いものの、人材の多重負担や高齢者の増加が課題となっており、役割分担の明確化や支援体制の強化が必要です。

○ 地域の担い手について

地域課題に取り組む担い手を増やすためには、自治会等が主体的に地域の課題を自分ごととして捉える意識を高めたり、世代を超えた交流を促進するなど、地域住民が共通の課題に向き合い、お互いを支え合う仕組みづくりが求められています。

学校における福祉教育を通じた福祉意識の醸成のほか、講演会の開催やボランティア募集を通じて地域活動へのきっかけを提供するとともに、地域で活躍している人々や取り組みを周知することで、地域活動への関心を引き付ける工夫も必要です。

○ 地域課題に対して行政が取り組むべきことについて

地域課題に対して行政が取り組むべきこととして、住民が抱える問題に適切に対応できる相談窓口の分かりやすい情報提供、部局間の連携強化が求められています。

地域の実情を把握するために民間団体や住民の意見を聞き、地域活動を円滑に進めるための人材や情報支援を行うことが必要です。

○ 地域課題に対して地域の組織・団体が取り組むべきことについて

地域課題に対して地域が取り組むべきこととして、現行の地域コミュニティ活動の見直しや住民が気軽に集まりやすい場を提供し、近隣住民との横のつながりを強化することが求められています。行政や地域団体と連携を深め、既存の地域団体の活動継続を支援しながら、新たにコミュニティソーシャルワーカーの設置を進めるなど、地域で助け合い支え合える仕組みを構築することが必要です。

○ 地域課題に対して地域住民が取り組むべきことについて

地域課題に対して地域住民が取り組むべきこととして、助け合いの精神を育み、相互の支え合いの強化や若年層を含む幅広い世代が自治会やボランティア活動に積極的に参加し、近隣住民との顔の見える関係を築くことが求められおり、地域住民が主体的に問題解決に取り組む意識を醸成する取り組みが必要です。

1 地域福祉に関する課題について

(1) 普段活動されている中で、地域の人々からどのような日常の困りごと、地域の問題などをお聞きしますか。(すべての項目にお答えいただく必要はありません)

①高齢者支援・介護・ダブルケア等について(課題・問題)

- ・要支援認定者が日常生活支援のサービスが受けられなくなったのでなんとかならないか?との要請が有った、事業所の人員不足?
- ・現在、元気な高齢御夫婦が近い将来どちらかが病気等で動けなくなった時、どの様に対処すればよいか不安という声をよく聞く。
- ・戸田地区なのでタクシーが少なくなかなかこない。
- ・引受人が高齢になり動けなくなったが、どこに相談すれば。介護をする時のベッドリースや要介護申請の仕方が分からない。
- ・夫が入院した時に、病院から次の入院先を捜しておいて下さいと言われて困った、と相談された。
- ・認知症の症状がある様だが、子どもさんが近くにいないと。民生委員より。
- ・母親が認知症になったときに相談先が当初は分からなかった。地域包括支援センターの周知などもっと広がると良い。
- ・車がなくて不便。誰か来てくれないと話をしていない日もある。歩くのも大変。老々介護しているからどこにも出られない。
- ・2050 年に向けてヤングケアラーが増加する可能性がある。
- ・高齢者の単身世帯や高齢者のみの世帯の増。通院・買物などの移動が困難。
- ・近隣住民や地域の人が支援の必要性を感じていても、当事者が周囲の支援を望んでいない(拒否を含む)ため、適切な支援が難しいことが多い。
- ・介護者が家にいても介護認定などサービス等がわからず、介護者が困っている。
- ・介護等について相談できる包括支援センターがまだまだ住民に知られていない。

②障害者支援(課題・問題)

- ・障害者の方が声を大にして訴えてほしい。そこから色々な課題がみえてくる。
- ・災害時の避難のしかた。だれが助けたりするのか。
- ・発達障害を抱えているが職場でトラブルを起こしてしまう。どの様に対応したらよいか、対処法が知りたい。地域での見守りや近所の方にも助けが必要である。
- ・いつもはベッドに寝ているが、床のフトンで寝ていて立てなくなり、妻も高齢の為、起こすことができず 119 番に電話したとの報告を受けた、声をかけて下さいと伝えた。
- ・どこにも相談したことがない人で、家族に困難を抱えている人に出会った。そういう人も地域にいる。
- ・災害時の避難についてどうしたらいいか分からない。災害時の食事について、特性で食べられない物があるので支援がしにくい。
- ・親亡き後の不安。就労不安。
- ・精神障害者等軽度の障害者の日中の居場所利用が困難。

- ・障害者の兄弟や近隣の人が、支援を受けた方が良いと思っているが、本人や、老いた親が他者の支援を拒むため、関わりが難しい。
- ・障害者も段々と高齢となり家庭での支援も困ってどうしたらいいかと考えている後方の介護施設等をどのように手続きしていいのか不安。

③子育て支援（課題・問題）

- ・地区社会福祉協議会では色々の取り組みをしていると思う。
- ・周囲の人々が子供を叱る勇気。（慈愛の心で）
- ・なかなか親が話をしてくれないのでよく分からない。助けたくてもなかなか難しい。
- ・公園でボール遊びができない。声がうるさいと言われ遊ぶ場所が少なくなっている。
- ・妻が肺炎になり、5才と3才の子供の面倒を見なければならぬと、夫は仕事を休まざるを得なかった。近くの実家の親に頼んで助かったが、回りに助けてくれる人がいない場合は、とても困ってしまうのではないかと若い夫婦の話を聞いた。
- ・児童クラブや放課後子ども教室など、小学生の放課後の受け入れる場所の充実。
- ・地域の大人が子供を育てる環境があまりない気がする。（知らないもしくは届かないだけなのかも）
- ・不登校支援。
- ・基礎自治会での子ども会の消滅。
- ・スマートフォンなどの普及で、子どもが自然と触れ合う機会が少なくなっていると思う。（事件があり、安心できない事も含む）
- ・核家族が多く、子育てに悩んでも相談あいてもなく不安を抱えている人もある。

④防災（課題・問題）

- ・防災に対する住民の関心が薄いと思う。
- ・慌てず焦らず落ち着いて、行動できる様、常日頃からの啓発活動が。
- ・高齢者をつれだすことができないので、早めの避難をしていただくことが大切なのだが、全員は難しい。
- ・海が近いと避難場所に困る。町内ごとに避難場所の地図を各家庭に配布して欲しい。
- ・避難所に行けたとして、障害を持っている自分に適切な対応をしてもらえるのか不安と相談された。
- ・「避難行動要支援者個別避難計画」を作成するうえで、避難先となる福祉避難場所の整備が全くできていない。指定避難所及び福祉避難所が指定されているが、それぞれの場所で避難場所の開設・運営について検討されておらず、要支援者がスムーズに受け入れられる状況とは思えない。また、福祉避難所となっている事業者も実際に災害が起こるとどうなるのか、不安に思っていると聞く。仮に避難先があっても、自宅や一時避難所からの移動手段の確保ができていない。移動するための人員確保として日頃から業務を行っている福祉タクシーなどの事業者との連携や地域の消防団との連携が必要だと思う。
- ・安全な避難場所までが遠い。
- ・防災知識の向上。
- ・近隣関係の希薄化。避難支援者の引き受けを責任感の重さから躊躇。
- ・夜間に豪雨で避難指示が出ても、移動することが難しいことがある。（外に出ることが危険な場合もある）
- ・避難所やハザードマップ等が理解できず、このまま大きな地震等が起こったらどうしようと思う。

- ・市民1人ひとりが、災害時の対応について、十分理解できていない。周南市としての具体性がない。

⑤生活困窮者（課題・問題）

- ・ギリギリの生活をされている方は自分で信念を持っている。
- ・地域包括支援センターのPR活動。（社会福祉協議会も）声を出せない人が多いのでは。
- ・民生委員が調査するより市の方が調査決定をすればよいのでは。収入が少なく年金を払うことができない。
- ・生活が困窮しているかどうか、外からはわかりづらい。
- ・電気代が払えず困っている（生活保護申請など手続きを本人の能力がなくてできない）また、支援してくれる家族がいない。
- ・お金のない人とある人への支援。格差。仕方ないことなのか。
- ・生活実態の把握が困難。
- ・生活困窮となる原因として、浪費や金銭管理が適切でない場合、誰がどのように支援していくかが難しい。
- ・生活保護が受けられる様になった時、医療サービス等もわからずどのように手続きしたらよいものかもわからない。

⑥子どもの貧困（課題・問題）

- ・親が悪い。
- ・心の貧困。声に出せない環境。
- ・なかなか話を親がしてくれない。
- ・子どもの貧困とは、保護者の貧困なので、虐待防止と一緒に、家族全体の支援が必要と思う。
- ・今は両親がいても生活は厳しい家庭は多いと感じる。しかし、今は子育て支援が昔より充実している。これから生み育てるのは、昔より支援が手厚い。
- ・親を支えない子どもが貧困になる。
- ・生活実態の把握が困難。
- ・貧困か否かを気づきにくく、地域で困っているのか把握しづらい。学校等で発見・連携していくことが大切だと感じる。
- ・親が仕事（留守）中の子供保護支援が十分ではない。

⑦社会的孤立・ひきこもり・8050問題（課題・問題）

- ・非常に難しい問題。私自身で判断出来ない。
- ・表に出て来ない引きこもり対策が必要。（噂だけでは動けない）
- ・民生委員等家庭訪問が大切！！サロンで声かけをして連れ出してあげる。
- ・民生委員として情報は渡しているが、家族の反応がないので止めた方がよいのか迷っている。
- ・家族単位での介入と正しい知識がないと難しい問題ですね。
- ・行政と民間の連携が必要。
- ・要素が潜在化しており、実態把握が困難。
- ・ひきこもり、不登校支援を行う人材養成が不十分。
- ・今までとおり、地域での見守り活動を続けていく。
- ・他人事の様に考えて周囲に十分理解してもらう方法が必要。

⑧虐待防止、差別解消（課題・問題）

- ・警察などもっと積極的な関与が必要では？
- ・外部からは分かりづらい。対処が難しい。本人が発信できるか。
- ・虐待としつけの判断は分かりづらい。
- ・虐待・差別をしている人に、気付ける情報提供(知るチャンス)が平等にあると理想。いじめ同様、気付かない人がしてしまう。
- ・インクルーシブ教育の充実。
- ・専門機関への通報は行えるが、家庭への介入は困難。
- ・いろいろな機会に虐待の研修を行っていく。
- ・虐待等を疑っても、どのようにしていいのか理解できていない。(方法)

⑨権利擁護・成年後見人制度の利用（課題・問題）

- ・当局による啓発活動が今以上に必要。(当クラブでは行政書士による説明会)
- ・弁護士に依頼した人はいたが、成年後見人の利用は聞いた事がない。
- ・必要だが支援者が行政、地域包括支援センターしかない。
- ・なかなか知る機会が一般的に少ない。私も知識不足です。
- ・回答用紙の例にあった、成年後見人制度を理解している人が少ない、必要と思われる人ほど理解が乏しい、と思う。
- ・いろいろな機会で、権利擁護・成年後見人制度の研修を行っていく。
- ・どのような人に成年後見人が必要なのか分からず困っている。
- ・成年後見人制度について、地域に周知されていないと思う。

⑩福祉支援機関、関係団体等の人材不足（課題・問題）

- ・人材不足である、定年延長などで民生委員、ボランティア人材の担い手に高齢者が多く、対応不能。民生委員の担当は少なすぎるので、担い手のなり手がいない。
- ・介護職の人手不足が一番の課題では。きびしいです。でも中にはやってくれる人がいるはずなんですよ。たぶん。
- ・民生委員のなり手がなかなか見つからない。特に若い人は仕事をしているので難しい。
- ・地域包括支援センター。居宅介護支援事業所で働く人の高齢化。ほぼ 50 代。求人を出してもこない。
- ・イメージが弱いのか、体験会やかっこよさの発信不足。大切な人の介護力を身につけられる。自分も相手も助かる仕事だということへのイメージを変えることも大切。
- ・民生委員の負担が大きく、担い手が不在の地域もある。行政で民生委員のフォローをする職員を増やす等、体制を構築する。
- ・民生委員 1 人が担当する老人が多く、十分な支援が難しい。

⑪その他（課題・問題）

- ・ゴミ屋敷など行政にて、強制執行が必要。本人のエゴ、最低限のマナーが必要。
- ・交通弱者。(買い物・病院等々) ゴミステーションの場所問題。
- ・買物に行くのにスーパーが遠いので帰りが大変。タクシーの予約がとれない。(早朝や雨天の場合) 病院が近すぎてタクシーに乗る時にいやな顔をされる。ゴミの分別ができない高齢者がでてきた。ゴミを自分で集収場まで出せない高齢者がでてきた。

- ・坂道が多く外出できない。本人の状態が悪化し、ペットを飼えなくなったが、世話してくれる人がいない。
- ・救急業務をしていると様々な問題を抱えているケースがある。救急医療というよりは、福祉の保健（精神も含む）虐待やDVを疑っていても報告が難しいこともある。行政や各専門職との連携をするためにケース会議や総合的な相談窓口などがあると良いと思う。
- ・空家の増。（家屋の老朽化・庭木雑草の繁茂）
- ・ごみ分別が難しいため、そのままゴミをためている。分別をもう少し簡単にしてほしい。

2 地域における福祉活動を行う上で、連携（相談、情報提供、協働による問題解決など）が深い相手を教えてください

- ・連携するにも、民生委員社協役員、ボランティア人材など1人3役、4役をしている人が多いのでどうにもならない。（地域支え合い補助金申請団体）
- ・民生委員・福祉委員・地域福祉コーディネーター（高齢者）
- ・私は地域包括支援センターの方や社会福祉協議会の方に相談してます。（ふれあい・いきいきサロン）
- ・山口保護観察所、保護司、地域福祉課、民生児童委員、BBS。（保護司会）
- ・地区民生委員児童委員協議会の定例会で、毎月事例（困難）を出してもらい、委員全員で考えて良い解決方法を考えるようにしている。担当区域を越えて、助け合っていないと、高齢者の人数も増え、活動していくことがむずかしいと感じる。（地区民生委員児童委員協議会）
- ・民生委員 地域福祉コーディネーター（地域包括支援センター）
- ・地域の団体・子ども会・コミュニティ・地区社会福祉協議会・保健師北部包括支援センター・学校民生委員・児童委員（子ども・子育て）
- ・地区社会福祉協議会・安心子育て室・虹色ねっと・フードバンク（子ども・子育て）
- ・民生委員・児童委員・福祉員（基礎自治会から選出主に見守り活動）・周南市社会福祉協議会（地区社会福祉協議会）
- ・社会福祉協議会、しゅうなん若者サポートステーション・相談員（ひきこもり支援）
- ・民生委員・福祉員・もやい地区ステーションコーディネーター・ケアマネージャー・各サービス事業所・地区社会福祉協議会（地域包括支援センター）
- ・民生委員・地域社会福祉の担当の方（地区防災組織）
- ・地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員（更生保護女性会）

3 地域課題に取り組むための地域の担い手を増やすには、どのようにしたらよいとお考えですか

- ・各地区の自治会ももっと真剣に考えること他人ごとでは？自治会の解散もあるように聞く。
- ・いずれは我が身の啓発活動、地域が一体となって。
- ・一緒に参加して頂き、理解してもらうことが一番です。
- ・各種学校の生徒らに積極的に地域にかかわってもらう。
- ・毎週サロンを開いているが、福祉員さんや、参加している方にも手伝ってもらって、続けることができる。参加者の方にも声かけして主体的に動いて頂けるように心がけている。

- ・様々な年代で問題を共有し、それぞれができる事で支えあう「子供食堂に高齢者も行ける」など。
- ・楽しむ大人が人をまきこめる、ノルマになる決まりが多いなどはムリ。お茶会くらいでゆるく、学び交流し合える場づくりが大切。
- ・小・中・高の福祉教育。
- ・地域デビューのきっかけづくり。講演会の開催。(市や市社協と地域の共催)身近なボランティア活動の募集。(コミュニティ推進協議会)身近で頑張っている人や団体を紹介し、あらゆる場面で広報活動していく。
- ・地域の状況等を若い人たちに理解してもらうためには地域毎に交流会をして理解してもらう。

4 地域福祉をすすめるために取り組むべきことについてお伺いします

(1) 地域課題に対して、行政が取り組むべきことは何だとお考えですか。

- ・各市町村の公務員が定年する時、天下りをせず福祉活動に協力すること、他人事である。
- ・身近な問題を取り入れる事ができる組織づくり。
- ・住民が抱えている問題に対応できる窓口を市民に分かりやすく伝える。
- ・私達民生委員の仕事のひとつは住民の困り事と行政や関係機関につなぐ役目なので、住民の困り事をしっかり聞いて解決できるようにしてほしい。
- ・移動支援。
- ・分かりやすい相談窓口。部局・課を超えた連携。
- ・地域を見に来て座談会。情報リテラシーの向上に向け、他分野で発信をしていく。
- ・地域の民間団体の意見を聞きとり入れること。
- ・地域活動に必要な情報の提供・共有。地域活動が円滑に行えるための人材の支援。
- ・住民団体の活動を推進することは大切だが、必要な場合は予算化して、支えられるようにしていく。
- ・地域の支所等に相談担当の専門者を置く。地域の人が行きやすい場所にする。
- ・住民参加で、地域の課題等話し合う場が必要だと思います。しかし、現在は皆忙しく、話し合う時間等もないのでは。

(2) 地域課題に対して、地域の組織・団体が取り組むべきことは何だとお考えですか。

- ・地域コミュニティ団体（現在の）の活動見直し。
- ・横のつながり。近所とのコミュニケーション・地域での集まる場所等ほしい。
- ・サービスのコーディネート・組織づくりの支援。
- ・地域にもいろいろな団体と協働や連携をして活動してきたが、地域の婦人会や寿会（老人クラブ）などなくなる自治会もでてきた。自治会活動の見直しも必要。
- ・集まれる場所の確保。
- ・行政との連携・地域団体との連携強化。
- ・課題を自分事、みんな事にして巻きこむ。まず動く。気軽に来やすい雰囲気づくり。場づくり。
- ・行政では出来ないことを行う。

- ・見守り活動の継続と情報の共有。地域での助け合い支え合いの仕組みづくりの推進。集いの場の提供。
- ・既存の団体が継続できるよう、支援を強化する。
- ・コミュニティソーシャルワーカーを設置してほしい。

(3) 地域課題に対して、地域住民が取り組むべきことは何だとお考えですか。

- ・住民相互の互助。無関心の高齢者の男性が多い。
- ・お互いが相手の事を思いやる心を育てる。その必要性を子供にも。
- ・若手の理解。
- ・自分ができるボランティアに積極的に参加する、町内会の行事等に参加する。
- ・私自身が民生委員を引き受けた時には残っていた班（自治会内）の活動がなくなり、隣の人が亡くなってわからないような状態になってきている。個人情報という言葉に自治会内の名簿も新しく作れないような状態で自治会に入らない人もでてきている。災害が起きた時を考えると心配である。
- ・お互いの親を知っておくこと。
- ・互助の精神。
- ・何かあれば出ていく。出向く。出会いに行く。声をかけられる人を知る。顔見知りを増やす。
- ・声を上げること、困っていることを伝える。
- ・助け合い支え合いの相互支援。例にあった、「近隣者と顔が見える関係性を続ける、地区の行事等に参加しつながりを持つ」のとおり：基礎自治会に関心を持つことが大切。
- ・住民自身が、心身ともに健康で暮らせるよう、自己管理に努めていけるようにする。
- ・地域の人々と顔見知りになるため行事を行ない地域の人すべてに知らせ、集まる様に支援する。
- ・個人的には、自治会単位で、取り組むのが、一番身近だと思いますが、現状、自治会も高齢化等で、機能をしていないのでは。

5 貴団体の活動を続けていくうえで、今後どのような工夫が必要とお考えですか。

- ・地区の自治会館は自分達で運営、連携、修理、他費用がかかるので、使用料などとしている所が多いので色々な活動に使いにくい。予算がない。
- ・今以上に集いの場を広げる必要がある。(もっと身近な場所で)
- ・各地域の保護司を増やし活動の充実を図る。
- ・民生委員活動に積極的に取り組んでもらうためには仕事を持っている委員さんが活動しやすい時間帯に会議や研修を設ける必要がある。
- ・地域包括支援センターとして地域へ出向き、認知症サポーターや高齢者の事を知ってもらう。
- ・幅広い世代、男女が役員としてもしくは、サポーターとして関わってもらえる取り組み。
- ・できることを続ける。できそうなことから挑戦する。他よりいいところ取り。(真似する)次はできないと思えば選択肢から外す。声を出しアピール。常に感謝する。
- ・若者の参加率を高める。
- ・役員・理事などの福祉課題の共有。団体活動が楽しくできる環境づくり。
- ・ひきこもり支援について段階に応じた支援者育成の研修プログラムの実施。
- ・業務が多いため、事務作業の効率化や職員数を増やせるよう、取り組んでいく。

- ・自主防災の活動については一般の方に頻回に研修会交流会をひらき、知識の底上げをする事。

6 その他、地域福祉の推進に必要なと思われる内容等がございましたら、ご記入ください。

- ・明日は我が身。
- ・どの団体も高齢化が進み、子育て世代にも参加できる活動を模索していく必要がある。
- ・自治会等、地域ごとに小集団のコミュニケーション組織を多数作る。地域他団体との協働が必要。
- ・多職種や団体が参加して課題を話し合う場、地域団体としては相談する場、つなぐ場が明確であること。
- ・横のつながり。手を取りあい協力し合える関係性、強みと弱み、共に魅力として認め合いつながり合えると、良い関わりにつながると考えます。個別にたくさんのことをするより、それぞれが手を取り合い協力し合えたらいいですね。
- ・必要な事業に対して予算をつけること。
- ・リーダーの発掘、育成、自主財源の確保。
- ・地域住民の力で介護サービスの不足を補い合えるとよいが、地域全体が高齢化しており、限界もある。周南公立大の学生など、若い力を生かしていけるように、有効に活用できると良い。
- ・高齢者となって運転免許証を返納した後の支援が不十分で日常生活も困っている。身近な支援が必要。災害時、避難所に入っている時の医師への受診や買物等に外出する時、どのような支援があるのか分からないため困っている。

4 相談支援機関調査結果

■調査のまとめ

○ 相談内容や支援対象者の傾向について

最近の相談内容や支援対象者の傾向について「対象者だけではなく、世帯全体への支援の必要なケースが増えている」、「地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている」が最も多く、次いで「分野をまたがる複合的な福祉課題を抱える個人や世帯が増えている」が多くなっています。

また、8割以上の支援機関が「制度の狭間」や「複合的課題」といった福祉課題を抱えた個人や世帯から、相談を受けた経験があると回答しており、その福祉課題が通常関わる業務範囲以外の内容である場合、ほとんどの支援機関が「福祉課題を抱えた個人等に市の担当部署や相談支援機関を伝え、担当部署等へ相談してもらうよう促している」「福祉課題に合致する市の担当部署や相談支援機関に情報を伝えるなどの対応をしている」といった対応を行っています。

世帯全体への包括的支援が求められている中、増加する複合的な課題への対応力向上と相談窓口の連携強化が必要です。

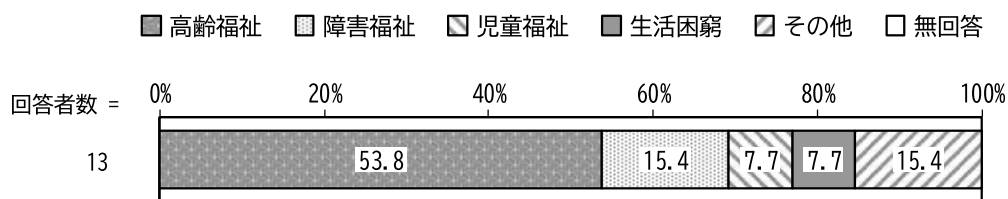
○ 市の担当部署や相談機関・施設との連携について

支援機関の7割は、市の担当部署や相談機関・施設との連携はスムーズに行われていると感じていますが、「連携に必要な市の担当部署や相談支援機関・施設などが地域に少ない」や「どのように（どこと）連携すればよいかわからない」といった意見もありました。

また、「もやいネットセンター」の機能について、半数以上の支援機関が「福祉課題に対応できている」と回答しています。複合する課題に対しては、分野別の支援制度だけではなく、「もやいネットセンター」を中心として、分野を超えた支援体制の充実を図るとともに、相談支援機関の中核としてコーディネートする機能の充実が必要です。

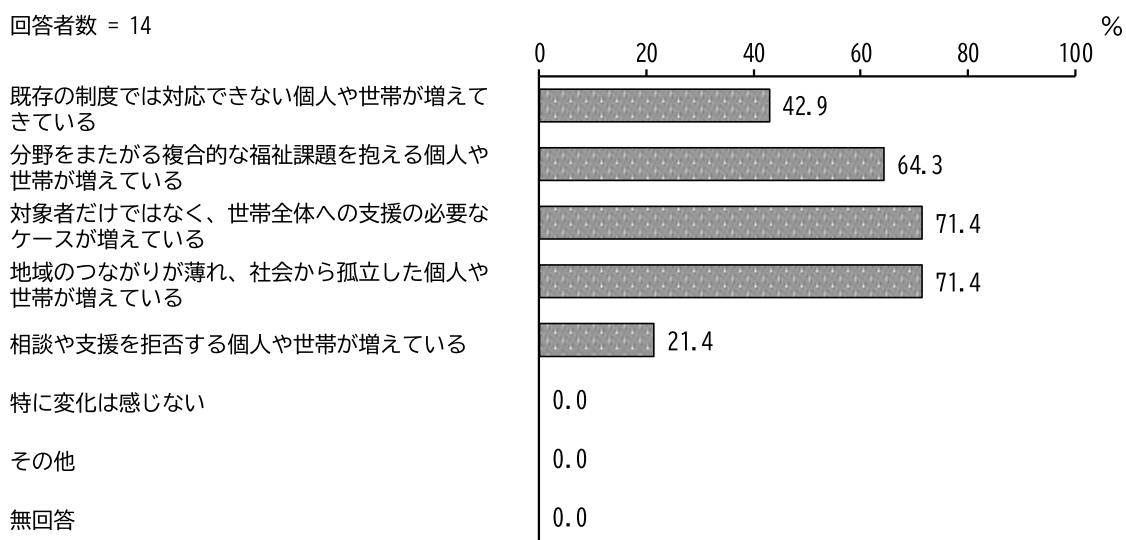
通常業務で関わる主な福祉分野（○は1つだけ）

「高齢福祉」の割合が53.8%と最も高く、次いで「障害福祉」の割合が15.4%となっています。



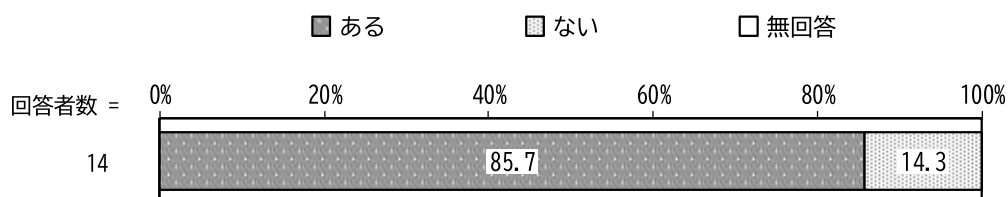
問1 最近の相談内容や支援対象者の傾向について、どのように感じますか。 （○はいくつでも。「その他」にも自由にお書きください）

「対象者だけではなく、世帯全体への支援の必要なケースが増えている」、「地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている」の割合が71.4%と最も高く、次いで「分野をまたがる複合的な福祉課題を抱える個人や世帯が増えている」の割合が64.3%となっています。



問2 「制度の狭間」や「複合的課題」といった福祉課題を抱えた個人や世帯について、相談を受けたことがありますか。（○は1つだけ）

「ある」の割合が85.7%、「ない」の割合が14.3%となっています。

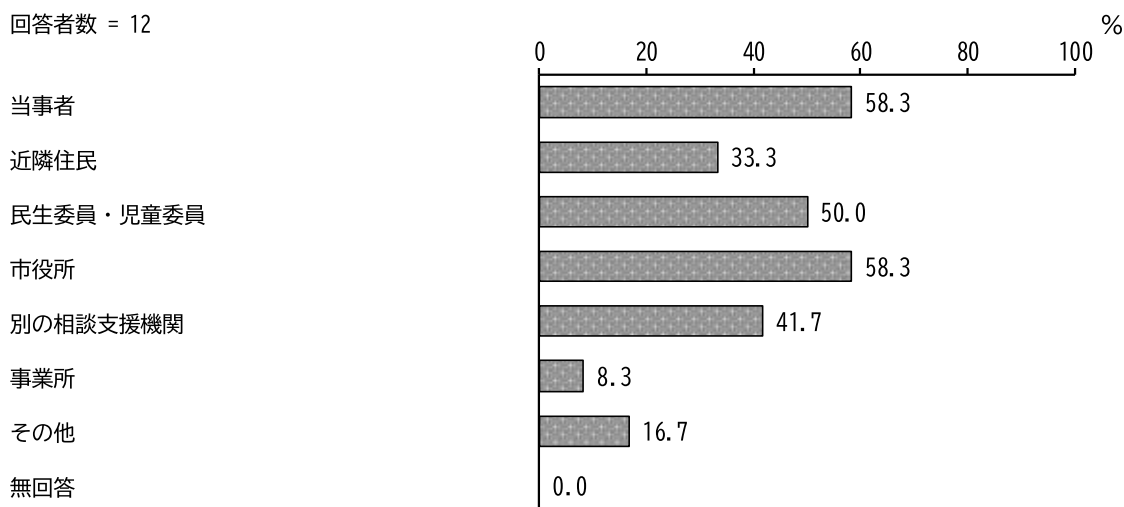


問2で「ある」とお答えの方におうかがいします。

問2－1 問2のような相談内容は、どこから受けることが多いですか。(〇はいくつでも)

「当事者」、「市役所」の割合が58.3%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員」の割合が50.0%となっています。

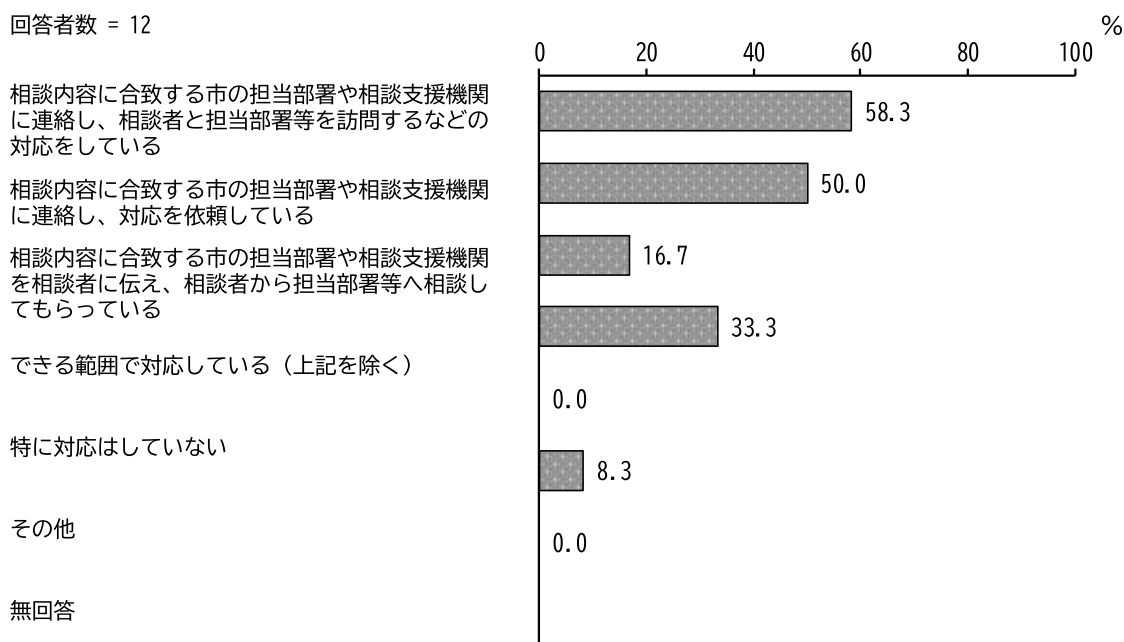
回答者数 = 12



問2－2 受けた相談が通常関わる業務範囲以外の内容である場合、どのように対応していますか。(〇は2つまで)

「相談内容に合致する市の担当部署や相談支援機関に連絡し、相談者と担当部署等を訪問するなどの対応をしている」の割合が58.3%と最も高く、次いで「相談内容に合致する市の担当部署や相談支援機関に連絡し、対応を依頼している」の割合が50.0%、「できる範囲で対応している（上記を除く）」の割合が33.3%となっています。

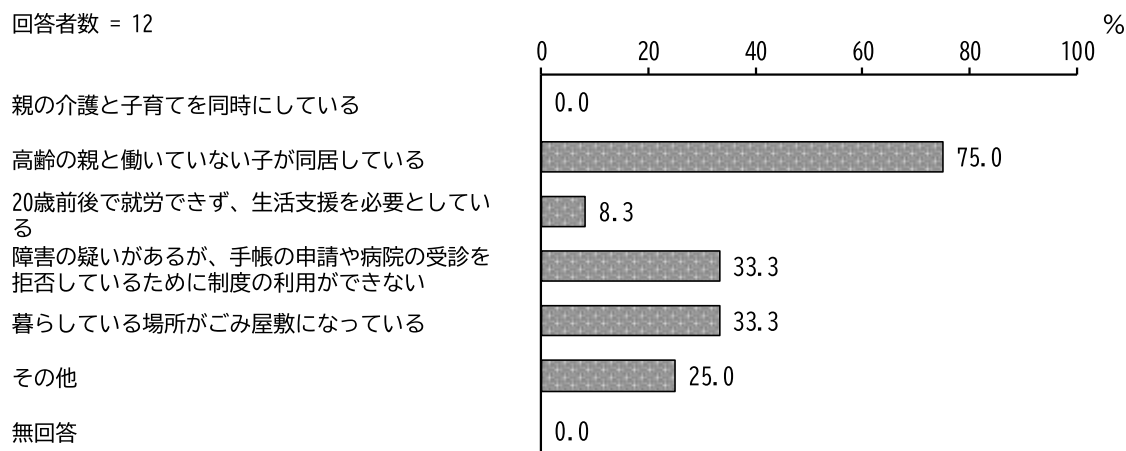
回答者数 = 12



問2-3 受けた相談内容は、具体的にどのようなものですか。(○は2つまで)

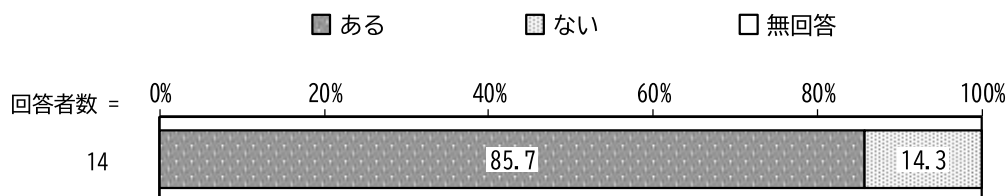
「高齢の親と働いていない子が同居している」の割合が 75.0%と最も高く、次いで「障害の疑いがあるが、手帳の申請や病院の受診を拒否しているために制度の利用ができない」、「暮らしている場所がごみ屋敷になっている」の割合が 33.3%となっています。

回答者数 = 12



問3 普段の業務の中で、通常関わる業務範囲以外の福祉課題を抱えた個人や世帯に気付いたり、発見したことがありますか。(○は1つだけ)

「ある」の割合が 85.7%、「ない」の割合が 14.3%となっています。

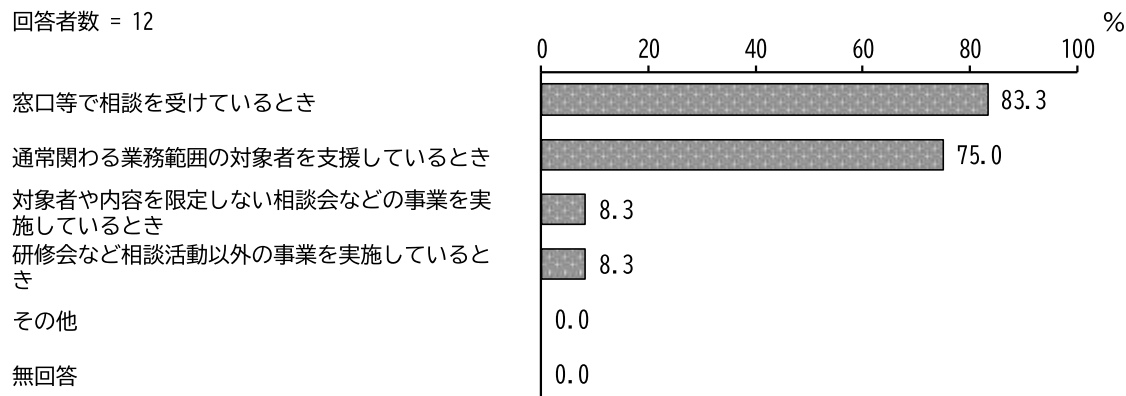


問3で「ある」とお答えの方におうかがいします。

問3-1 それはどのような場面ですか。(○はいくつでも)

「窓口等で相談を受けているとき」の割合が 83.3%と最も高く、次いで「通常関わる業務範囲の対象者を支援しているとき」の割合が 75.0%となっています。

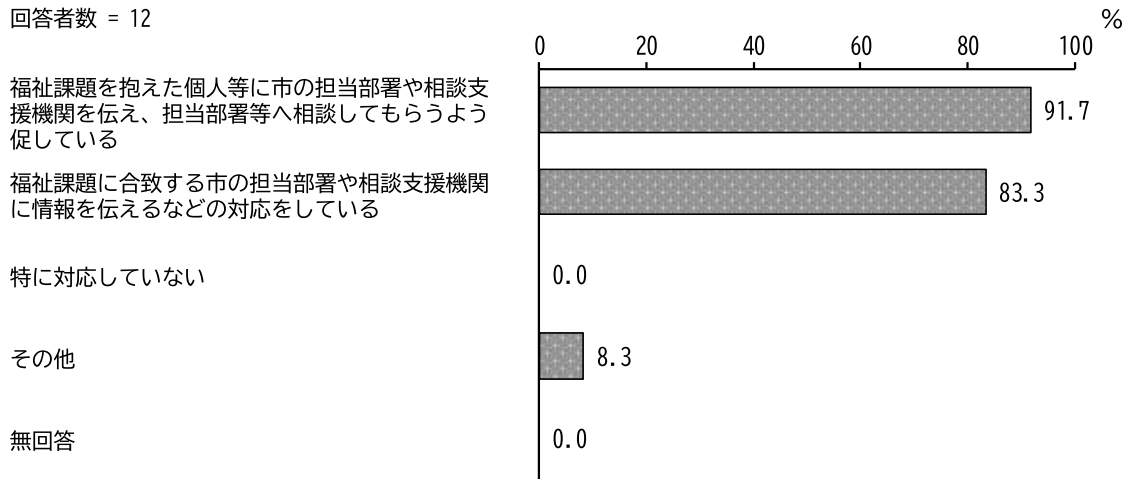
回答者数 = 12



問3－2 個人や世帯が抱える福祉課題が通常関わる業務範囲以外の内容である場合、どのように対応していますか。(〇は2つまで)

「福祉課題を抱えた個人等に市の担当部署や相談支援機関を伝え、担当部署等へ相談してもらうよう促している」の割合が 91.7%と最も高く、次いで「福祉課題に合致する市の担当部署や相談支援機関に情報を伝えるなどの対応をしている」の割合が 83.3%となっています。

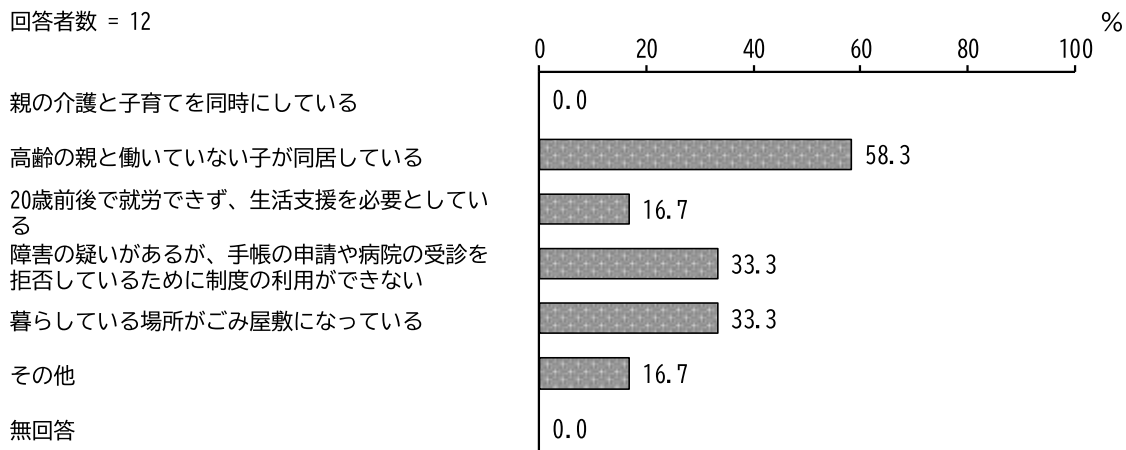
回答者数 = 12



問3－3 気付いたり発見した福祉課題は、具体的にどのようなものですか。(〇は2つまで)

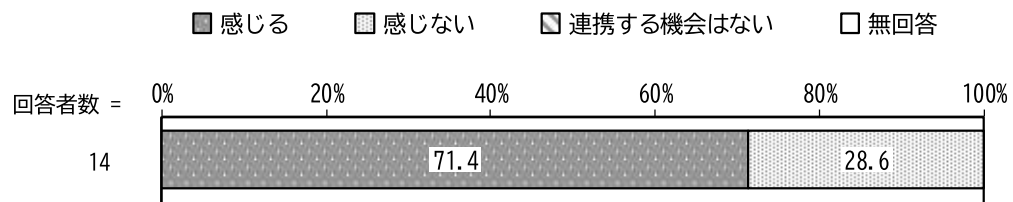
「高齢の親と働いていない子が同居している」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「障害の疑いがあるが、手帳の申請や病院の受診を拒否しているために制度の利用ができない」、「暮らしている場所がゴミ屋敷になっている」の割合が 33.3%となっています。

回答者数 = 12



問4 相談者への支援にあたって、通常関わる業務範囲以外の市の担当部署や相談機関・施設と連携する必要があるときに、連絡や連携はスムーズに行われていると感じますか。
(○は1つだけ)

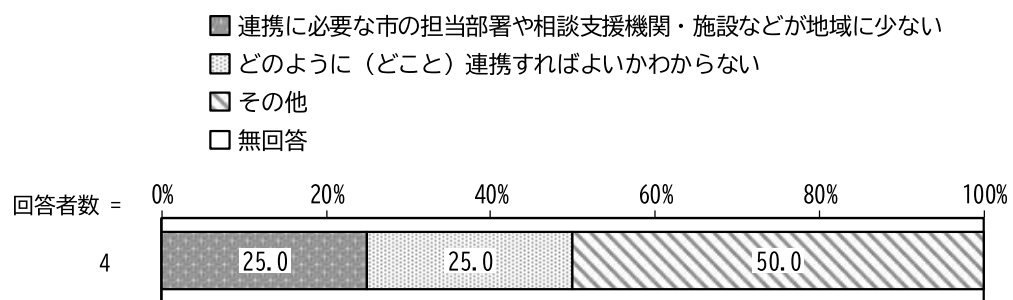
「感じる」の割合が71.4%と最も高く、次いで「感じない」の割合が28.6%となっています。



問4で「感じない」とお答えの方におうかがいします。

問4-1 その理由として最もあてはまるのは何ですか。(○は1つだけ)

「連携に必要な市の担当部署や相談支援機関・施設などが地域に少ない」が1件、「どのように(どこ)連携すればよいかわからない」が1件となっています。



問5 「制度の狭間」や「複合的課題」といった福祉課題にも対応するため、周南市では福祉総合相談窓口として「もやいネットセンター」を設置しています。「もやいネットセンター」の機能について、どのように評価されますか。(○は1つだけ)

「福祉課題に対応できている」の割合が57.1%と最も高く、次いで「福祉課題に十分対応できている」、「福祉課題にあまり対応できていない」、「わからない」の割合が14.3%となっています。

